

Adobe Illustrator® Plug-ins

組版 ROBO 3 バーコード ROBO 3

ユーザ・マニュアル

Power Macintosh , Windows95/98/NT共通

「バーコード ROBO 3」には「組版 ROBO 3」の全機能が含まれています。
「組版 ROBO 3」にはバーコード機能は含まれていません。

はじめに

このたびは、Adobe Illustrator プラグインモジュール「組版 ROBO 3」または「バーコード ROBO 3」をお買い求めくださいます。誠にありがとうございます。
本マニュアルでは、OS、プリンタドライバ、フォント、および Adobe Illustrator (7.0以降)などのソフトウェアが既に適切にセットアップされ、これらの取り扱いを一通り習得されていることを前提にしています。これらのソフトウェアについては各付属のマニュアル類を参照してください。

パッキングリスト

このパッケージには以下のものが含まれています。

- 1) 「組版 ROBO 3・バーコード ROBO 3 ユーザ・マニュアル」(本マニュアルです)
- 2) ユーザ登録カード
必ず楷書でご記入の上ご返送ください。登録ユーザの方は各種サポートをお受けになれます。また、ディスクによる無償アップデートがある場合の送付先になりますので、途中で変更が生じた場合にも必ずご連絡ください。
- 3) 「組版 ROBO 3」または「バーコード ROBO 3」のディスク

「バーコード ROBO 3」には「組版 ROBO 3」の全機能が含まれています。
「組版 ROBO 3」にはバーコード機能はございません。

使用法

先ず、本マニュアル「インストール方法」の章をご覧ください。

お問い合わせ

本マニュアル「サポート」の章をご覧ください。

本マニュアルの補足または訂正等が「組版 ROBO 3」または「バーコード ROBO 3」のディスク内のファイルとして追加されている場合があります。その場合は必ずディスク内のファイルの方も合わせてお読みください。

ソフトウェアライセンス

使用許諾契約

- 1) このパッケージにおさめられているコンピュータ・ファイル（以下本ソフトウェア）および付属書類等のすべての著作権は、有限会社ナカエソフトウェア開発（以下弊社）にあります。
- 2) 本ソフトウェアをデコンパイル、リバースエンジニアリング、逆アSEMBルするなど本プログラム以外の形式に変換することは禁止します。
- 3) 本ソフトウェア、あるいはその一部を修正、改作、賃貸、リース、販売または本ソフトウェアあるいはその一部に基づく派生的製品の製作をおこなうことはできません。
- 4) バックアップ目的以外に本ソフトウェアの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- 5) 本ソフトウェアは、コンピュータ 1 台につき 1 セット購入が原則になっております。

製品の保証

本ソフトウェアが記録されているメディアの不良により本ソフトウェアを正常に使用できない場合は、本ソフトウェア購入後 90 日以内であれば、弊社の責任において本ソフトウェアが記録されているメディアのみ無償で正常なものと交換させていただきます。ただし、本ソフトウェアを運用した結果の影響についてはいっさい責任を負いかねます。

終了

本ライセンスは、その終了時まで有効です。本ライセンスの条項に従わなかった場合には、弊社からの通知を要することなく本ライセンスは直ちに終了します。終了時には、本ソフトウェア、付随する全ての書面およびそれらの複製物を破棄しなければなりません。本ソフトウェアおよびそのすべての複製物を破棄することにより、いつでも、本ライセンスを終了させることができます。

1994-1998 (有)ナカエソフトウェア開発 All rights reserved.

Adobe Illustrator, PostScript は Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。

Power Macintosh, MacOS は Apple Computer, Inc. (アップルコンピュータ社) の商標です。

Microsoft, Windows, MS-DOS は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標であり、WindowsNT は同社の商標です。

ファイルメーカーは FileMaker, inc. (ファイルメーカー社) の商標です。

その他全てのブランド名または製品名はそれらの所有者の商標もしくは登録商標です。

また、マニュアルおよびサンプルファイルなどに登場する会社名、氏名、住所などのデータはすべて架空のもので、実在する企業、人物などには一切関係ありません。

目次

はじめに	3
ソフトウェアライセンス	4
目次	5
インストール方法	6
組版 ROBO・レコード順次取り込み	8
プリセットメニューについて	26
組版 ROBO・レコード一括取り込み	28
組版 ROBO・レコード逐一取り込み	39
利用可能なデータベースファイルについて	49
組版 ROBO・テキスト自動調整	52
バーコード ROBO・JAN/EAN13	55
バーコード ROBO・JAN/EAN8	60
バーコード ROBO・UPC(A)	65
バーコード ROBO・UPC(E)	70
バーコード ROBO・書籍 JAN,ISBN/分類価格コード	75
バーコード ROBO・NW7	80
バーコード ROBO・CODE39	85
バーコード ROBO・CODE128	90
バーコード ROBO・ITF	95
バーコード ROBO・2of5	100
プリセットメニューについて	105
バーコードを印刷する際の注意	107
バーコードを使用する際の注意	108
対応バーコードについての概要	109
バーコードに関する参考文献	111
サポート	112
問い合わせ用紙	113

インストール方法

「組版 ROBO 3」または「バーコード ROBO 3」は PowerMacintosh 版または Windows95/98/NT 版の Adobe Illustrator バージョン 7.0 以降（以下単に Illustrator）の上で動作するプラグイン・モジュール形式のソフトウェアです。本ソフトウェアを正しく動作させるために、必ず次の手順に従ってインストールを行なってください。

- 1) Illustrator が起動中なら、いったん終了してください。
- 2) 「組版 ROBO 3」または「バーコード ROBO 3」のディスクをドライブに挿入してください。

Macintosh 版の場合：

- 3) ディスク内のウィンドウが開いたら、その中の圧縮ファイル「組版 ROBO 3.sea」または「バーコード ROBO 3.sea」という名前のアイコンをダブルクリックしてください。
- 4) 「Continue」のボタンを押すと保存先を聞いてきますから、空きが充分にあるハードディスク内をターゲットにし、「保存」のボタンを押してください。

Windows 版の場合：

- 3) ディスク内のウィンドウが開いたら、その中の圧縮ファイル「組版 ROBO 3」または「バーコード ROBO 3」という名前のアイコンをダブルクリックしてください。
- 4) 出力先を聞いてきますから、空きが充分にあるハードディスクを選択し、「OK」のボタンを押してください。

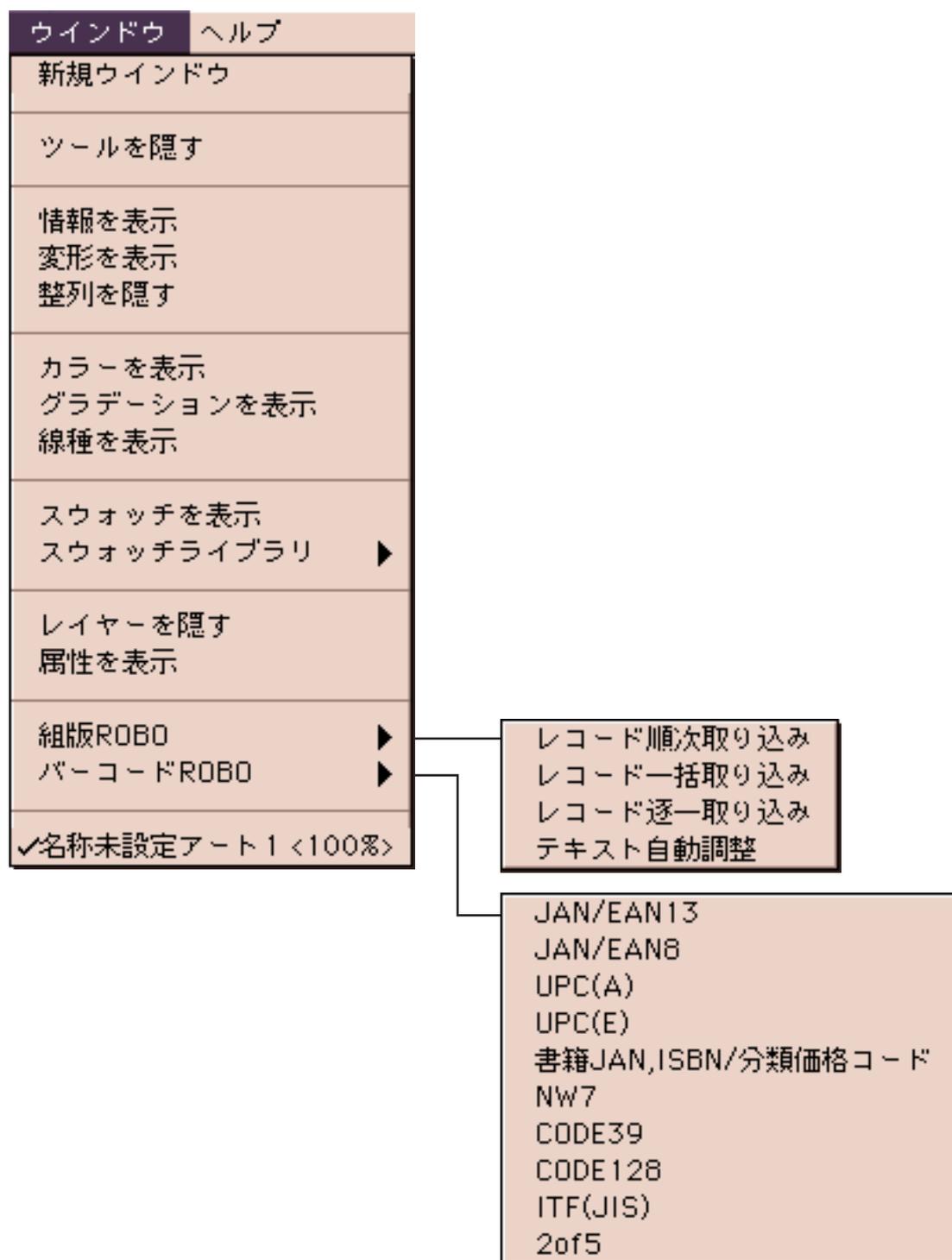
以下 Macintosh/Windows 版共通

- 5) 展開が終わると、展開先に選んだハードディスク内に「組版 ROBO 3」または「バーコード ROBO 3」のフォルダができています。
- 6) 「組版 ROBO 3」または「バーコード ROBO 3」フォルダを開き「ROBO3 プラグ」フォルダだけを選択し、そのままフォルダごとドラッグして Illustrator の「プラグイン」（Windows の場合は「Plug-ins」）フォルダへ入れてください。（このフォルダは通常 Adobe Illustrator アプリケーション本体があるフォルダ内にあります。）
- 7) Illustrator を起動してください。
- 8) Illustrator の「ウインドウ」メニューに次ページに示すアイテムが追加されているはずですが、もしそうでなければ、以上の手順通りでないか、Illustrator 自体が正しくインストールされていない可能性があります。（ただし、「組版 ROBO 3」では「バーコード ROBO」のメニュー項目は追加されません。）

「組版 ROBO 3」または「バーコード ROBO 3」の個々の使い方については本マニュアルの該当ページをご覧ください。

なお、本マニュアル中の記述において、特にことわりがない限り Illustrator とは Adobe Illustrator バージョン 7.0 以降のことを指します。

「ROBO3 プラグ」フォルダ内のファイルおよびファイル構成を直接操作しないでください。



上の図は「バーコード ROBO 3」をインストールしたときのものです。「組版 ROBO 3」では「バーコード ROBO」のメニュー項目は追加されません。

組版 ROBO・レコード順次取り込み

何ができるか？

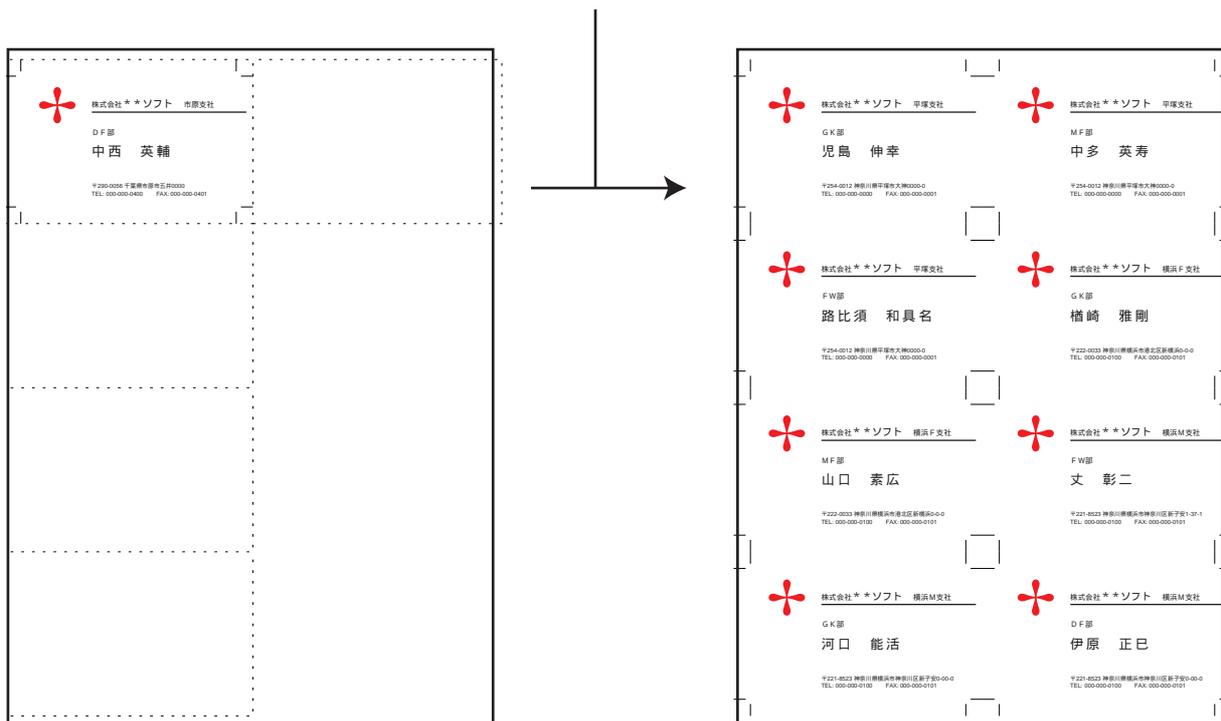
単純な表組や同一会社の複数社員の名刺を面付けするような場合に、データの取り込みを自動化します。名刺の顔写真を配置したり、「バーコード ROBO 3」を併用すれば会員証のバーコードデータをシンボル変換することも可能です。

どう動作するか？

たとえば、ページ上に一つの名刺のテンプレート（ひな形）を配置しておく、指定の社員名簿（タブまたはコンマ区切りのテキスト形式のデータベース）を順次取り込みながらテンプレート内容を置換または変換しながら各名刺を指定の行列数分だけ整列配置します。

	1	2	3	4	5	...
1	平塚支社	児島 伸幸	G K 部	〒254-0012	000-000-	...
2	平塚支社	中多 英寿	M F 部	〒254-0012	000-000-	...
3	平塚支社	路比須 和	F W 部	〒254-0012	000-000-	...
4	横浜 F 支社	榑崎 雅剛	G K 部	〒222-0033	000-000-	...
5	横浜 F 支社	山口 素広	M F 部	〒222-0033	000-000-	...
6	横浜 M 支社	丈 彰二	F W 部	〒221-8523	000-000-	...
7	横浜 M 支社	河口 能活	G K 部	〒221-8523	000-000-	...
...
...

取り込みデータの表計算シート上でのイメージ



特徴

- ・オブジェクトに対する取り込みデータの割り当てや変更がライブでできる。
- ・割り当て作業はオブジェクトを選択してデータベース・フィールドのリストをダブルクリックするだけ。その際、どのオブジェクトにどのデータを割り当てたかの目視用のタグを付けることもできる。
- ・Illustrator 書類上に割り付けアウトラインをプレビューできライブで位置決め調整が可能。
- ・設定をセットメニュー化できるので作業メンテナンスが楽。
- ・一度開いたデータベース・ファイルは履歴メニューとして残るので次回オープンが楽。
- ・EPS 画像だけでなくラスター画像の置換 / 変換配置も可能。また、画像の置換は基本変形（回転やシアーなど）を受け継ぐ
- ・「バーコード ROBO 3」を併用すればバーコードデータのシンボル変換も可能。
- ・Macintosh か Windows で作成されたテキストデータを互いに無変換でも取り込み可能。
- ・「テキスト自動調整」機能の併用可能。
- ・取り込み後の Illustrator 書類に順次名前を付けて保存する自動運転（バッチ処理）が可能。

取り込みデータの最大値

- ・ 1 ファイルあたりの最大レコード数： 32767
 - ・ 1 レコードあたりの最大フィールド数： 1024
 - ・ 1 フィールドあたりの最大文字数： 半角換算で 5460 文字、全角換算で 2730 文字*
- * データベースソフトでこれ以下の制限がある場合もありますが、普通のテキスト編集ソフトでは可能な文字数です。

これらを表計算シート上のイメージであらわすと次のようになります。

	1	2	3	1024
1	平塚支社	児島 伸幸	G K 部
2	平塚支社	中多 英寿	M F 部
3	全角2730文字	半角5460文字
4
5
6
...
...
32767

表計算シート上のイメージ

テキストオブジェクトだけの使用例

- ・「名刺例」フォルダにある Illustrator ファイル「名刺.ai」を開いてください。
ここでは「支社名」「部署名」「氏名」「住所」「電話番号」「ファクス番号」のテキストオブジェクトへ外部のテキスト形式のデータベースの文字列を取り込み、1ページ当たり2×4枚の名刺を割り付けてみます。（「どう動作するか？」の図参照）
- ・「ウインドウ」メニューから「レコード順次取り込み」を選んでください。
図のようなパレットが現れます。
- ・パレットの「取込ファイルの指定」ボタンをクリックしてください。
- ・ダイアログが現れたら「名刺例」フォルダにある「名刺データ.txt」を開いてください。
- ・パレットの区切り指定を「タブ区切り」にしてください。
「名刺データ.txt」はテキスト形式のデータベースファイルです。

*ここで利用できるデータベース・ファイルの一般的な構成や「レコード」「フィールド」などの用語についてはこの章の最後にある「利用可能なデータベースファイルについて」をご覧ください。

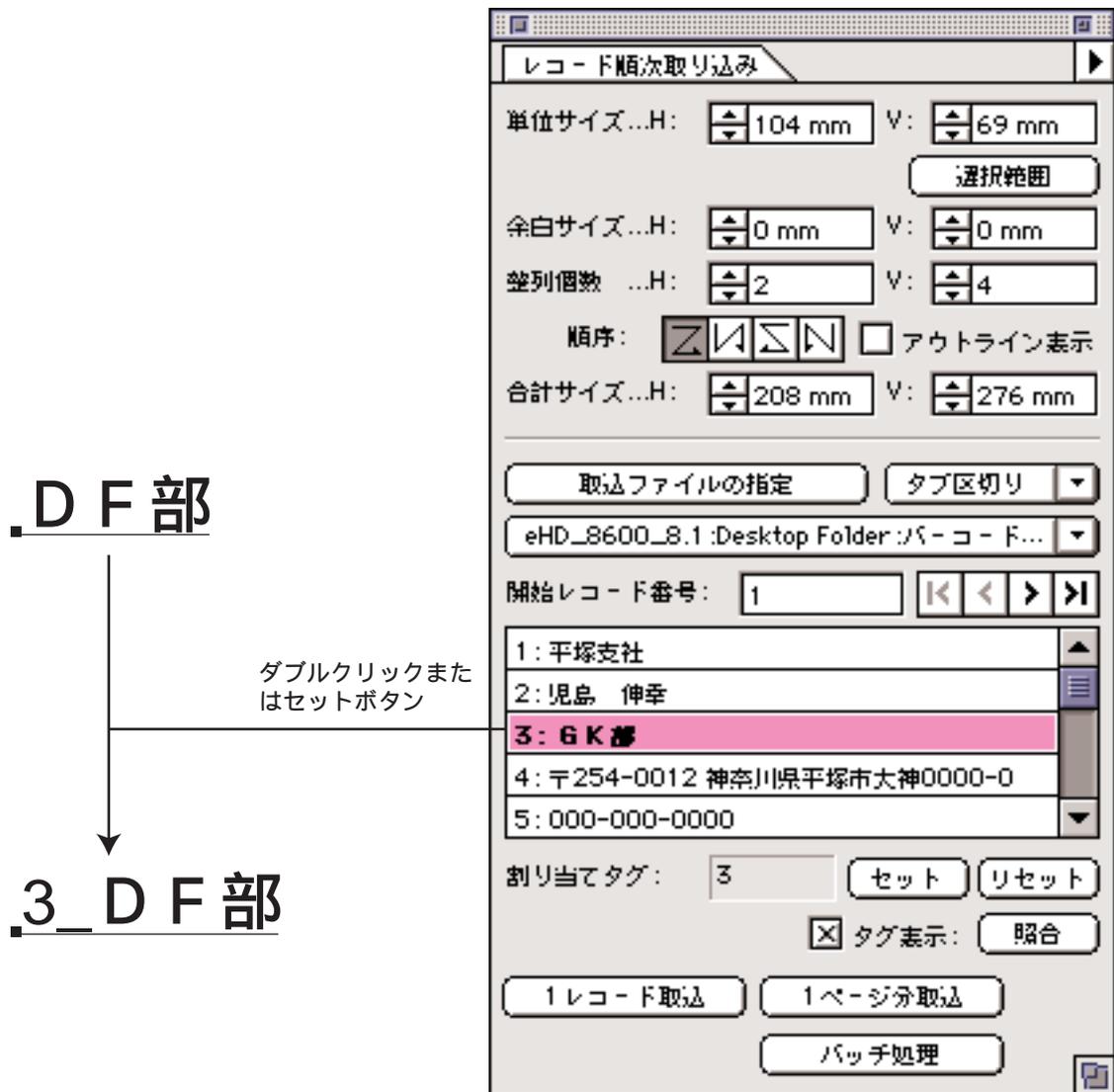
次ページの図のようにパレット中央のリストにテキストデータが表示されます。
リスト左端の数字「3:」などは表示レコードのフィールド番号です。

さて、この個々データを取り込む前にもどのオブジェクトに何番目のフィールドを取り込むかを指定しておかなければなりません。これを「割り当て」と呼ぶことにします。

- ・「タグ表示」をチェックしてください。
- ・名刺の右上にある「市原支社」だけを選択してください。
- ・とりあえずパレットのレコード番号を1にし、リストから第1フィールドの「平塚支社」を選択し、「セット」ボタンをクリックしてください。
「セット」ボタンをクリックするかわりにリスト行をダブルクリックしても結構です。
名刺の「市原支社」が「1_市原支社」に変わっているはずですが、ここではこの「1_」をタグと呼びます。また「割り当てタグ」欄に「1」と表示されているはずですが、これで、左上ブロックの支社名「市原支社」に「名刺データ.txt」の第1フィールドが割り当てられました。
- ・次に名刺の「DF部」を選択してください。



- ・パレットのリストの第3フィールドの「G K部」をダブルクリックしてください。
所属部署「D F部」に「名刺データ.txt」の第3フィールドが割り当てられました。



- ・同様に名刺の「中西 英輔」に第2フィールドを、名刺の「住所」に第4フィールドを、名刺の「000-000-0400」に第5フィールドを、名刺の「000-000-0401」に第6フィールドを割り当ててください。
これで割り当てが完了しました。

- ・次に整列の設定をおこないます。名刺全体をトンボも含めて選択してください。割り当てたオブジェクトだけでなく単に複製したい部分も選択します。
- ・パレットの「単位サイズ...H」、「V」を設定しますが、普通はオブジェクトの選択範囲を囲む長方形の水平、垂直サイズですので「選択範囲」ボタンをクリックしてください。「単位サイズ...」に入力されます。以下「H」は水平、「V」は垂直を表します。
- ・「余白サイズ...」はどちらも「0 mm」にしてください。ブロック間の空きを設定します。
- ・2 × 4個にしたいので「整列個数 ...H」を「2」、「V」を「4」にしてください。その下の整列

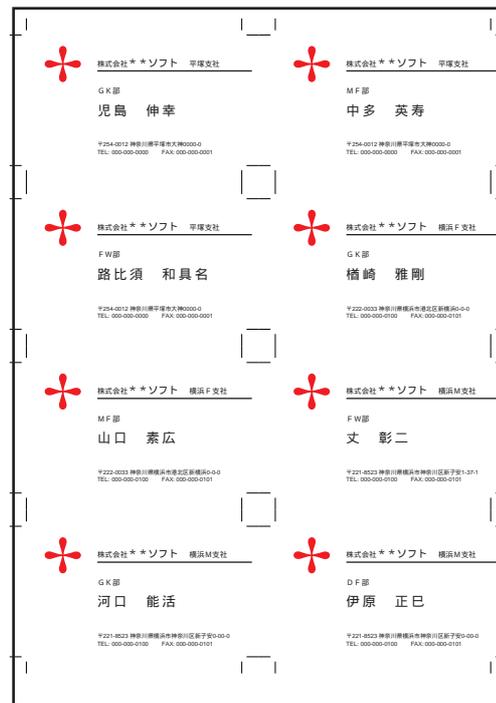
の取り込み順を決める「順序」は左端のボタンを選んでください。2行4列をアイコンのように水平左から順に埋めていきます。

- ・「アウトライン表示」をチェックしてください。ページ上にこれから取り込み複製される名刺のアウトラインが水平1行垂直1列分だけガイドで表示されます。このアウトラインのガイドは実行後は自動的に削除されます。(図)設定値を変更するとこのアウトラインもリアルタイムに変化します。
- ・「合計サイズ...」は計算値のままにしておいてください。これはアウトライン全体を囲む長方形の水平垂直サイズです。この値を増減すると「余白サイズ...」が自動的に増減します。
- ・以上で取り込みの準備ができましたが、「1ページ分取込」ボタンをクリックする前に、「開始レコード番号」を「1」にし「1レコード取込」ボタンをクリックしてみてください。
名刺の割り当て部分がデータベースの第1レコードのフィールドで置き換わるはずですが、また「開始レコード番号」が「2」になります。
さらに、そのまま「1レコード取込」ボタンをクリックしてみてください。第2レコードのフィールドで置き換わり「開始レコード番号」が「3」になります。何回か「1レコード取込」をクリックしてみてください。
- ・では1ページ分だけ取り込んでみます。「開始レコード番号」を「1」にもどし「1ページ分取込」ボタンをクリックしてください。
図のようにページ上に2×4枚の名刺が第1レコードから第8レコードまで取り込まれて整列しているはずですが、また「開始レコード番号」は次の取り込みレコードの先頭となる「9」に進みます。

そのままの状態での「 バッチ処理の例」へ進んでください。



実行前



実行後

バッチ処理の例（前ページの例からの続き）

今度はデータベースの全レコードを取り込みながら取り込んだ書類を次々と自動的に保存してみます。

- ・一回だけ Illustrator の「編集・取り消し」コマンド（アンドゥ）を実行し、いったん「名刺.ai」ファイルを取り込み直前の状態に戻してください。複数回アンドゥをすると割当状態も戻る場合があります。そのときは「編集・やり直し」コマンド（リドゥ）を実行すればよいでしょう。

割り当て操作は Illustrator の「編集・取り消し / やり直し」コマンドが効きます。

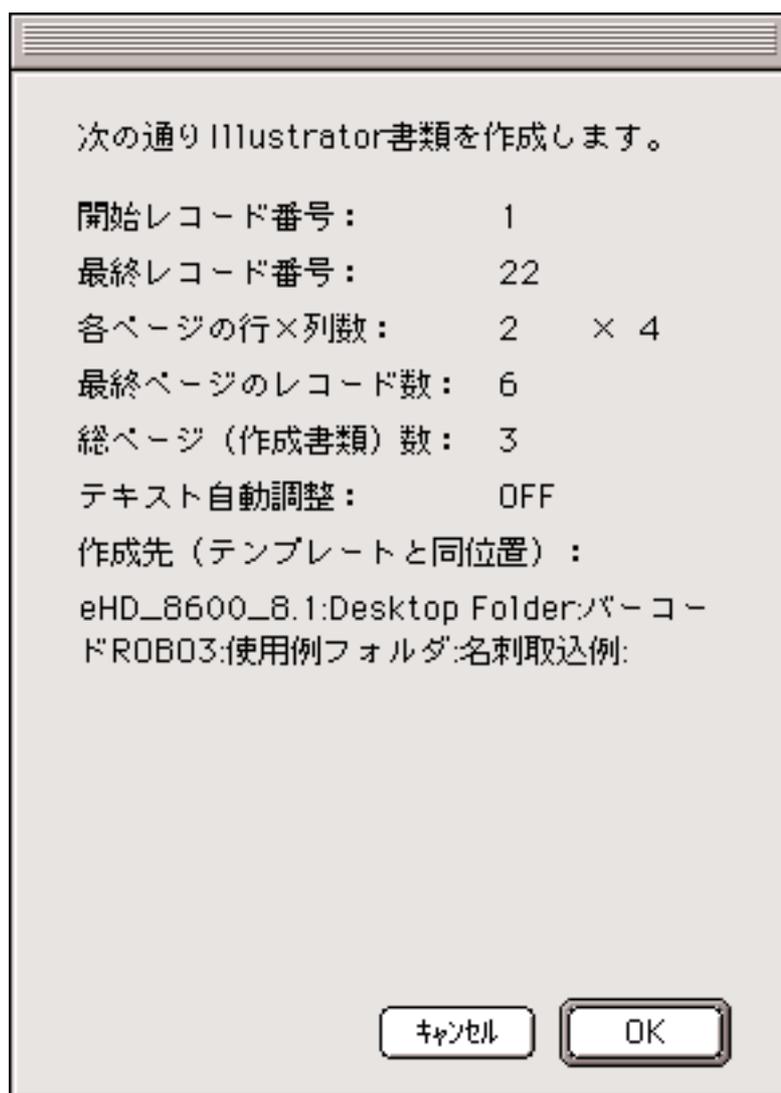
- ・テンプレートの名刺全体をトンボも含めて選択してください。割り当てたオブジェクトだけでなく単に複製したい部分も選択します。
- ・「開始レコード番号」を「1」にしてください。

ここまでの準備は先におこなった「1ページ分取込」とおなじです。

- ・「バッチ処理」のボタンをクリックしてください。
- ・処理内容を確認するダイアログが現れますから、よろしければ「OK」ボタンをクリックしてください。

今開いているテンプレート「名刺.ai」と同じフォルダ内に「#0001 名刺.ai」、「#0002 名刺.ai」、「#0003 名刺.ai」の3つの Illustrator ファイルが自動生成されます。試しに「#0001 名刺.ai」を開いてみてください。先に「1ページ分取込」で作成したものと同じ内容になっているはずですが、3つ目の「#0003 名刺.ai」は6レコードの取り込で終わっていますが、データベースが22レコードまでだからです。

- ・ここで、どれか取込済みの書類を開いておいてください。
- ・一度ページ上のオブジェクトの選択をすべて解除し、どれかの名刺



の「氏名」だけを選択してみてください。

- ・その状態でパレットを見てください。リストは第2フィールドが選択状態になっているでしょう。「割り当てタグ」欄には「2」と表示されているはずですが、他の割り当てオブジェクトでも試してみてください。個々のオブジェクトは、それぞれ割り当てられたフィールドを覚えています。

つまり、取り込み前に個々のオブジェクトに付いていたタグ「3_」などは単なる目印に過ぎないのです。また、取り込み実行後も各オブジェクトの割り当てはそのまま残ります。

したがって、この

タグ部分を打ち変えても割り当ては変更できません。

ところでタグが消えてしまうと一目で割り当て状況が掴めませんが、この

タグは簡単に表示したり消したりできます。

それを試してみます。

- ・ページ上の全てのオブジェクトを選択してください。
- ・パレットの「タグ表示」をチェックしてあることを確認し「照合」ボタンをクリックしてください。

オブジェクトが割り当て済みのものならタグが付けられます。

- ・オブジェクトの選択状態をそのままに、今度は「タグ表示」のチェックをはずしてください。選択中のオブジェクトのタグが消えます。

繰り返しますが、これらの操作は「割り当て」そのものに影響しません。

割り当てを解除するには対象オブジェクトを選択し「リセット」ボタンをクリックします。

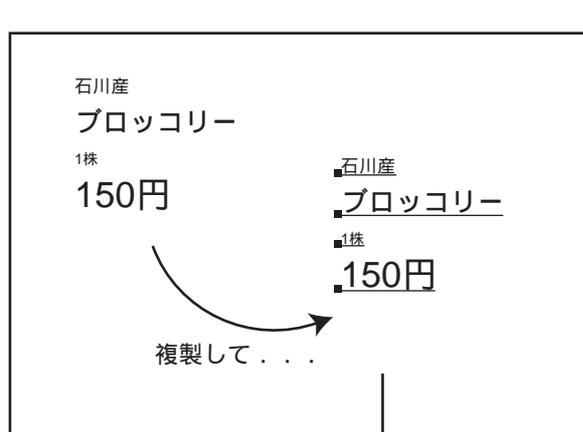
これは非常に大切なことを意味しています。すなわち、

取り込み後のオブジェクトに対しそのまま別レコードで上書きができる。

ということです。実は、このことは先ほどの「1レコード取込」ボタンで経験済みのことなのです。この例は「整列しない使用例」にありますので、必ずお試してください。

整列しない使用例

- ・「順次例」フォルダにある Illustrator ファイル「順次非整列.ai」を開いてください。
ここには「山形産」「さくらんぼ」「1パック」「680円」の4つのテキストオブジェクト（以下テキストグループ）があります。
- ・パレットの「取込ファイルの指定」ボタンをクリックして、「順次例」フォルダの「順次非整列データ.txt」を開いてください。
すでに「山形産」「さくらんぼ」「1パック」「680円」はそれぞれ第1、2、4、5レコードに割り当ててあります。タグの表示はしてありません。
- ・このテキストグループを選択して「開始レコード番号」を「1」にし「1レコード取込」ボタンを一度クリックしてください。
オブジェクトの内容が第1レコードのものに置き換わります。
- ・テキストグループを適当な位置にドラッグコピー*してください。コピー直後の選択状態を保ちます。



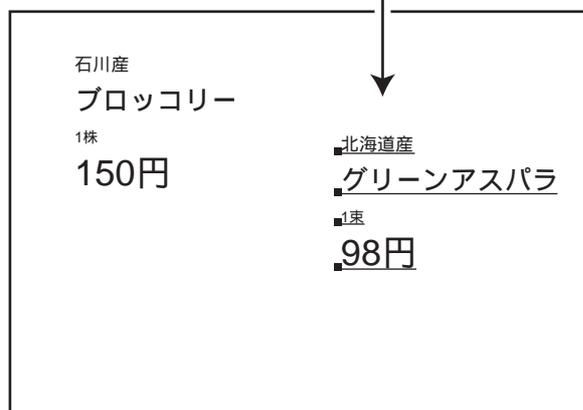
開始レコード番号:

1: 北海道産	▲
2: グリーンアスパラ	
3: 1束	
4: 98円	▼

割り当てタグ:

タグ表示:

「1レコード取込」ボタンをクリック



開始レコード番号:

1: 石川産	▲
2: 桃太郎トマト	
3: 1個	
4: 100円	▼

割り当てタグ:

タグ表示:

- ・「1レコード取込」ボタンを一度クリックしてください。
テキストグループの内容が第2レコードのものに置き換わります。
- ・この第2テキストグループを適当な位置にドラッグコピーして「1レコード取込」ボタンをクリックしてください。さらにこれらを何回か繰り返し試してください。
レコード番号は「1レコード取込」ボタンをクリックするごとに1ずつ増加しますが、適当なレコードを選んで行ってもかまいません。
また、取り込み済みのテキストグループの全体または一部を再選択し適当なレコードに差し替えることも可能です。

この例のように割当オブジェクトのひとまとめの複製を手動でおこない、1つ1つ確認しながら必要なレコードを取り込むことも、効率と手軽さのバランスを考えると非常に有効な使い方です。

* オブジェクトを選択ツールで選択し、MacintoshではOptionキーを、WindowsではAltキーを押下しながらドラッグして適当な位置で離すこと。

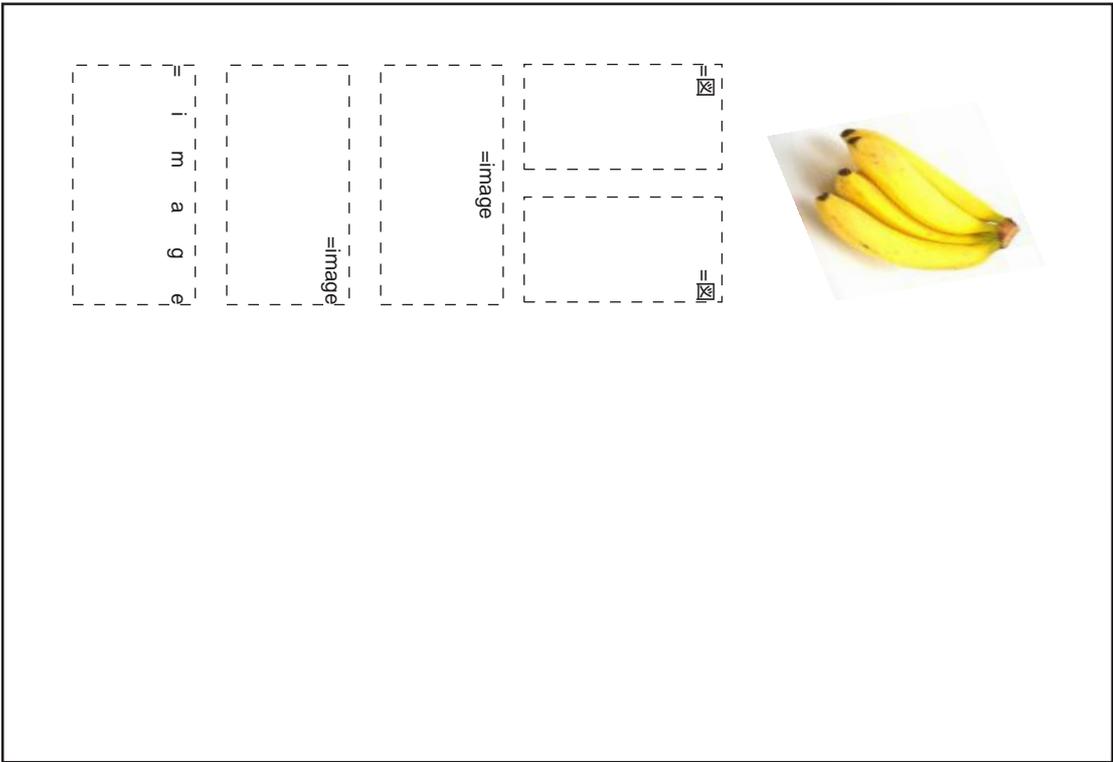
画像の取り込み例

この例を試す前に必ず先のテキストオブジェクトだけの使用例をよく読んで試しておいてください。

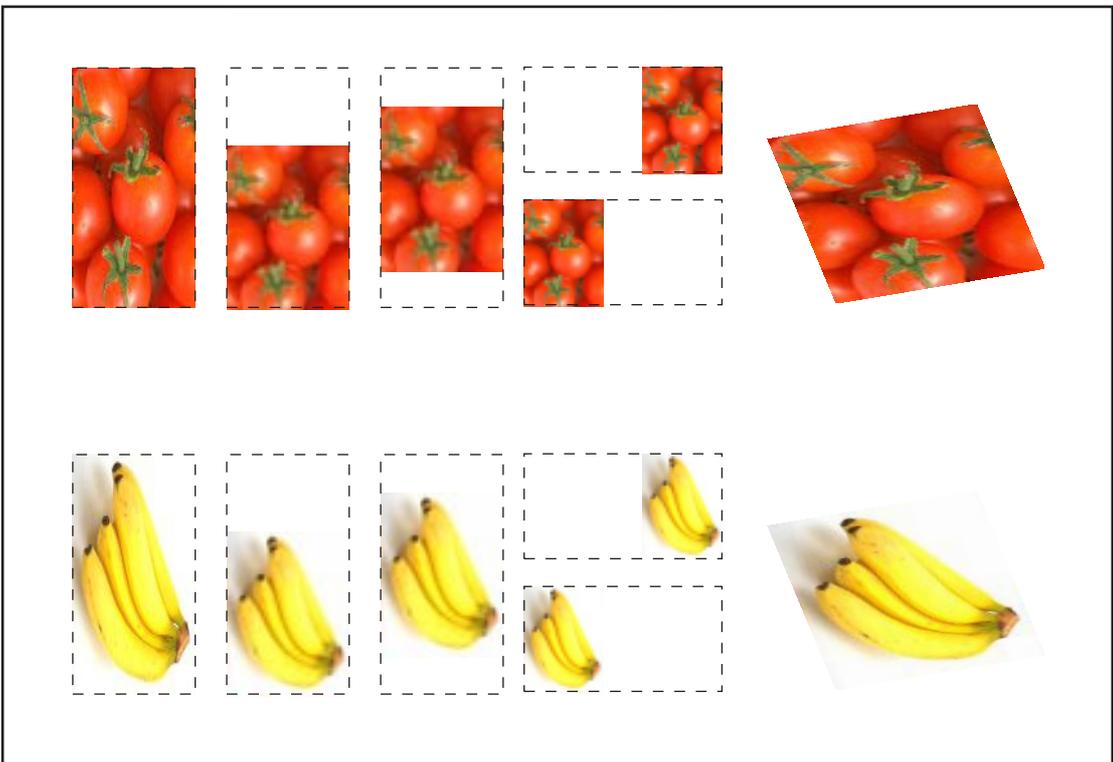
- ・「画像例」フォルダにある Illustrator ファイル「画像整列.ai」を開いてください。
ここでは「バナナ」の画像が1つリンク配置され、「=図」または「=image」の文字列の入った矩形テキストオブジェクトが5つあります。この各オブジェクトを外部のテキスト形式のデータベースの文字列（ファイル名）の画像で置き換えてみます。
- ・「ウインドウ」メニューから「レコード順次取り込み」を選んでください。
もし「レコード順次取り込み」メニューにチェックマークがついていればパレットはすでに画面のどこかに現れているはずです。
- ・パレットの「取込ファイルの指定」ボタンをクリックしてください。
- ・ダイアログが現れたら「画像例」フォルダにあるの「画像データ.txt」を開いてください。
- ・パレットの区切り指定を「タブ区切り」にしてください。
パレット中央のリストにテキストデータが表示されます。
- ・「タグ表示」をチェックしてください。
- ・ページ上のすべてのオブジェクトを選択してください。
上段のオブジェクトはリンク配置された画像であること、他はテキストオブジェクトで文字揃えが異なっていることを覚えておいてください。取り込み画像の位置およびサイズはこの枠の大きさと文字揃えによって決まります。詳しくは後記「テキストオブジェクトに取り込む場合の準備」をご覧ください。
- ・パレットの開始レコード番号を1にしリストから第1フィールドの「トマト」を選択し、「セット」ボタンをクリックしてください。（Windowsの場合は拡張子が付いています。）
「セット」ボタンをクリックするかわりにリスト行をダブルクリックしても結構です。
このように2つ以上のオブジェクトに同時に割り当てデータを指定することもできます。
また、割り当てオブジェクトが配置画像の場合にはタグは表示されません。しかしパレットの「割り当て番号」欄には「1」と表示されます。
以上で取り込み準備が整いました。
- ・ページ上の全てのオブジェクトを選択状態のままにしておいてください。
- ・テキストオブジェクトだけの例と同様に「選択範囲」ボタンをクリックしてください。「単位サイズ...」に入力されます。
- ・「余白サイズ...H」は「40 mm」、「V」を「0 mm」にしてください。
- ・「整列個数...H」を「2」、「V」を「1」にしてください。その下の整列の取り込み順を決める「順序」は左端を選んでください。
- ・「アウトライン表示」をチェックしてください。このはたらきもテキストオブジェクトだけの例で説明しました。
- ・パレットの開始レコード番号を1にしてください。
- ・パレットの「1ページ分取込」ボタンをクリックしてください。
- ・左列にはバナナの画像が、右列にはトマトの画像が取り込まれているはずです。
もし、そうでなければ割り当てが正しくないか、もとの「画像.ai」ファイル内容、または「画像例」フォルダの構成が変更されている可能性があります。疑わしい場合にはディスクから再度「画像例」フォルダをコピーし、初めからやり直してください。



実行前



実行後



ここで、画像データの取り込み方をまとめておきます。

外部の画像データを取り込む方法には、大きく分けてつぎの2通りがあります。

- (1) 配置画像そのものをテンプレートとして、それにデータベースのフィールドに記述されたファイル名の画像を取り込む。
- (2) テキストオブジェクトをテンプレートとして、それにデータベースのフィールドに記述されたファイル名またはフォルダパス名の画像を取り込む。

(1) 配置画像に取り込む場合の準備

【Illustrator 書類上に用意しておくもの】

EPS 画像を取り込む場合は EPS 画像を、ラスター画像 (TIFF など) を取り込む場合はラスター画像をリンク形式で配置しておきます。ラスター画像に EPS 画像を取り込むべく割り当てを行っても実行時には何も取り込まれません。(逆も同様) また、リンク形式で配置した画像に対してしか取り込むことができません。なおこの場合、スケール、回転、シアーなどの変形は元画像のそれらに従います。

【取込画像を用意しておく場所とデータベースのフィールドの記述内容】

取り込み画像はテンプレートの画像と同じフォルダに置く。

データベースには割り当て予定のフィールド欄に取り込み画像のファイル名 (Windows では拡張子を含む) を書き込んでおく。

(2) テキストオブジェクトに取り込む場合の準備

【Illustrator 書類上に用意しておくもの】

テキストオブジェクトで「=図」(先頭の「=」(イコール)は半角文字に限る)または「=image」(すべて半角だが大文字小文字またはその混在は可)としておきます。これ以外の文字は(改行やスペースなども)絶対含めないでください。

この場合の画像サイズは、パスを持たないテキストの場合はテキストの原点位置に画像左上端を合わせ、サイズは元画像の 100% です。

一方、長方形パス内の文字として指定すると、そのテキストオブジェクトの文字揃えが「最終行も両端揃え」以外の場合は文字枠長方形の短辺に合わせて拡大または縮小されます。

テキストオブジェクトの文字揃えと画像の位置の関係は次の通りになります。

「左揃え」... 文字枠が横長の場合は左端、縦長の場合は上端に揃える。

「中央揃え」... 文字枠が横長の場合は左右の中心、縦長の場合は上下の中心に揃える。

「右揃え」... 文字枠が横長の場合は右端、縦長の場合は下端に揃える。

「最終行も両端揃え」... 文字枠いっぱいには拡大または縮小。

* 前ページ図参照

【取込画像を用意しておく場所とデータベースのフィールドの記述内容】

[方法 1]

取り込み画像はデータベースファイルと同じフォルダに置く。

この場合もデータベースには割り当て予定のフィールド欄にファイル名を書き込んでおく。

[方法 2]

取り込み画像は任意のフォルダに置く。

この場合はデータベースには割り当て予定のフィールドにファイルの場所を示すフォルダパス付けたファイル名を書き込んでおく。

ここでフォルダパスとは、Macintosh ではディスクから画像のあるフォルダまでの経路を「:」で区切って連結した文字列です。WINDOWS では「ドライブ名:¥」に続けて画像のあるフォルダ(ディレクトリ)までの経路を「¥」で区切って連結した文字列です。

フォルダパス付けたファイル名とは次のようなものです。

(Macintosh のパスの例)

Macintosh HD:チラシ:チラシ画像:バナナ

意味：画像ファイル「バナナ」は「Macintosh HD」ディスクの「チラシ」フォルダ中の「チラシ画像」フォルダにある。

(WINDOWS のパスの例)

c:¥User¥チラシ¥チラシ画像¥トマト.EPS

意味：画像ファイル「トマト」は「c」ドライブの「User」フォルダ中の「チラシ」フォルダの「チラシ画像」フォルダにある。

以上のうち(1)の方法が最も直感的です。この方法だけが拡大縮小以外の変形にも対応できます。

(2)は画像枠を指定する必要がある場合に利用します。このうち[方法 1]はフォルダパスの指定が不要なので割り当てレコードのフィールドに画像ファイルの名称を記述しておくだけ(ただしWindowsの場合は拡張子は必要)ですから取り扱いが楽です。先ほど「トマト」や「バナナ」だけで取り込んだのはこの例です。各画像「トマト」や「バナナ」とデータベース「画像データ.txt」が同じ「画像例」フォルダの中にありますので確認してみてください。

一方、データベースファイルと画像ファイルを別のフォルダに置いて管理したい場合は、(2)の[方法 2]を使います。この場合は割り当てレコードのフィールドにフォルダパスを含めたファイル名を記述しておく必要があります。

* ディスク先頭からファイルの場所を示す文字列は普通は絶対パスまたは単にパスまたはパス名と呼びますがIllustratorのパスと混同しますのでここではフォルダパスとしました。

バーコードデータの変換例（「バーコード ROBO 3」でのみ可能）

この例を試す前に必ず先のテキストオブジェクトだけの使用例をよく読んで試しておいてください。

- ・「バーコード例」フォルダにある Illustrator ファイル「バーコード整列.ai」を開いてください。
ここではテキスト「品名」と「バーコード ROBO 3」で作成したバーコードの2つのオブジェクトがあります。この各オブジェクトを外部のテキスト形式のデータベースの文字列で置換または変換を試みます。
- ・「ウインドウ」メニューから「レコード順次取り込み」を選んでください。
もし「レコード順次取り込み」メニューにチェックマークがついていればパレットはすでに画面のどこかに現れているはずです。
- ・パレットの「取込ファイルの指定」ボタンをクリックしてください。
- ・ダイアログが現れたら「バーコード例」フォルダにある「JAN13 データ.txt」を開いてください。
- ・パレットの区切り指定を「タブ区切り」にしてください。
パレット中央のリストにテキストデータが表示されます。
- ・「タグ表示」をチェックしてください。
- ・ページ上の「品名」を選択してください。
- ・パレットのレコード番号を1にしリストから第1フィールドをダブルクリックしてください。
- ・バーコードのグループ全体を選択し第2フィールドをダブルクリックしてください。
- ・ページ上のオブジェクトを2つとも選択してください。
- ・テキストオブジェクトだけの例と同様に「選択範囲」ボタンをクリックしてください。「単位サイズ...」に入力されます。
- ・「余白サイズ...」はどちらも「25 mm」にしてください。
- ・「整列個数 ...H」を「3」、「V」を「3」にしてください。その下の整列時の取り込み順を決める「順序」は左端のボタンを選んでください。
- ・「アウトライン表示」をチェックしてください。このはたらきもテキストオブジェクトだけの例で説明しました。
- ・パレットの開始レコード番号を1にしてください。
- ・パレットの「1ページ取込」ボタンをクリックしてください。
- ・第2フィールドのバーコード文字列はJAN13のバーコードシンボルに変換され3×3組整列したはずです。

このときのバーコードの設定はテンプレートのバーコードのものに従います。

ここでデータベース・フィールドのバーコードデータの記述方法を説明します。

バーコードデータとして有効なものは、テンプレートとなるバーコードを作成したときの各バーコードパレットの設定のもとでコード入力欄に対し有効なものです。たとえばNW7の場合で述べると、テンプレートのバーコードを作成する際にスタートコードやストップコードをコード内に含めず、省略指定して作成したにもかかわらず取込コードデータの中にスタートコードやストップコードを含めてあると正しく変換されませんので注意してください。

ところでこれを確認する方法があります。書類上のバーコードを選択し、そのバーコードのパレットを表示して「照合」ボタンをクリックしてください。すると、書類上のバーコードが作成されたときの設定がパレットにセットされます。

また、コード入力欄が2つ以上ある場合にはこれらのコード文字列を半角の「&」（アンパサンド）で連結しておきます。

例えば JAN13「490123456789」において 5桁のアドオンコード「12345」を付加したい場合には次のようにデータベースのフィールドに記述しておきます。

490123456789&12345

「バーコード ROBO 3」で作成したバーコード・オブジェクトはすべてグループ化されていますが、このグループは解除しないでください。もし解除すれば割り当て、取り込み、照合などが正しくできなくなります。

テキスト自動調整を併用した例

この例を試す前に「テキスト自動調整」の章をよくお読みください。

- ・「テキスト自動調整取込例」フォルダにある Illustrator ファイル「調整整列.ai」を開いてください。
ここでは「石川産」「ブロッコリ」「1株」「150円」のテキストオブジェクトへ外部のテキスト形式のデータベースの文字列を取り込み、1ページ当たり2×3個のレコードを取り込んでみます。
- ・「ウインドウ」メニューから「レコード順次取り込み」を選んでパレットを表示してください。
- ・同じく「ウインドウ」メニューから「テキスト自動調整」を選んでパレットを表示してください。
- ・「テキスト自動調整」パレットの「フィールド割当/取込時に適用」を「ON」にしておいてください。
- ・「取込ファイルの指定」ボタンをクリックして「テキスト自動調整取込例」フォルダにあるデータファイル「テキスト自動調整データ.txt」を開いてください。

- ・Illustrator 書類上の「石川産」を選択状態にしてください。
- ・「テキスト自動調整」パレットの「インパス・テキスト」を「水平方向変形による」を選び「あふれた場合のみ処理」を「ON」にしてください。
- ・「レコード順次取り込み」パレットのフィールドリストの第1レコードを選択し「セット」ボタンをクリックしてください。「割り当てタグ」は「1h」(hは小文字)になります。

- ・書類上の「ブロッコリ」を選択状態にしてください。
- ・「テキスト自動調整」パレットの「インパス・テキスト」を「フォントサイズによる」を選び「あふれた場合のみ処理」を「OFF」にしてください。
- ・「レコード順次取り込み」パレットのフィールドリストの第2レコードを選択し「セット」ボタンをクリックしてください。「割り当てタグ」は「2S」(Sは大文字)になります。

- ・書類上の「1株」を選択状態にしてください。
- ・「テキスト自動調整」パレットの「インパス・テキスト」を「水平方向変形による」を選び「あふれた場合のみ処理」を「ON」にしてください。
- ・「レコード順次取り込み」パレットのフィールドリストの第3レコードを選択し「セット」ボタンをクリックしてください。「割り当てタグ」は「3h」(hは小文字)になります。

- ・書類上の「150円」を選択状態にしてください。
- ・「テキスト自動調整」パレットの「インパス・テキスト」を「水平方向変形による」を選び「あふれた場合のみ処理」を「OFF」にしてください。
- ・「レコード順次取り込み」パレットのフィールドリストの第4レコードを選択し「セット」ボタンをクリックしてください。「割り当てタグ」は「4H」(Hは大文字)になります。

- ・書類上のオブジェクトのタグもそれぞれ「1h_」「2S_」「3h_」「4H_」をなっていることを確認してください。

- ・ページ上の全てのオブジェクトを選択状態にしてください。
- ・「選択範囲」ボタンをクリックしてください。「単位サイズ...」に入力されます。このはたらき

- はテキストオブジェクトだけの例で説明しました。
- ・「余白サイズ...H」, 「V」とも「15 mm」にしてください。
 - ・「整列個数 ...H」を「2」, 「V」を「3」にしてください。その下の整列の取り込み順を決める「順序」は左端を選んでください。
 - ・「アウトライン表示」をチェックしてください。このはたらきもテキストオブジェクトだけの例で説明しました。
 - ・パレットの開始レコード番号を1にしてください。
 - ・「バッチ処理」ボタンをクリックし、確認後「OK」ボタンをクリックしてください。
 - ・しばらくするとテンプレートファイル「調整整列.ai」と同一フォルダ「テキスト自動調整取込例」内に「#0001 調整整列.ai」と「#0002 調整整列.ai」が生成されます。
この場合のバッチ処理はテキスト自動調整を行わない場合に比べ処理に時間がかかります。
 - ・ここでテキスト自動調整を割り当て時に指定した場合のタグの意味について簡単に説明します。
初めの数値はフィールド番号です。
フィールド番号の次に並ぶ1文字のアルファベットについて

「h」.....	水平方向変形による	あふれた場合のみ処理
「H」.....	水平方向変形による	あふれない場合も処理
「v」.....	垂直方向変形と行送りによる*	あふれた場合のみ処理
「V」.....	垂直方向変形と行送りによる*	あふれない場合も処理
「s」.....	フォントサイズ(と行送り)による*	あふれた場合のみ処理
「S」.....	フォントサイズ(と行送り)による*	あふれない場合も処理

*インパス・テキストの場合には行送りを伴いますが、この場合にはこれらのアルファベットの後に「行送り(%)」値が付きます。(「v200」や「S150」など)

各レコード取り込み時にテキスト自動調整も割り当てるには、必ず「テキスト自動調整」パレットを表示し、チェックボックス「フィールド割当/取込時に適用」を「ON」の状態にしておかなければなりません。一方、テンプレートにテキスト自動調整を割り当てていても実行時に「テキスト自動調整」パレットの「フィールド割当/取込時に適用」がOFFならテキスト自動調整はおこなわれません。

パレットの設定項目について

整列ブロックどうしの隙間を指定。Hは左右の、Vは上下のブロック間。

取込複製ブロックのH（水平）とV（垂直）方向の整列個数を指定。

整列の順序を指定。左のボタンからそれぞれ、水平左、垂直左、水平右、垂直右から順に埋めていくことを意味する。

テキスト形式のデータベースファイルを指定。右隣のポップアップにより「タブ区切り」か「コンマ区切り」を指定。

取込ファイルの履歴が最大 16 ファイルまでパス名で表示される。最近使用したファイルはこのポップアップから選択すると能率的。

何番目のレコードから取り込むかを指定。

整列複製する単位ブロックのH（水平）とV（垂直）サイズを指定。そのブロックを選択状態にして「選択範囲」ボタンをクリックすると自動的に入力されます。

The screenshot shows a software dialog box titled "レコード順次取り込み" (Record Sequential Import). It contains several input fields and buttons for configuring the import process. At the top, there are fields for "単位サイズ...H" (104 mm) and "V" (69 mm), and a "選択範囲" (Select Range) button. Below that are "余白サイズ...H" (0 mm) and "V" (0 mm), and "整列個数...H" (2) and "V" (4). A "順序" (Order) section includes icons for horizontal/vertical alignment and an "アウトライン表示" (Outline Display) checkbox. The "合計サイズ...H" (208 mm) and "V" (276 mm) are shown below. A "取込ファイルの指定" (Import File Specification) section has a "タブ区切り" (Tab Delimited) dropdown and a file path field: "eHD_8600_8.1 :Desktop Folder :バ-コード...". A "開始レコード番号" (Start Record Number) field is set to 1, with navigation buttons. A list of records follows, with the third record "3: GK部" highlighted. Below the list are "割り当てタグ" (Assign Tag) set to 3, "セット" (Set), and "リセット" (Reset) buttons. A "タグ表示" (Tag Display) checkbox is checked, with a "照合" (Check) button. At the bottom are "1レコード取込" (Import 1 Record), "1ページ分取込" (Import 1 Page), and "バッチ処理" (Batch Processing) buttons. A small icon in the bottom right corner is pointed to by an external annotation.

「プリセットメニューについて」の章を参照。

ON のときには水平垂直分の整列アウトラインをガイドで表示。

単位サイズ、余白サイズ、整列個数から決まります。逆に合計サイズを増加（減少）させると余白サイズが減少（増加）します。これは「アウトライン表示」をしているときのアウトライン全体を囲む最小長方形のH（水平）とV（垂直）サイズを表す。

データベースのレコード間を移動するためのボタン。左から、「先頭」「前」「次」「最終」を表す。

現在指定されている取込ファイルのどれかのレコードがフィールド順に表示される。表示領域を広げるにはパレット右下のリサイズボックスをドラッグする。

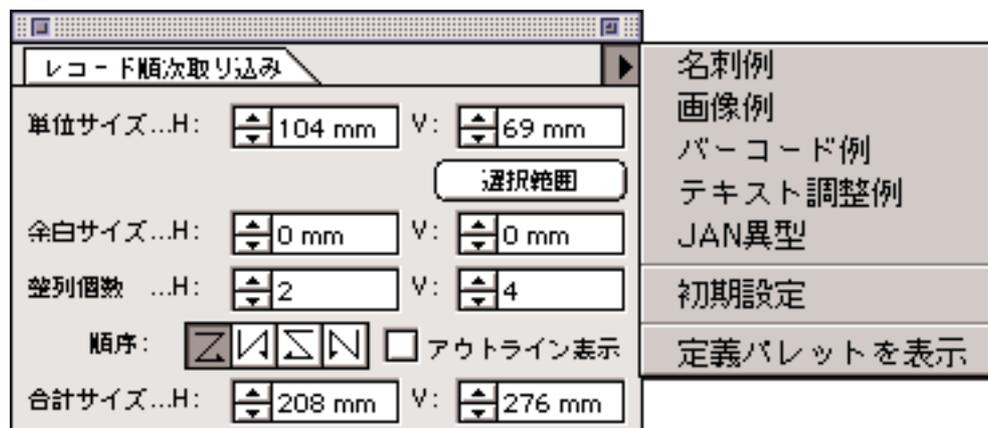
これをドラッグすることによってレコード・リスト部とファイル履歴ポップアップが拡大表示される。

割り当てに関する設定と各取込ボタンについては先の使用例をご覧ください。

プリセットメニューについて

プリセットメニューとはパレットの右上にある右向き三角形アイコンのポップアップメニューのことです。

パレットの設定に名前をつけて保存し、その名前をこのポップアップメニューのメニュー項目として追加することができます。そして次からはそのメニュー項目を選択するだけで保存し



ておいた設定（プリセット）をパレットに読み込むことができます。

メニュー項目の「定義パレットを表示」を選ぶとプリセット定義用の下図のようなパレットが現れます。

では、このパレットでプリセットメニューの登録、変更、削除について説明します。

（新規に登録するには）

現在の設定に名前を付けてメニュー化するには、リスト下部の新規アイコン（Illustratorのパレットと同じです）をクリックします。

名前を入力するダイアログウィンドウが現れますので適当な名前を付けてOKボタンを押してください。

これで現在の設定がプリセットメニューとして登録されます。

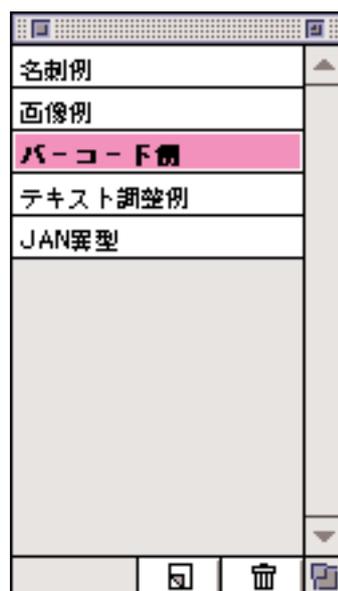
（登録内容を変更するには）

変更するリスト行をMacintoshでは「Optionキー＋クリック」、Windowsでは「Altキー＋クリック」してください。

名称を変更するダイアログウィンドウが現れますので必要なら改名してOKボタンを押してください。

現在の設定とその名称が登録されます。

メニュー項目名だけ変えたい場合はあらかじめ



登録削除ボタン
新規登録ボタン

そのプリセット内容（設定）を読み込んでおく必要があります。

リスト行をダブルクリックするとそのプリセット内容（設定）を読み込みます。

（登録を削除するには）

削除する設定の名称のリスト行を 1 回クリックして反転してください。（リストの選択状態）
Mactintosh ではコマンドキーを、Windows では Ctrl キー押しながら複数選択したり、シフトキーを押しながら連続選択したりできます。

リスト下部の削除アイコン（Illustrator のパレットと同じです）をクリックします。

確認ダイアログウィンドウが現れますのでよければ OK ボタンを押してください。

これでその名称の設定がメニュー項目とともにプリセットメニューから削除されます。

プリセット定義パレットを隠すにはプリセット・ポップアップメニューから「定義パレットを隠す」を選ぶかパレットのクローズボックスをクリックしてください。

なお、このパレットを出したままにしておくと、リスト行のダブルクリックで設定が読み込まれます。（ポップアップメニューを選択するのと等価）ただし、他のパレットからプリセット定義パレットを開こうとしたときに、混乱を防ぐために現在開いているプリセット定義パレットは強制的に閉じられます。

組版 ROBO・レコーダー一括取り込み

何ができるか？

複雑な表組やチラシ広告のようなページ全体に不規則な割り付けをおこなう場合にデータの取り込みを自動化します。画像を取り込んだり、「バーコード ROBO 3」を併用すればバーコードデータをシンボル変換することも可能です。

どう動作するか？

たとえば、チラシ広告の場合なら既存の製作物の個々オブジェクトにデータベースの何レコード目の何フィールド目を取り込むかを割り当てておくと、指定のデータでテンプレート内容を置き換えます。

	1	2	3	4	5	...
1	石川産	ブロッコ	1株	150円		...
2	熊本産	うなぎ蒲焼	1本	780円		...
3	北海道産	グリーンア	1束	98円		...
4	石川産	桃太郎トマ	1個	100円		...
5	群馬産	キャベツ	1玉	198円		...
6	香川産	玉ねぎ	1ネット	150円		...
7	アメリカ産	チェリー	100g	88円		...
...
...

取り込みデータの表計算シート上でのイメージ

アメリカ産
牛肩ロース
100g
128円

特売

国産
うなぎ蒲焼
1本
1,000円

鹿児島産
豚肉ロース
100g
100円

石川産
ブロッコリー
1株
150円

特売

熊本産
うなぎ蒲焼
1本
780円

アメリカ産
チェリー
100g
88円

特徴

- ・オブジェクトに対する取り込みデータの割り当てや変更がライブでできる。
- ・割り当て作業はオブジェクトを選択してデータベース・フィールドのリストをダブルクリックするだけ。その際、どのオブジェクトにどのデータを割り当てたかの目視用のタグを付けることもできる。
- ・一度開いたデータベース・ファイルは履歴メニューとして残るので次回オープンが楽。
- ・EPS 画像だけでなくラスター画像の置換 / 変換配置も可能。また、画像の置換は基本変形（回転やシアーなど）を受け継ぐ
- ・「バーコード ROBO 3」を併用すればバーコードデータのシンボル変換も可能。
- ・Mactintosh か Windows で作成されたテキストデータを互いに無変換でも取り込み可能。
- ・「テキスト自動調整」機能の併用可能。

取り込みデータの最大値

- ・ 1 ファイルあたりの最大レコード数： 32767
 - ・ 1 レコードあたりの最大フィールド数： 1024
 - ・ 1 フィールドあたりの最大文字数： 半角換算で 5460 文字、全角換算で 2730 文字*
- * データベースソフトでこれ以下の制限がある場合もありますが、普通のテキスト編集ソフトでは可能な文字数です。

これらを表計算シート上のイメージであらわすと次のようになります。

	1	2	3	1024
1	石川産	ブロック	1株
2	熊本産	うなぎ蒲焼	1本
3	全角2730文字	半角5460文字
4
5
6
...
...
32767

表計算シート上のイメージ

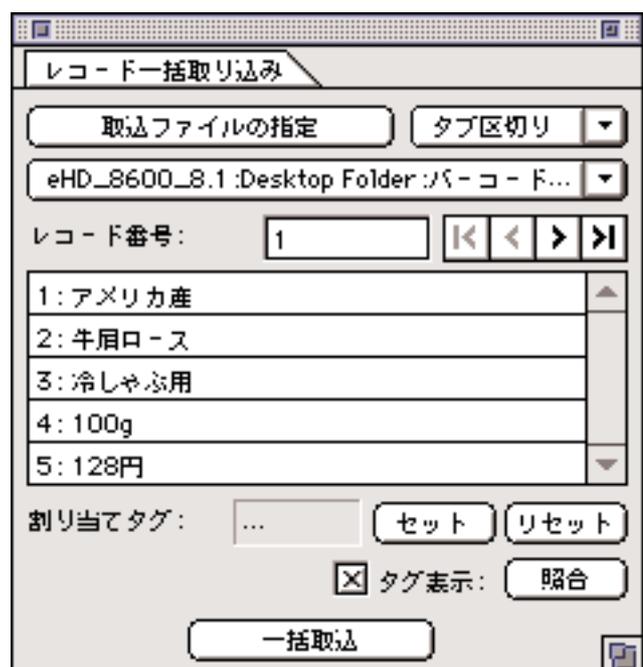
テキストオブジェクトだけの使用例

前章「レコード順次取り込み」は整列専用ではありませんのであわせて読んでおいてください。特に「 整列しない使用例」は必ず試しておいてください。

- ・「チラシ例」フォルダにある Illustrator ファイル「チラシ.ai」を開いてください。
ここでは「産地」「品名」「摘要」「数量」「価格」のテキストオブジェクトを1組として14のブロックが割り付けられています。この各テキストオブジェクトの文字列を外部のテキスト形式のデータベースの文字列で置き換えてみます。
- ・「ウインドウ」メニューから「レコード一括取り込み」を選んでください。
図のようなパレットが現れます。
- ・パレットの「取込ファイルの指定」ボタンをクリックしてください。
- ・ダイアログが現れたら「チラシ例」フォルダにある「チラシデータ.txt」を開いてください。
- ・パレットの区切り指定を「タブ区切り」にしてください。
「チラシデータ.txt」はテキスト形式のデータベースファイルです。

*ここで利用できるデータベース・ファイルの一般的な構成については「レコード順次取り込み」の章の最後にある「 利用可能なデータベースファイルについて」をご覧ください。

- ・右下図のようにパレット中央のリストにテキストデータが表示されます。リスト左端の数字「3:」などは表示レコードのフィールド番号です。
- ・さて、この個々データを取り込む前にどのオブジェクトにどのデータを取り込むかを指定しておかなければなりません。これを「割り当て」と呼ぶことにします。
- ・「タグ表示」をチェックしてください。
- ・チラシ上の左上のブロックにある「産地」を一つ選択してください。
- ・パレットのレコード番号を1にしリストから第1フィールドの「アメリカ産」を選択し、「セット」ボタンをクリックしてください。「セット」ボタンをクリックするかわりにリスト行をダブルクリックしても結構です。
これで、左上ブロックの「産地」に「チラシデータ.txt」の第1レコードの第1フィー



ルドが割り当てられました。

「産地」が「1-1_産地」に変わっているはずですが、ここではこの「1-1_」をタグ（札）と呼びます。また「割り当てタグ」欄に「1-1」と表示されているはずですが、

- ・次に同じブロックの「品名」を選択してください。
- ・第2フィールドの「牛肩ロース」をダブルクリックしてください。
左上ブロックの「品名」に「チラシデータ.txt」の第1レコードの第2フィールドが割り当てられました。
「品名」が「1-2_品名」に変わっているはずですが、また「割り当てタグ」欄に「1-2」と表示されているはずですが、
- ・同様に「摘要」に第1レコードの第3フィールドを、「数量」に第1レコードの第4フィールドを、「価格」に第1レコードの第5フィールドを割り当ててください。
これで左上ブロックの割り当てが完了しました。
- ・今度は「レコード番号」を3にし、上と同様にページ左下ブロックの割り当てを行ってください。
- ・すべてのブロックでこれらの作業を終えたものが「チラシ例」フォルダにあるファイル「チラシ割当ずみ.ai」です。このファイルを開いてください。



第3レコードの第2フィールドを割り当てた例

- ・ページ上のすべてのオブジェクトを選択状態にしてください。
- ・パレットの「実行」ボタンをクリックしてください。
- ・割り当てデータがすべてページ上に流し込まれます。
- ・ここで、一度ページ上のオブジェクトの選択をすべて解除し、左下のブロックの「豚肉ロース」だけを選択してみてください。
- ・その状態でパレットをご覧ください。リストは第3レコードの第2フィールドが選択状態になっているでしょう。「割り当てタグ」欄には「3-2」と表示されているはずですが、他のオブ

ジェクトでも試してみてください。個々のオブジェクトは、それぞれ割り当てられたフィールドを覚えています。

つまり、「一括取込」ボタンを押す前に個々のオブジェクトに付いていたタグ「3-2_」などは単なる目印に過ぎないのです。また、取り込み実行後も各オブジェクトの割り当てはそのまま残ります。

したがって、この

タグ部分を打ち変えても割り当ては変更できません。

ところでタグが消えてしまうと一目で割り当て状況が掴めませんが、この

タグは簡単に表示したり消したりできます。

それを試してみます。

- ・ ページ上の一部または全てのオブジェクトを選択してください。
- ・ パレットの「タグ表示」をチェックしてあることを確認し「照合」ボタンをクリックしてください。
選択したオブジェクトにタグが付けられます。
- ・ オブジェクトの選択状態をそのままに、今度は「タグ表示」のチェックをはずしてください。
選択中のオブジェクトのタグが消えます。
繰り返しますが、これらの操作は「割り当て」そのものに影響しません。
割り当てを解除するには対象オブジェクトを選択し「リセット」ボタンをクリックします。

これは非常に大切なことを意味しています。すなわち、

取り込み完了後のページそのものに別のデータで上書きができるということです。

言い換えると、当プラグインはオブジェクト中に特別な文字を埋め込んだようなテンプレートを必要としないわけです。

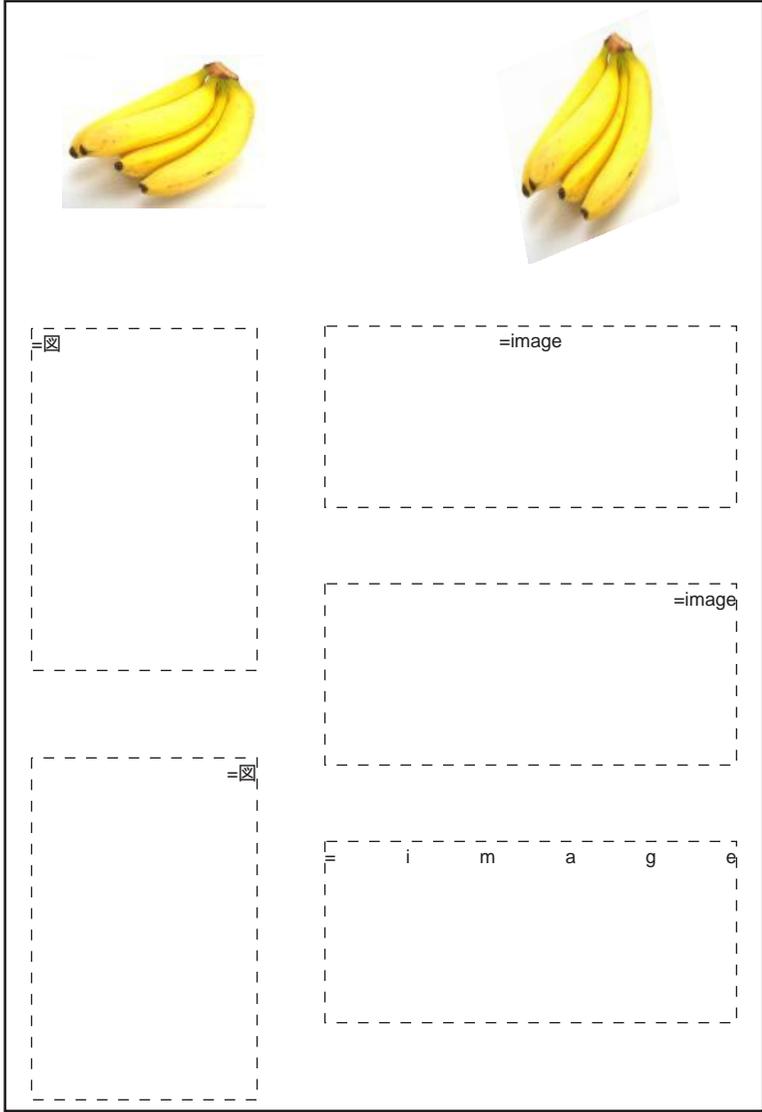
したがって、今までのチラシなどの製作物に取り込みデータの割り当てを行い、このときは確認のためのタグを付けていても、割り当てがすんだら全選択し「タグ表示」のチェックをはずせば元通りの製作物になります。(あるいは「タグ表示」のチェックをはずしておいて全選択した後「照合」ボタンをクリックしても同じ)

もちろん、割り当て時にあらかじめ「タグ表示」のチェックをはずしてあれば初めからタグは付きません。この時の割り当て確認は個々のオブジェクトを選択してパレットを見るか、対象を選択後、「タグ表示」をONにするか、ONの状態なら「照合」ボタンをクリックします。

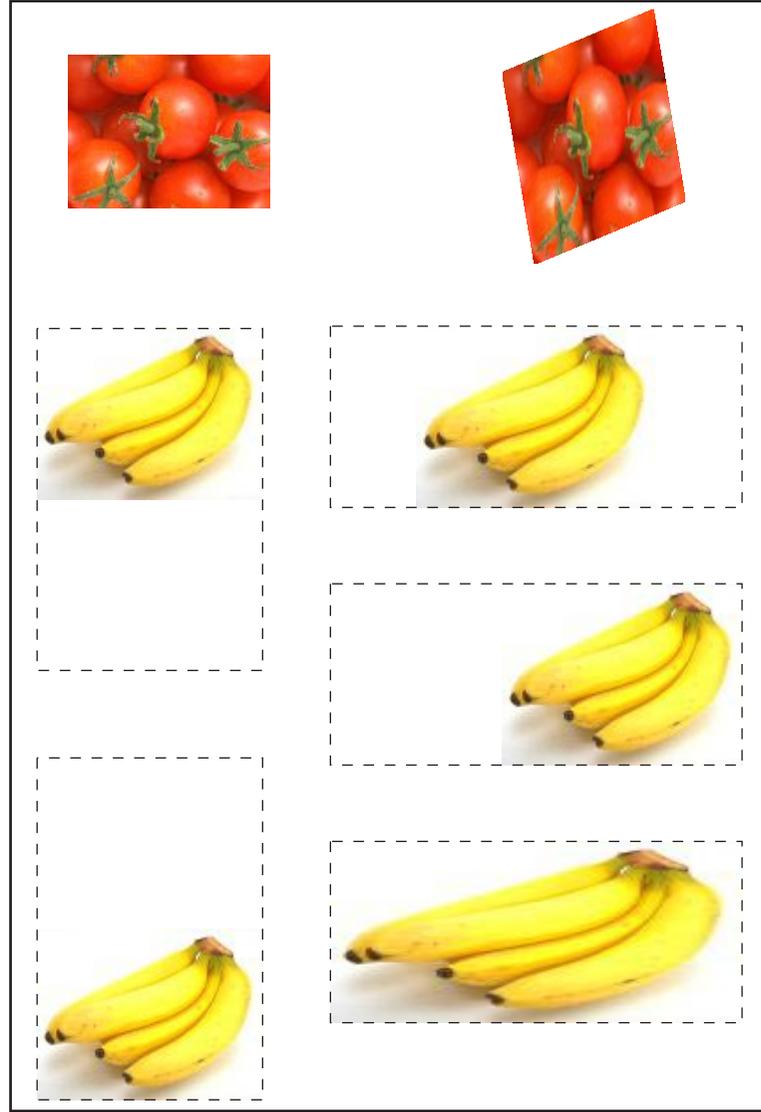
画像の取り込み例

この例を試す前に必ず先のテキストオブジェクトだけの使用例をよく読んで試しておいてください。

- ・「画像例」フォルダにある Illustrator ファイル「画像.ai」を開いてください。
ここでは「バナナ」の画像が2つリンク配置され、「=図」または「=image」の文字列の入った矩形テキストオブジェクトが5つあります。この各オブジェクトを外部のテキスト形式のデータベースの文字列（ファイル名）の画像で置き換えてみます。
- ・「ウインドウ」メニューから「レコード一括取り込み」を選んでください。
もし「レコード一括取り込み」メニューにチェックマークがついていればパレットはすでに画面のどこかに現れているはずです。
- ・パレットの「取込ファイルの指定」ボタンをクリックしてください。
- ・ダイアログが現れたら「画像例」フォルダにあるの「画像データ.txt」を開いてください。
- ・パレットの区切り指定を「タブ区切り」にしてください。
パレット中央のリストにテキストデータが表示されます。
- ・「タグ表示」をチェックしてください。
- ・ページ上段にある配置画像を2つとも選択してください。
- ・パレットのレコード番号を1にしリストから第1フィールドの「トマト」を選択し、「セット」ボタンをクリックしてください。（Windowsの場合は拡張子が付いています。）
「セット」ボタンをクリックするかわりにリスト行をダブルクリックしても結構です。
このように2つ以上のオブジェクトに同時に割り当てデータを指定することもできます。
また、割り当てオブジェクトが配置画像の場合にはタグは表示されません。しかしパレットの「割り当てタグ」欄には「1-1」と表示されます。
- ・次にページ上のバナナの画像以外の残りのテキストオブジェクトを5つとも選択状態にしてください。
- ・パレットのレコード番号を2にしリストから第1フィールドの「バナナ」の行をダブルクリックして割り当てをおこなってください。（Windowsの場合は拡張子が付いています。）
テキストすべてに「2-1_」のタグがついたはずですが。
ここで、5つのテキストオブジェクトの文字揃えが異なっていることを覚えておいてください。取り込み画像の位置およびサイズはこの枠の大きさと文字揃えによって決まります。詳しくは後記「テキストオブジェクトに取り込む場合の準備」をご覧ください。
以上で取り込み準備が整いました。
- ・ページ上の全てのオブジェクトを選択状態にしてください。
- ・パレットの「一括取込」ボタンをクリックしてください。
- ・バナナの画像部分にはトマトの画像が、テキストの部分にはバナナの画像が取り込まれているはずです。
もし、そうでなければ割り当てが正しくないか、もとの「画像.ai」ファイル内容、または「画像例」フォルダの構成が変更されている可能性があります。疑わしい場合にはディスクから再度「画像例」フォルダをコピーし、初めからやり直してください。



実行前



実行後



ここで、画像データの取り込み方をまとめておきます。

外部の画像データを取り込む方法には、大きく分けてつぎの2通りがあります。

- (1) 配置画像そのものをテンプレートとして、それにデータベースのフィールドに記述されたファイル名の画像を取り込む。
- (2) テキストオブジェクトをテンプレートとして、それにデータベースのフィールドに記述されたファイル名またはフォルダパス名の画像を取り込む。

(1) 配置画像に取り込む場合の準備

【Illustrator 書類上に用意しておくもの】

EPS 画像を取り込む場合は EPS 画像を、ラスター画像 (TIFF など) を取り込む場合はラスター画像をリンク形式で配置しておきます。ラスター画像に EPS 画像を取り込むべく割り当てを行っても実行時には何も取り込まれません。(逆も同様) また、リンク形式で配置した画像に対してしか取り込むことができません。なおこの場合、スケール、回転、シアーなどの変形は元画像のそれらに従います。

【取込画像を用意しておく場所とデータベースのフィールドの記述内容】

取り込み画像はテンプレートの画像と同じフォルダに置く。

データベースには割り当て予定のフィールド欄に取り込み画像のファイル名 (Windows では拡張子を含む) を書き込んでおく。

(2) テキストオブジェクトに取り込む場合の準備

【Illustrator 書類上に用意しておくもの】

テキストオブジェクトで「=図」(先頭の「=」(イコール)は半角文字に限る)または「=image」(すべて半角だが大文字小文字またはその混在は可)としておきます。これ以外の文字は(改行やスペースなども)絶対含めないでください。

この場合の画像サイズは、パスを持たないテキストの場合はテキストの原点位置に画像左上端を合わせ、サイズは元画像の100%です。

一方、長方形パス内の文字として指定すると、そのテキストオブジェクトの文字揃えが「最終行も両端揃え」以外の場合は文字枠長方形の短辺に合わせて拡大または縮小されます。

テキストオブジェクトの文字揃えと画像の位置の関係は次の通りになります。

「左揃え」... 文字枠が横長の場合は左端、縦長の場合は上端に揃える。

「中央揃え」... 文字枠が横長の場合は左右の中心、縦長の場合は上下の中心に揃える。

「右揃え」... 文字枠が横長の場合は右端、縦長の場合は下端に揃える。

「最終行も両端揃え」... 文字枠いっぱいには拡大または縮小。

* 前ページ図参照

【取込画像を用意しておく場所とデータベースのフィールドの記述内容】

[方法 1]

取り込み画像はデータベースファイルと同じフォルダに置く。

この場合もデータベースには割り当て予定のフィールド欄にファイル名を書き込んでおく。

[方法 2]

取り込み画像は任意のフォルダに置く。

この場合はデータベースには割り当て予定のフィールドにファイルの場所を示すフォルダパス付けたファイル名を書き込んでおく。

ここでフォルダパスとは、Macintosh ではディスクから画像のあるフォルダまでの経路を「:」で区切って連結した文字列です。WINDOWS では「ドライブ名:¥」に続けて画像のあるフォルダ(ディレクトリ)までの経路を「¥」で区切って連結した文字列です。

フォルダパス付けたファイル名とは次のようなものです。

(Macintosh のパスの例)

Macintosh HD:チラシ:チラシ画像:バナナ

意味：画像ファイル「バナナ」は「Macintosh HD」ディスクの「チラシ」フォルダ中の「チラシ画像」フォルダにある。

(WINDOWS のパスの例)

c:¥User¥チラシ¥チラシ画像¥トマト.EPS

意味：画像ファイル「トマト」は「c」ドライブの「User」フォルダ中の「チラシ」フォルダの「チラシ画像」フォルダにある。

以上のうち(1)の方法が最も直感的です。この方法だけが拡大縮小以外の変形にも対応できます。

(2)は画像枠を指定する必要がある場合に利用します。このうち[方法 1]はフォルダパスの指定が不要なので割り当てレコードのフィールドに画像ファイルの名称を記述しておくだけ(ただしWindowsの場合は拡張子は必要)ですから取り扱いが楽です。先ほど「トマト」や「バナナ」だけで取り込んだのはこの例です。各画像「トマト」や「バナナ」とデータベース「画像データ.txt」が同じ「画像例」フォルダの中にありますので確認してみてください。

一方、データベースファイルと画像ファイルを別のフォルダに置いて管理したい場合は、(2)の[方法 2]を使います。この場合は割り当てレコードのフィールドにフォルダパスを含めたファイル名を記述しておく必要があります。

* ディスク先頭からファイルの場所を示す文字列は普通は絶対パスまたは単にパスまたはパス名と呼びますがIllustratorのパスと混同しますのでここではフォルダパスとしました。

バーコードデータの変換について（「バーコード ROBO 3」でのみ可能）

「レコード順次取り込み」の「バーコードデータの変換」の項を参照してください。

テンプレートの指定やデータの記述方法は全く同じです。この場合も「バーコード ROBO 3」で作成したバーコード・オブジェクトを選択してデータベース・フィールド（内容はバーコードデータ）のリストをダブルクリックするだけで割り当てができます。

テキスト自動調製を併用する場合

「レコード順次取り込み」の章における「テキスト自動調整を併用した例」に準じます。そちらの例をご覧ください。

パレットの項目について

テキスト形式のデータベースファイルを指定。右隣のポップアップにより「タブ区切り」「コンマ区切り」を指定。

取込ファイルの履歴が最大 16 ファイルまでパス名で表示される。最近使用したファイルはこのポップアップから選択すると能率的。

リストに表示されるレコード番号。

レコード番号:	3	◀	▶	⏪	⏩
1:	アメリカ産				
2:	豚肉ロース				
3:	トンカツ用				
4:	100g				
5:	100円				

データベースのレコード間を移動するためのボタン。左から、「先頭」「前」「次」「最終」を表す。

現在指定されている取込ファイルのどれかのレコードがフィールド順で表示される。表示領域を広げるにはパレット右下のリサイズボックスをドラッグする。

これをドラッグすることによりレコードリスト部とファイル履歴ポップアップが拡大表示される。

割り当てに関する設定と各取込ボタンについては先の使用例をご覧ください。

組版 ROBO・レコード逐一取り込み

何ができるか？

テキストや画像データの再利用を非常に簡単にします。特に Illustrator 上でのテキスト入力作業を大幅に効率化します。

どう動作するか？

チラシ広告など既存の Illustrator 書類上の任意のオブジェクトを選択し、専用パレットへ読み込んだデータリスト（下図）をダブルクリックするだけでオブジェクト内容をそのデータで置換または変換します。もし書類上に選択オブジェクトがなければデータ内容をそのままテキストオブジェクトにします。一方、編集中のテキストオブジェクトがあればカーソル位置に（または反転部分を）データのテキストを挿入（または置換）します。

改行区切りもサポートしていますので一般テキストの利用もしやすくなっています。

選択時

URL:http://www.onion.xx.jp/sya

ダブルクリック

URL:http://www.ringo.xx.jp/



編集時

URL:http://www.onion.xx.jp/sya

ダブルクリック

URL:http://www.ichigo.xx.jp/sya

↑
カーソル



特徴

- ・オブジェクトに対する取り込みがライブでできる。
- ・取り込みはパレットのデータ・リストをダブルクリックするだけ。
- ・編集中のテキストオブジェクトのカーソル位置にも取り込みができる。
- ・一度開いたデータベース・ファイルは履歴メニューとして残るので次回オープンが楽。
- ・EPS 画像だけでなくラスター画像の置換 / 変換配置も可能。また、画像の置換は基本変形（回転やシアーなど）を受け継ぐ
- ・「バーコード ROBO 3」を併用すればバーコードデータのシンボル変換も可能。
- ・Mactintosh か Windows で作成されたテキストデータを互いに無変換でも取り込み可能。
- ・一般テキストファイルの利用も考え、タブ、コンマ区切りだけでなく改行区切りでのデータのリスト表示もサポート。
- ・「テキスト自動調整」機能の併用可能。

取り込みデータの最大値

- ・ 1 ファイルあたりの最大レコード数： 32767
- ・ 1 レコードあたりの最大フィールド数： 1024
- ・ 1 フィールドあたりの最大文字数： 半角換算で 5460 文字、全角換算で 2730 文字 *
* データベースソフトでこれ以下の制限がある場合もありますが、普通のテキスト編集ソフトでは可能な文字数です。

これらを表計算シート上のイメージであらわすと次のようになります。

	1	2	3	1024
1	(株)りんご	URL:http://w	ソフトウェ
2	(株)ばなな	URL:http://w	広告代理店
3	全角2730文字	半角5460文字
4
5
6
...
...
32767

表計算シート上のイメージ

テキストオブジェクトだけの使用例

- ・「チラシ例」フォルダにある Illustrator ファイル「チラシ.ai」を開いてください。
ここでは「産地」「品名」「摘要」「数量」「価格」のテキストオブジェクトを1組として14のブロックが割り付けられています。この各テキストオブジェクトの文字列を外部のテキスト形式のデータベースの文字列で置き換えてみます。
- ・「ウインドウ」メニューから「レコード逐一取り込み」を選んでください。
図のようなパレットが現れます。
- ・パレットの「取込ファイルの指定」ボタンをクリックしてください。
- ・ダイアログが現れたら「チラシ例」フォルダにあるの「チラシデータ.txt」を開いてください。
- ・パレットの区切り指定を「タブ区切り」にしてください。
「チラシデータ.txt」はテキスト形式のデータベース・ファイルです。

*ここで利用できるデータベース・ファイルの一般的な構成については「レコード順次取り込み」の章の最後にある「利用可能なデータベースファイルについて」をご覧ください。

- ・右下図のようにパレット中央のリストにテキストデータが表示されます。
リスト左端の数字「3:」などは表示レコードのフィールド番号です。
- ・ページ上の左上のブロックの「産地」を選択し、パレットのレコード番号を「1」にしリストの第1フィールドをダブルクリックしてください。
「産地」が即座にリストの第1フィールドの文字列に置換します。
- ・ページ上の同ブロックの「品名」を選択し、パレットのリストの第2フィールドをダブルクリックしてください。
「品名」が即座にリストの第2フィールドの文字列に置換します。
- ・別ブロックで異なるレコードでも試してみてください。

このようにしてチラシ全体を逐一入力していくのですが、Illustrator でよく文字入力される方にはこの手軽さと効率の高さを十分理解していただけたらと思います。他のテキストファイルからコピー＆ペーストする場合と比べてみてください。また「レコード一括取り込み」のように前もっての割り当て作業の必要ありません。

「どう動作するか？」のところでも述べたように選択テキストの全体置換だけでなく編集



中にカーソル位置への挿入や反転部分の置換にも対応していますので試してみてください。

さて、この「レコード逐一取り込み」機能には他の2つのレイアウト機能にはない区切り方式があります。他の2つのレイアウト機能の区切り文字は「タブ区切り」と「コンマ区切り」の2通りでしたが、「レコード逐一取り込み」にはこの2つ以外に「改行区切り」があります。これは任意のテキストファイルの取り込みを行いやすくするために設けてあります。

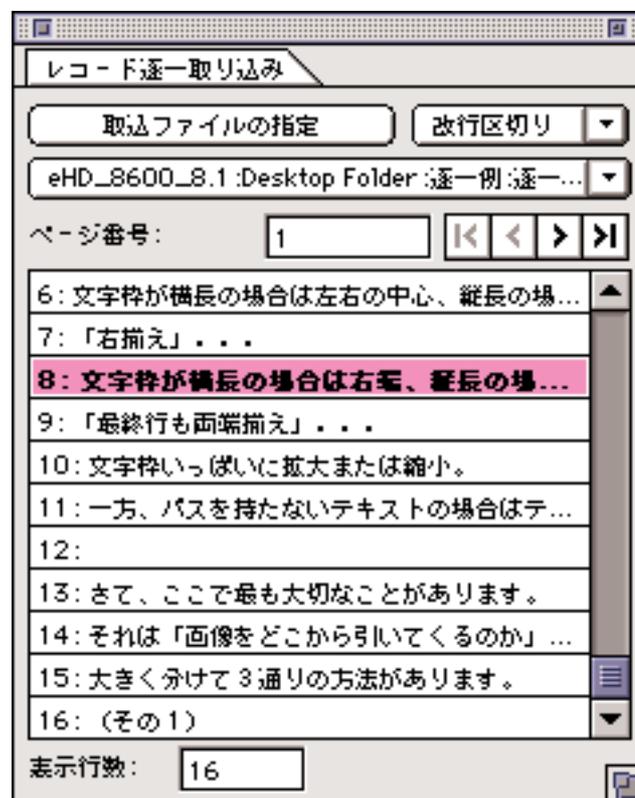
- ・パレットの「取込ファイルの指定」ボタンをクリックしてください。
- ・ダイアログが現れたら「逐一例」フォルダにあるの「逐一テキスト.txt」を開いてください。
- ・パレットの区切り指定を「改行区切り」にしてください。

するとパレットの表示の一部が変化します。すなわち「レコード番号」ラベルが「ページ番号」になり、リストの下に「表示行数」という入力欄が現れます。(下図)

「表示行数」というのはリストに一度に表示できる最大行数のことです。図では「16」になっています。この行数分はテキストの行数に一致します。なぜなら改行区切りで表示しているからです。この行数分を1ページと呼ぶことにします。

次の16行分は第2ページとなります。「ページ番号」を「2」にしてみてください。

- ・「表示行数」を変えても試してください。
- ・「逐一テキスト.txt」は適当に改行の入った普通のテキスト形式のファイルです。
- ・この場合も置換、挿入、新規作成ができます。先程の例のようにいろいろと試してください。

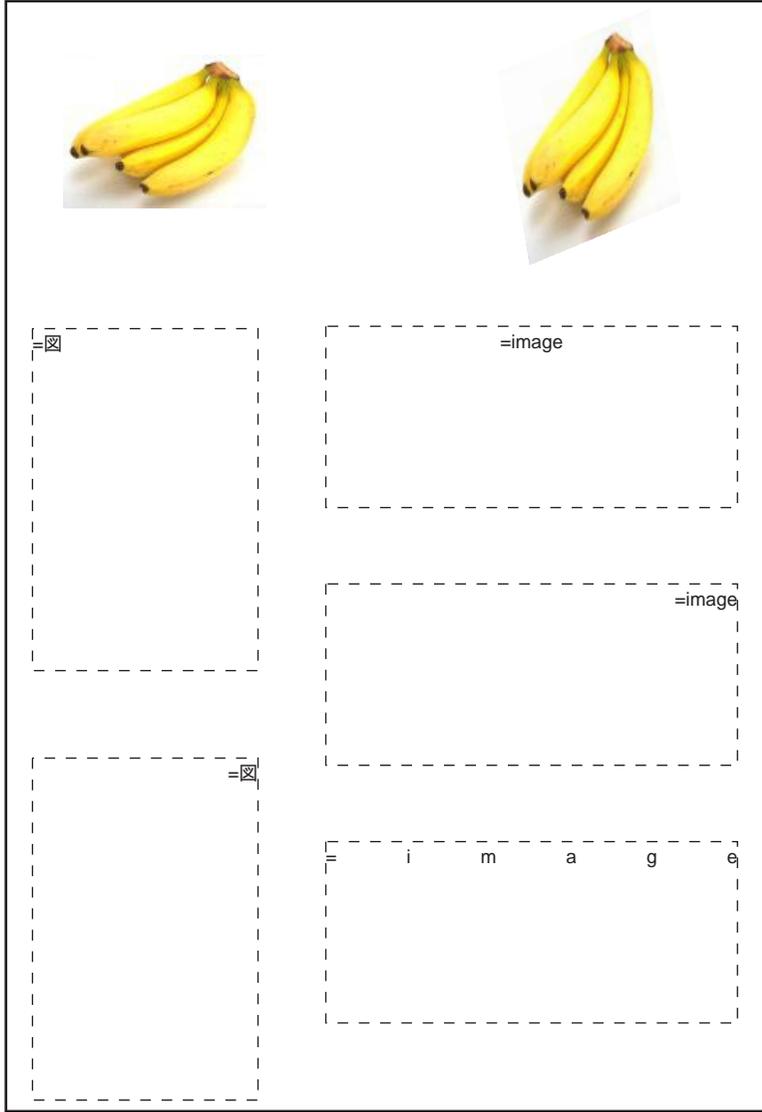


画像の取り込み例

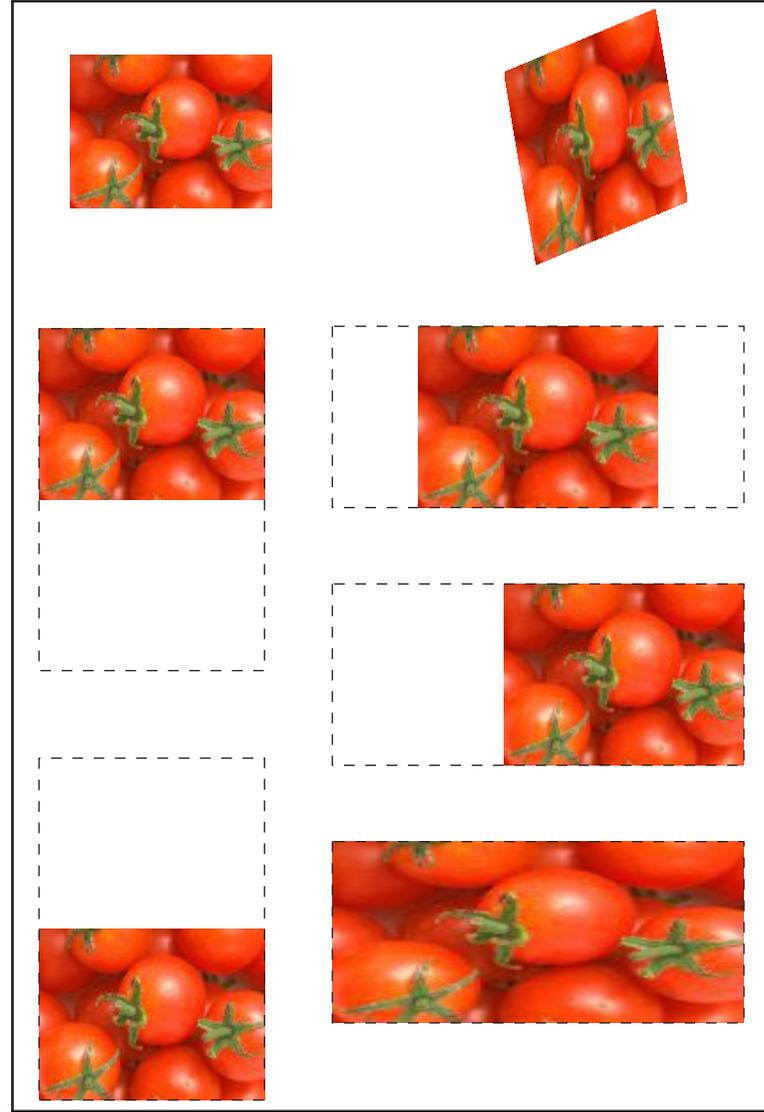
この例を試す前に必ず先のテキストオブジェクトだけの使用例をよく読んで試しておいてください。

もし「レコード順次取り込み」や「レコード一括取り込み」において画像取り込みの要領がつかめていれば先の例からの連想で操作可能です。もしそうなら以下の説明を読みとばしていただいで結構です。

- ・「画像例」フォルダにある Illustrator ファイル「画像.ai」を開いてください。
ここでは「バナナ」の画像が2つリンク配置され、「=図」または「=image」の文字列の入った矩形テキストオブジェクトが5つあります。この各オブジェクトを外部のテキスト形式のデータベースの文字列（ファイル名）の画像で置き換えてみます。
- ・「ウインドウ」メニューから「レコード逐一取り込み」を選んでください。
もし「レコード逐一取り込み」メニューにチェックマークがついていればパレットはすでに画面のどこかに現れているはずですが。
- ・パレットの「取込ファイルの指定」ボタンをクリックしてください。
- ・ダイアログが現れたら「画像例」フォルダにある「画像データ.txt」を開いてください。
- ・パレットの区切り指定を「タブ区切り」にしてください。
パレット中央のリストにテキストデータが表示されます。
- ・ページ上の全オブジェクトを選択してください。上段のオブジェクトはリンク配置された画像であること、他はテキストオブジェクトで文字揃えが異なっていることを覚えておいてください。取り込み画像の位置およびサイズはこの枠の大きさと文字揃えによって決まります。
- ・パレットのレコード番号を「1」にし第1レコードの「トマト」をダブルクリックしてください。（Windowsの場合は拡張子が付いています。）
ページ全体がトマトの画像に置換されたはずですが。
もし、そうでなければ割り当てが正しくないか、もとの「画像.ai」ファイル内容、または「画像例」フォルダの構成が変更されている可能性があります。疑わしい場合にはディスクから再度「画像例」フォルダをコピーし、初めからやり直してください。



実行前



実行後



ここで、画像データの取り込み方をまとめておきます。

外部の画像データを取り込む方法には、大きく分けてつぎの2通りがあります。

- (1) 配置画像そのものをテンプレートとして、それにデータベースのフィールドに記述されたファイル名の画像を取り込む。
- (2) テキストオブジェクトをテンプレートとして、それにデータベースのフィールドに記述されたファイル名またはフォルダパス名の画像を取り込む。

(1) 配置画像に取り込む場合の準備

【Illustrator 書類上に用意しておくもの】

EPS 画像を取り込む場合は EPS 画像を、ラスター画像 (TIFF など) を取り込む場合はラスター画像をリンク形式で配置しておきます。ラスター画像に EPS 画像を取り込むべく割り当てを行っても実行時には何も取り込まれません。(逆も同様) また、リンク形式で配置した画像に対してしか取り込むことができません。なおこの場合、スケール、回転、シアーなどの変形は元画像のそれらに従います。

【取込画像を用意しておく場所とデータベースのフィールドの記述内容】

取り込み画像はテンプレートの画像と同じフォルダに置く。

データベースには割り当て予定のフィールド欄に取り込み画像のファイル名 (Windows では拡張子を含む) を書き込んでおく。

(2) テキストオブジェクトに取り込む場合の準備

【Illustrator 書類上に用意しておくもの】

テキストオブジェクトで「=図」(先頭の「=」(イコール)は半角文字に限る)または「=image」(すべて半角だが大文字小文字またはその混在は可)としておきます。これ以外の文字は(改行やスペースなども)絶対含めないでください。

この場合の画像サイズは、パスを持たないテキストの場合はテキストの原点位置に画像左上端を合わせ、サイズは元画像の100%です。

一方、長方形パス内の文字として指定すると、そのテキストオブジェクトの文字揃えが「最終行も両端揃え」以外の場合は文字枠長方形の短辺に合わせて拡大または縮小されます。

テキストオブジェクトの文字揃えと画像の位置の関係は次の通りになります。

「左揃え」... 文字枠が横長の場合は左端、縦長の場合は上端に揃える。

「中央揃え」... 文字枠が横長の場合は左右の中心、縦長の場合は上下の中心に揃える。

「右揃え」... 文字枠が横長の場合は右端、縦長の場合は下端に揃える。

「最終行も両端揃え」... 文字枠いっぱいには拡大または縮小。

* 前ページ図参照

【取込画像を用意しておく場所とデータベースのフィールドの記述内容】

[方法 1]

取り込み画像はデータベースファイルと同じフォルダに置く。

この場合もデータベースには割り当て予定のフィールド欄にファイル名を書き込んでおく。

[方法 2]

取り込み画像は任意のフォルダに置く。

この場合はデータベースには割り当て予定のフィールドにファイルの場所を示すフォルダパス付けたファイル名を書き込んでおく。

ここでフォルダパスとは、Macintosh ではディスクから画像のあるフォルダまでの経路を「:」で区切って連結した文字列です。WINDOWS では「ドライブ名:¥」に続けて画像のあるフォルダ(ディレクトリ)までの経路を「¥」で区切って連結した文字列です。

フォルダパス付けたファイル名とは次のようなものです。

(Macintosh のパスの例)

Macintosh HD:チラシ:チラシ画像:バナナ

意味：画像ファイル「バナナ」は「Macintosh HD」ディスクの「チラシ」フォルダ中の「チラシ画像」フォルダにある。

(WINDOWS のパスの例)

c:¥User¥チラシ¥チラシ画像¥トマト.EPS

意味：画像ファイル「トマト」は「c」ドライブの「User」フォルダ中の「チラシ」フォルダの「チラシ画像」フォルダにある。

以上のうち(1)の方法が最も直感的です。この方法だけが拡大縮小以外の変形にも対応できます。

(2)は画像枠を指定する必要がある場合に利用します。このうち[方法 1]はフォルダパスの指定が不要なので割り当てレコードのフィールドに画像ファイルの名称を記述しておくだけ(ただし Windows の場合は拡張子は必要)ですから取り扱いが楽です。先ほど「トマト」や「バナナ」だけで取り込んだのはこの例です。各画像「トマト」や「バナナ」とデータベース「画像データ.txt」が同じ「画像例」フォルダの中にありますので確認してみてください。

一方、データベースファイルと画像ファイルを別のフォルダに置いて管理したい場合は、(2)の[方法 2]を使います。この場合は割り当てレコードのフィールドにフォルダパスを含めたファイル名を記述しておく必要があります。

* ディスク先頭からファイルの場所を示す文字列は普通は絶対パスまたは単にパスまたはパス名と呼びますが Illustrator のパスと混同しますのでここではフォルダパスとしました。

バーコードデータの変換について（「バーコード ROBO 3」でのみ可能）

「レコード順次取り込み」の「バーコードデータの変換」の項を参照してください。

テンプレートの指定やデータの記述方法は全く同じです。この「逐一取り込み」場合は「バーコード ROBO 3」で作成したバーコード・オブジェクトを選択してデータベース・フィールド（内容はバーコードデータ）のリストをダブルクリックするだけで即時に変換できます。

テキスト自動調製を併用する場合

「レコード逐一取り込み」においても「テキスト自動調製」機能を働かすことができます。その際「テキスト自動調製」パレットの「フィールド割当 / 取込時に適用」チェックボックスが ON になっていなければなりません。ただし編集中（カーソル点滅状態）のテキストには適用できません。

パレットの項目について

テキスト形式のデータベースファイルを指定。右隣りのポップアップにより「タブ区切り」「コンマ区切り」「改行区切り」を指定。

取込ファイルの履歴が最大 16 ファイルまでパス名で表示される。最近使用したファイルはフォルダを移動しない限りこのポップアップから選択すると能率的。

リストに表示されるレコード番号。

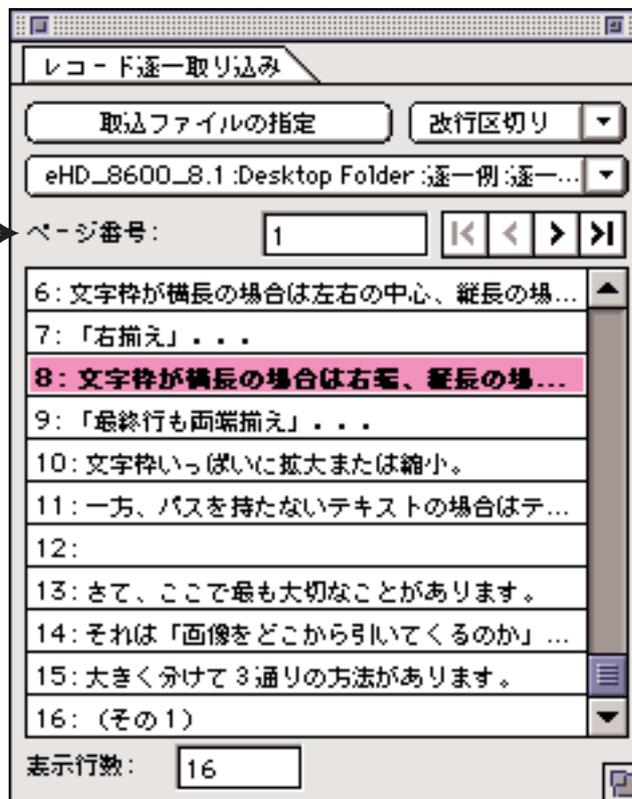


データベースのレコード間を移動するためのボタン。左から、「先頭」「前」「次」「最終」を表す。

現在指定されている取込ファイルのどれかのレコードがフィールド順で表示される。表示領域を広げるにはパレット右下のリサイズボックスをドラッグする。

<改行区切りの場合>

「改行区切り」の場合だけ「ページ番号:」と表示が変わる。この図の場合1ページを 16 レコードと見なしている。



これをドラッグすることによってレコードリスト部とファイル履歴ポップアップが拡大表示される。

「改行区切り」の場合だけ表示される。リストの表示行数を指定。1 ページ分のレコード数。

利用可能なデータベースファイルについて

当プラグインで利用可能なデータベースのファイル形式は「タブ区切りのテキスト形式」または「コンマ区切りのテキスト形式」(CSV形式)と呼ばれている汎用性の高いファイル形式です。

これらのファイル形式についてすでに理解されている方も、以下の部分に一通り目を通しておいてください。

この二つのファイル形式はファイルメーカー Pro や Microsoft Excel などの表計算ソフトウェアなら書き出し/保存形式としてたいてい備えているファイル形式です。書き出し方法はこれらの各ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

このようなファイルのサンプルは「データベース例」フォルダの「タブ区切り例 1.txt」と「コンマ区切り例 1.txt」にあります。それぞれ次のような内容になっています。

```
石川産<タブ>ブロッコリー<タブ>1 株<タブ>150 円  
北海道産<タブ>グリーンアスパラ<タブ>1 束<タブ>98 円  
香川産<タブ>玉ねぎ<タブ>1 ネット<タブ>  
群馬産<タブ>キャベツ<タブ>1 玉<タブ>198 円  
<タブ><タブ><タブ>  
山梨産<タブ>デラウエア<タブ><タブ>480 円  
アメリカ産チェリー<タブ>100g<タブ>88 円  
フィリピン産<タブ>バナナ<タブ>1 カット<タブ>150 円
```

```
"石川産","ブロッコリー","1 株","150 円"  
"北海道産","グリーンアスパラ","1 束","98 円"  
"香川産","玉ねぎ","1 ネット",""  
"群馬産","キャベツ","1 玉","198 円"  
"","",""  
"山梨産","デラウエア","","480 円"  
"アメリカ産","チェリー","100g","88 円"  
"フィリピン産","バナナ","1 カット","150 円"
```

ここで<タブ>の部分には実際にはタブコードがひとつ入っています。(このコードは普通は不可視なので、ここでは便宜上このように表記しています。)また各行の末尾には改行コードがひとつ入っています。テキスト編集ソフト(MacOS 付属の SimpleText や Windows 付属のワードパッドなど)で直接このようなデータを作成する場合には<タブ>の部分には Tab キーを 1 回挿入、行を改めるには改行キーを 1 回挿入します。

この各行単位のデータのまとまりを「レコード」と呼びます。「石川産 ...150 円」を第 1 レコード、「北海道産 ...98 円」を第 2 レコード(以下同様)といいます。そして、各レコードを構成しているタブまたはコンマで区切られている個々のデータを「フィールド」と呼びます。第 1 レコードなら「石川産」を第 1 フィールド、「ブロッコリー」を第 2 フィールド(以下同

様)といたします。

ところで、この例では第3レコードの第4フィールドは「空(データがない)」になっています。第5レコードは全フィールドが「空」になっています。また第6レコードの第3フィールドが「空」になっています。

当プラグインでは次のように第3レコードの末尾のタブやコンマ、および第5レコードのすべてのタブやコンマを省略したものでも同様な取り込みができます。またコンマ区切り形式のダブルクォーツ「"」を省略したものでも同様な取り込みができます。このようなファイルのサンプルは「データベース例」フォルダの「タブ区切り例 2.txt」,「コンマ区切り例 2.txt」,「コンマ区切り例 3.txt」にあります。

これらのファイルを実際に「レコード順次取り込み」パレットなどに読み込んでどのように

```
石川産<タブ>ブロッコリー<タブ>1株<タブ>150円  
北海道産<タブ>グリーンアスパラ<タブ>1束<タブ>98円  
香川産<タブ>玉ねぎ<タブ>1ネット  
群馬産<タブ>キャベツ<タブ>1玉<タブ>198円  
  
山梨産<タブ>デラウエア<タブ><タブ>480円  
アメリカ産チェリー<タブ>100g<タブ>88円  
フィリピン産<タブ>バナナ<タブ>1カット<タブ>150円
```

```
石川産,ブロッコリー,1株,150円  
北海道産,グリーンアスパラ,1束,98円  
香川産,玉ねぎ,1ネット  
群馬産,キャベツ,1玉,198円  
  
山梨産,デラウエア,,480円  
アメリカ産,チェリー,100g,88円  
フィリピン産,バナナ,1カット,150円
```

リスト表示されるか試してください。

「タブ区切り例.txt」ファイルを読み込む場合にはパレットの区切り指定を「タブ区切り」に、「コンマ区切り例.txt」ファイルを読み込む場合には「コンマ区切り」の指定になっていなければなりません。あえて逆に指定をするとどう表示されるかも試してみてください。また正しい区切り指定で「空」のフィールド部分がどう表示されるかも確認してください。

当プラグインでは割り当てたフィールド番号の内容が「空」の場合には何も出力しません。そして「データベース例」フォルダのファイルを取り込んだ結果はすべて同じになります。

(Windows版での注意) Windows上で直接テキストを作成する場合は、必ずMS-DOSテキスト

形式（拡張子「.txt」）で保存してください。例えば Microsoft ワードパッドなどで Microsoft Word 形式で保存してもそのまま使用できません。

また、Microsoft Excel で CSV(カンマ区切り)形式で保存したファイルの拡張子は「.CSV」ですがそのまま使用できます。ただしこの場合は取り込みダイアログのフィルタを「*.」としないとファイルリストには表示されませんのでご注意ください。なお、タブ区切り形式で保存すれば拡張子は「.txt」となります。

(Macintosh 版での注意) MacOS 上で一般のワープロソフトで作成したテキストファイルは Text 形式で保存する必要があります。このときのファイルタイプは「 ' TEXT '」です。

ファイルメーカー Pro や Microsoft Excel のデータを利用する場合には、特別の理由がない限り「タブ区切り」形式で書き出し / 保存することをお勧めします。

組版 ROBO・テキスト自動調整

何ができるか？

インパス・テキスト（パスの中のテキスト）やオンパス・テキスト（パスの上のテキスト）内のテキストがちょうどオブジェクトパス内に収まるように自動調整します。
複数のテキストオブジェクトを同時に処理できます。

どう動作するか？

インパス/オンパス・テキストがあふれていたり、空きがある場合（オプションによる）に、「水平方向変形」、「垂直方向変形と自動行送り」、「垂直方向変形と指定行送り」、「フォントサイズと自動行送り」、「フォントサイズと指定行送り」のうちのどれかを調整することによりジャストフィットさせます。

また、この機能をレコード取り込み時に作用させることもできます。



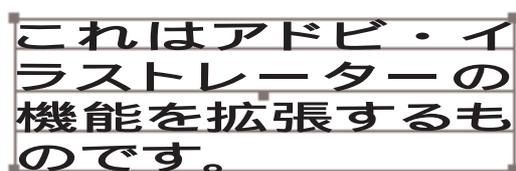
<水平方向変形による>



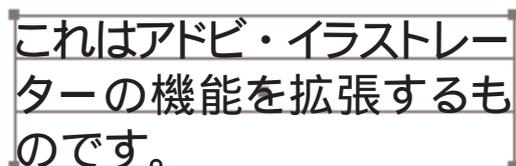
<フォントサイズによる>



<水平方向変形による>



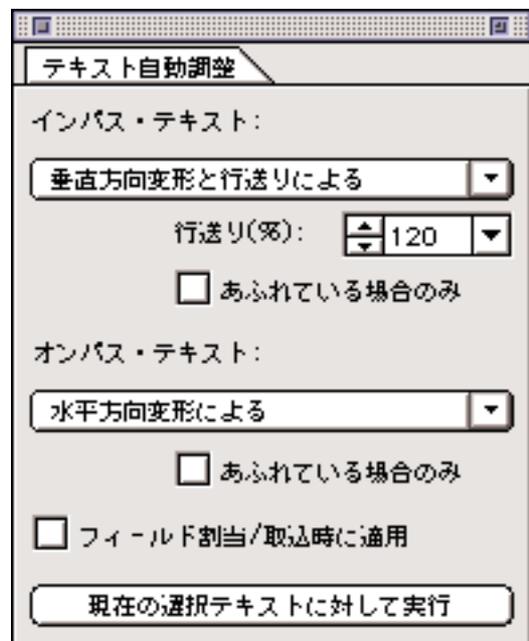
<垂直方向変形と自動行送りによる>



<フォントサイズと自動行送りによる>

単独使用例

- ・「テキスト自動調整例」フォルダにある Illustrator ファイル「自動調整.ai」を開いてください。
- ・「ウインドウ」メニューから「テキスト自動調整」を選んでください。
図のようなパレットが現れます。
- ・書類の左上にあるテキスト「アドビ・イラ...」を選択してください。
このオブジェクトはテキストの一部が隠れて見えない状態になっていると思います。
- ・パレットの「インパス・テキスト」を「水平方向変形による」にし「あふれた場合のみ処理」は OFF にしておいてください。
- ・「現在の選択テキストに対して実行」ボタンを1度だけクリックしてください。
水平方向サイズが変更され、枠内にテキストが収まり「アドビ・イラストレーター」の文字表示されます。
- ・次に書類のテキスト「Adobe Ill...」を選択してください。
このオブジェクトはテキストの一部が隠れて見えない状態になっていると思います。
- ・パレットの「オンパス・テキスト」を「水平方向変形による」にし「あふれた場合のみ処理」は OFF にしておいてください。
- ・「現在の選択テキストに対して実行」ボタンを1度だけクリックしてください。
水平方向サイズが変更され、オブジェクトパス上にテキストが収まり「Adobe Illustrator」の文字が表示されます。
- ・今度は書類のテキスト「これはアドビ・イラストレーターの...」を選択してください。
このオブジェクトもテキストの一部が隠れて見えない状態になっていると思います。
- ・パレットの「オンパス・テキスト」を「フォントサイズと自動行送りによる」にし「あふれた場合のみ処理」は OFF にしておいてください。
- ・「現在の選択テキストに対して実行」ボタンを1度だけクリックしてください。
フォントサイズと行送り量が変更され、オブジェクトパス上にテキストが収まり「これはアドビ・イラストレーターの機能を拡張するものです。」の文字表示されます。



レコード取り込みとの併用例

「レコード順次取り込み」の章の「[テキスト自動調整を併用した例](#)」をご覧ください。

(注意) Illustrator 標準パレットの「文字」や「段落設定」などの設定内容にも常に注意を払ってください。すべてこの「テキスト自動調整」に反映されます。特に「詰め」、「組み」、「ぶらさがり」、「自動ハイフン」、「禁則処理」は重要です。

パレットの項目について

The screenshot shows a dialog box titled 'テキスト自動調整' (Text Auto Adjustment). It is divided into two main sections: 'インパス・テキスト' (In-pass Text) and 'オンパス・テキスト' (On-pass Text). In the 'インパス・テキスト' section, there is a dropdown menu set to '垂直方向変形と行送りによる' (By vertical deformation and line spacing), a '行送り(%)' (Line spacing (%)) spinner set to 120, and a checkbox 'あふれている場合のみ' (Only when overflowing) which is unchecked. In the 'オンパス・テキスト' section, there is a dropdown menu set to '水平方向変形による' (By horizontal deformation), a checkbox 'あふれている場合のみ' (Only when overflowing) which is unchecked, and a checkbox 'フィールド割当/取込時に適用' (Apply when assigning/inserting fields) which is unchecked. At the bottom, there is a button '現在の選択テキストに対して実行' (Execute for the selected text). Annotations with arrows point to these elements: the first dropdown, the line spacing spinner, the 'あふれている場合のみ' checkbox in the top section, the second dropdown, the 'あふれている場合のみ' checkbox in the bottom section, the 'フィールド割当/取込時に適用' checkbox, and the bottom button.

これが OFF の場合は、テキストがあふれていなくても枠いっぱいになるように自動調整を実行。

インパス・テキストの調整方法を指定。

調整方法が「...行送りによる」場合に設定可能。偏倍効果を含めたフォントサイズに対する比率。

オンパス・テキストの調整方法を指定。

テキスト自動調整機能を単独使用する場合には、インパスまたはオンパステキストをひとつまたは複数選択しておいてこのボタンをクリックする。

「レコード順次/一括取り込み」機能においてフィールドを割り当てる際に、該当オブジェクトに対してテキスト自動調整をも指定するかどうかは、その時これが ON かどうかによる。

また、取込実行時にもこれが ON になっている場合だけテキスト自動調整を実行する。もちろんこのときの調整方法は割り当て時の方法が採られる。

(注意) 垂直方向変形と行送りによる場合の実際の行送り量はフォントサイズに垂直変形率とここで設定する行送り率を掛け合わせた量。

バーコード ROBO・JAN/EAN13

何ができるか？

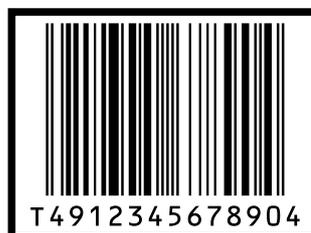
JAN13 (JAN 標準) または EAN13 のバーコードを作成できます。

どう動作するか？

12 桁の指定コードから 13 桁目のチェックデジットを自動計算し、対応するバーコードシンボルを Illustrator のオブジェクトとして出力します。

特徴

- ・設定 作成はすべてパレットでおこなうので書類編集などと平行作業が可能。
- ・シンボルを構成する各モジュールのサイズや OCR 文字のフォーマット設定が柔軟にできるのでいろいろなスタイルのバーコードが作成可能。
- ・設定をセットメニュー化できるのでカスタマイズしたバーコードが一瞬で呼び出せる。
- ・付属の「組版 ROBO 3」を併用すればデータベースのコードを連続変換出力可能。バッチ処理にも対応。
- ・照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェック。(必要なら再生)
- ・2 または 5 桁のアドオンコードをもサポート。
- ・コード数字と区別できればコード中に任意の文字を挿入可能。(シンボル化されずに、そのまま出力。ただし文字揃えが標準フォーマットの場合は単に無視)



基本的な使用例

(その1)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「JAN/EAN13」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、Illustrator の「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・JAN/EAN13」を選んでください。
- ・「JAN/EAN13」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄に 12 桁の数字列が入っていますが、これは JAN13 桁コードのうち末尾のチェックデジットを除いた数字列です。13 桁目のチェックデジットは自動計算され右隣の欄に表示されます。
- ・そのまま「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。

(その2)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「JAN/EAN13」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・JAN/EAN13」を選んでください。
- ・「JAN/EAN13」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄の数字列の先頭に半角文字で「T」を挿入してください。
- ・「カスタマイズ」をオンにしてください。
- ・パレットが拡大して設定項目が増えます。
- ・「左/右/上/下余白」入力欄をそれぞれ「4」_上、「4」_下、「1」_左、「6」_右（単位は mm 以下同）にします。
- ・「ベアラバー」をオンにし、その値を「1」にします。
- ・「文字揃え」を「中央」にします。
すると「ガード/センターバー高」入力欄が自動的に「22.86」になります。これはすぐ上の「データバー高」と同じ値です。
- ・「文字位置」入力欄を「5」にします。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。
- ・ここでの設定は次の例へ引継ぎますのでそのままにしておいてください。

* コード数字と区別できればコード中に任意の文字を挿入可能。（シンボル化されずに、そのまま出力。ただし文字揃えが標準フォーマットの場合は単に無視）ただし、制御コード、`、\、[、]、¥、および特殊コードを含むシンボルの作成をした場合は、コードのデータだけ「照合」ボタンによるデータの読み込みができません。

(その3)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「その2」での設定で、「シンボル全体の高さ」を「25」mm にしてください。これにともないパレットのカスタマイズ部の各関連数値が自動的に変化します。
- ・「作成」ボタンをクリックしてでき具合を確認します。
作成したバーコードは削除しておいてください。
- ・今度はこの設定を保存してみます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「定義パレットを表示」

- を選びます。以後このポップアップを「プリセットメニュー」と呼びます。
- ・現在のパレットの隣りにさらにパレットが開きます。
 - ・定義パレット下段左の「新規」ボタンをクリックしてください。
 - ・現在の設定に名前を付けるためのダイアログが開きます。
 - ・そのダイアログの入力欄にここでは「T25HB」と入力し「OK」ボタンを押してください。
 - ・リスト欄に「T25HB」という行が追加されているはずです。これで、現在の設定が「T25HB」という名称でプリセットメニューに追加されました。
 - ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを隠す」を選んで閉じてください。
 - ・いったん「プリセットメニュー」から「初期設定」を選び、「作成」ボタンで標準のバーコードを作成します。

書類上にできたバーコードを少し下へ移動し、選択を解除しておいてください。

- ・次に「プリセットメニュー」からさきほどの「T25HB」を選んで作成してみてください。この例で最初に作成したバーコードの設定がパレットに読み込まれ再現されます。
 - ・今度はこのプリセットメニュー「T25HB」を削除してみます。
 - ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを表示」を選んでください。
 - ・定義パレットのリスト「T25HB」を選択（反転）し、定義パレット下段右の「削除」ボタンをクリックしてください。確認のダイアログが現れたら OK ボタンを押します。
 - ・「プリセットメニュー」から「T25HB」が削除されていることを確認してください。
- 書類上にできた2つのバーコードとパレットの設定はそのままにして次の例へ進んでください。

* プリセットメニューに関する詳細は「プリセットメニューについて」の章をご覧ください。

(その4)

- ・「その3」において初期設定で作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・もう一度試します。「その3」でT25HBと名付けて作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・設定をそのままに、いったん書類上のバーコードをすべて削除してください。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・「その3」でT25HBと名付けて作成したバーコードが復元します。

このように照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能です。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェックできますので、必要なら再生してください。

「バーコード ROBO 3」で作成したバーコード・オブジェクトはすべてグループ化されていますが、このグループは解除しないでください。もし解除すれば照合機能は働きません。

パレットの設定項目について

チェックデジットの除いた12桁の数字

チェックデジット

2または5桁のアドオンコード（通常空欄）

「プリセットメニューについて」の章を参照。

OCR文字の出力制御。OFFのときはバーのみ作成。

拡大縮小率(%)

シンボル全体の高さ

黒バー幅の補正値(μ)

カスタマイズ

照合

作成

これをONにすると、カスタマイズ用の拡張パレットに。(次ページ)

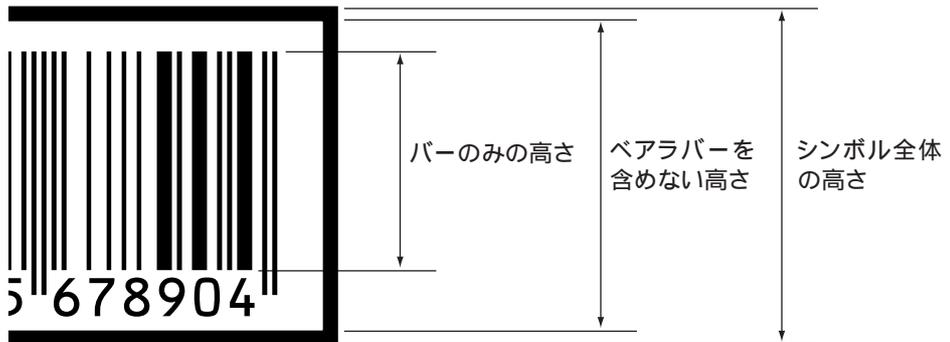
シンボル全体の拡大縮小率。これにともなって各関連項目の数値が増減。

いわゆるBWR。この設定値分だけ各バー幅が増減。単位はミクロン(千分の一ミリ)でマイナスで減少。

作成したバーコードオブジェクトを選択状態にしてこのボタンをクリックすると、作成時の設定をパレットに復元。

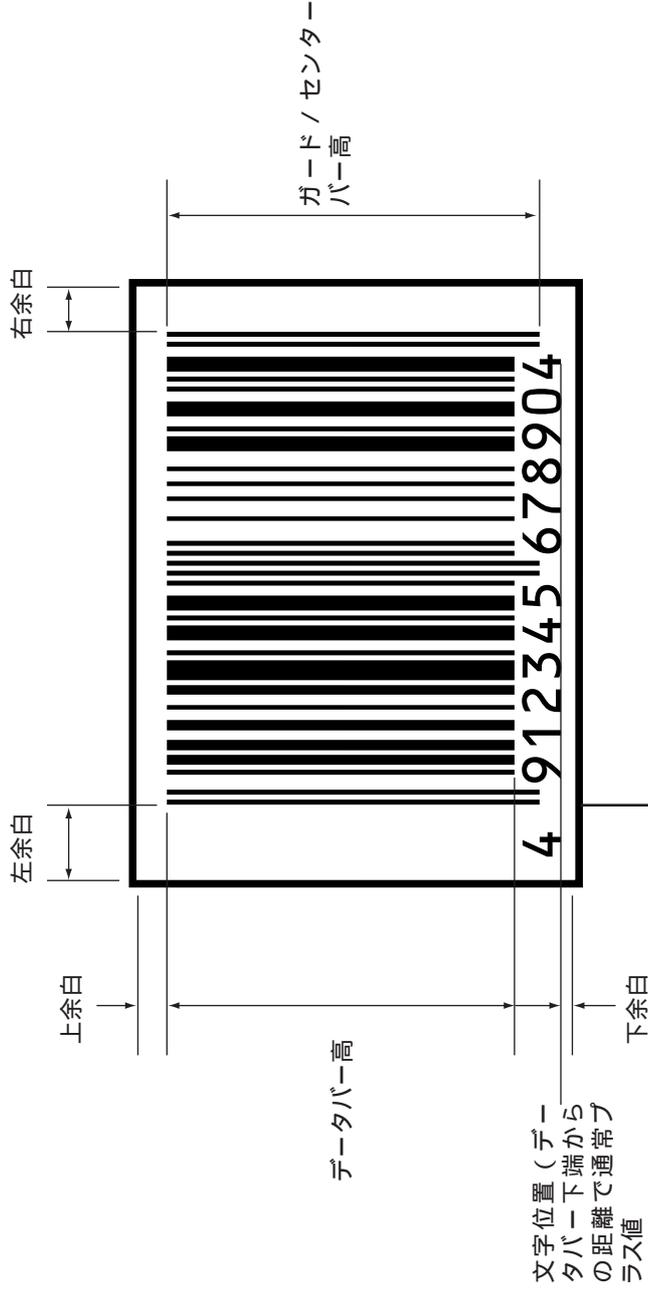
作成実行ボタン。ただしコード入力不正のときは無効。(グレー表示)

左のポップアップメニュー項目には「シンボル全体の高さ」「ベアラバーを含めない高さ」「バーのみの高さ」があり、必要に応じてこれらを選択してからその高さを設定。これにともないカスタマイズ部の関連値が増減。(下図参照)

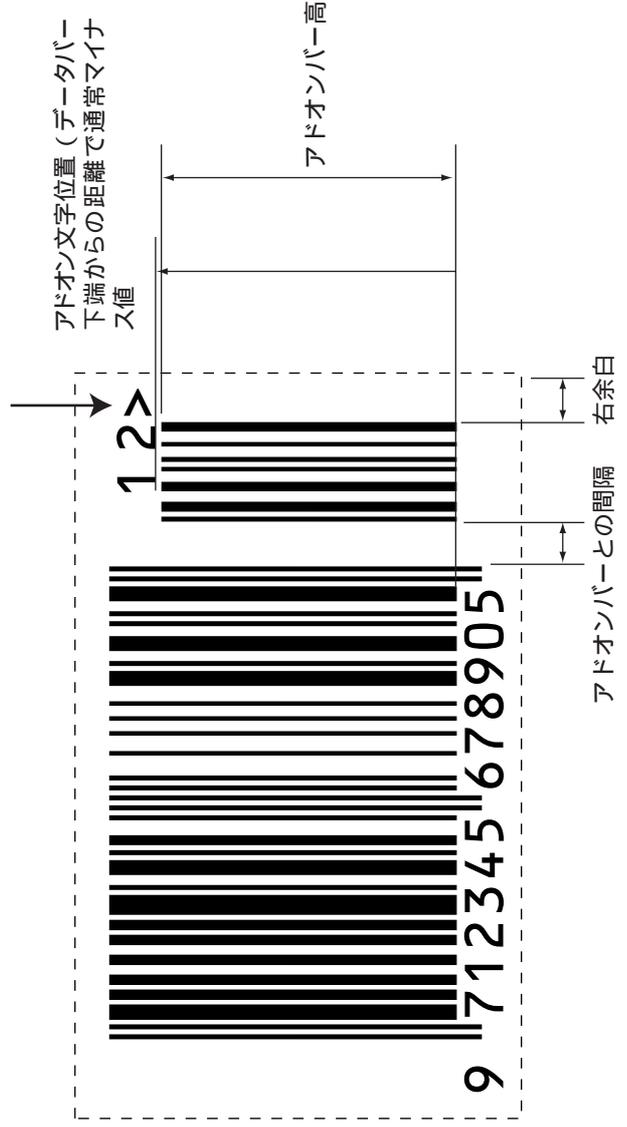


* ベアラバーがないときは「ベアラバーを含めない高さ」は「シンボル全体の高さ」と同じ値

<input checked="" type="checkbox"/> カスタマイズ	<input type="checkbox"/> 照合	<input type="button" value="作成"/>
データバー高(mm):	<input type="text" value="45.72"/>	
ガード/センターバー高(mm):	<input type="text" value="49.02"/>	
アドオンバー高(mm):	<input type="text" value="38.86"/>	
アドオンバーとの間隔(mm):	<input type="text" value="5.94"/>	
左余白(mm):	<input type="text" value="10"/>	
右余白(mm):	<input type="text" value="6"/>	
上余白(mm):	<input type="text" value="4"/>	
下余白(mm):	<input type="text" value="8"/>	
<input checked="" type="checkbox"/> ペアラバー(mm):	<input type="text" value="1"/>	
フォント:	<input type="text" value="OCR-B"/>	
文字サイズ(pt):	<input type="text" value="19.6"/>	<input type="button" value="標準"/>
文字揃え:	<input type="text" value="標準フォーマット"/>	
文字位置(mm):	<input type="text" value="6.1"/>	
アドオン文字位置(mm):	<input type="text" value="-39.62"/>	
トラッキング(em/1000):	<input type="text" value="0"/>	
行方向比率(%):	<input type="text" value="100"/>	
<input checked="" type="checkbox"/> クワイエットゾーン・マーク		



ペアラバー OFF の場合は塗り白線なしの余白確保のためのフレーム。ペアラバー ON の場合は塗りなし。



「文字揃え」の標準フォーマット以外、「トラッキング」および「行方向比率」は Illustrator の文字設定と同様。「文字揃え」の標準フォーマット以外を使用する場合はガード/センターバーをデータバーと同じ長さで設定する。「トラッキング」は「文字揃え」が標準フォーマット以外の場合に有効。文字サイズの「標準」ボタンは初期設定時の「フォント」ごとの最適な値を設定。

バーコード ROBO・JAN/EAN8

何ができるか？

JAN8 (JAN 短縮) または EAN8 のバーコードを作成できます。

どう動作するか？

7桁の指定コードから8桁目のチェックデジットを自動計算し、対応するバーコードシンボルをIllustratorのオブジェクトとして出力します。

特徴

- ・設定 作成はすべてパレットでおこなうので書類編集などと平行作業が可能。
- ・シンボルを構成する各モジュールのサイズやOCR文字のフォーマット設定が柔軟にできるのでいろいろなスタイルのバーコードが作成可能。
- ・設定をセットメニュー化できるのでカスタマイズしたバーコードが一瞬で呼び出せる。
- ・付属の「組版ROBO3」を併用すればデータベースのコードを連続変換出力可能。バッチ処理にも対応。
- ・照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能。これにより作成後にバーコードが変更されたかどうかを簡単にチェック。(必要なら再生)
- ・2または5桁のアドオンコードをもサポート。
- ・レイアウト機能を併用すればデータベースのコードを連続変換出力可能。
- ・コード数字と区別できればコード中に任意の文字を挿入可能。(シンボル化されずに、そのまま出力。ただし文字揃えが標準フォーマットの場合は単に無視)



基本的な使用例

(その1)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「JAN/EAN8」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・JAN/EAN8」を選んでください。
- ・「JAN/EAN8」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄に7桁の数字列が入っていますが、これは JAN 8桁コードのうち末尾のチェックデジットを除いた数字列です。8桁目のチェックデジットは自動計算され右隣りの欄に表示されます。
- ・そのまま「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。

(その2)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「JAN/EAN8」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・JAN/EAN8」を選んでください。
- ・「JAN/EAN8」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄に半角文字で「4901234」と入力してください。チェックデジット欄は「7」になったはずですが。（カーソルが入力欄にあるうちは確定しません。）
- ・「カスタマイズ」をオンにしてください。
- ・パレットが拡大して設定項目が増えます。
- ・「左/右/上/下余白」入力欄をそれぞれ「4」_上、「4」_下、「1」_左、「6」_右（単位は mm 以下同）にします。
- ・「ベアラバー」をオンにし、その値を「0.5」にします。
- ・「文字揃え」を「中央」にします。
すると「ガード/センターバー高」入力欄が自動的に「18.23」になります。これはすぐ上の「データバー高」と同じ値です。
- ・「文字位置」入力欄を「5」にします。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。
- ・ここでの設定は次の例へ引継ぎますのでそのままにしておいてください。

(その3)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「その2」での設定で、「シンボル全体の高さ」を「16」mm にしてください。これにともないパレットのカスタマイズ部の各関連数値が自動的に変化します。
- ・「作成」ボタンをクリックしてでき具合を確認します。
作成したバーコードは削除しておいてください。
- ・今度はこの設定を保存してみます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「定義パレットを表示」を選びます。以後このポップアップを「プリセットメニュー」と呼びます。
- ・現在のパレットの隣りにさらにパレットが開きます。
- ・定義パレット下段左の「新規」ボタンをクリックしてください。
- ・現在の設定に名前を付けるためのダイアログが開きます。

- ・そのダイアログの入力欄にここでは「16HB」と入力し「OK」ボタンを押してください。
- ・リスト欄に「16HB」という行が追加されているはずですが、これで、現在の設定が「16HB」という名称でプリセットメニューに追加されました。
- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを隠す」を選んで閉じてください。
- ・いったん「プリセットメニュー」から「初期設定」を選び、「作成」ボタンで標準のバーコードを作成します。
書類上にできたバーコードを少し下へ移動し、選択を解除しておいてください。
- ・次に「プリセットメニュー」からさきほどの「16HB」を選んで作成してみてください。この例で最初に作成したバーコードの設定がパレットに読み込まれ再現されます。
- ・今度はこのプリセットメニュー「16HB」を削除してみます。
- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを表示」を選んでください。
- ・定義パレットのリスト「16HB」を選択（反転）し、定義パレット下段右の「削除」ボタンをクリックしてください。確認のダイアログが現れたらOKボタンを押します。
- ・「プリセットメニュー」から「16HB」が削除されていることを確認してください。

* プリセットメニューに関する詳細は「プリセットメニューについて」の章をご覧ください。

(その4)

- ・「その3」において初期設定で作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・もう一度試します。「その3」で16HBと名付けて作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・設定をそのままに、いったん書類上のバーコードをすべて削除してください。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・「その3」で16HBと名付けて作成したバーコードが復元します。

このように照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能です。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェックできますので、必要なら再生してください。

* コード数字と区別できればコード中に任意の文字を挿入可能。(シンボル化されずに、そのまま出力。ただし文字揃えが標準フォーマットの場合は単に無視)ただし、制御コード、“()、[]、¥”、および特殊コードを含むシンボルの作成をした場合は、コードのデータだけ「照合」ボタンによるデータの読み込みができません。

「バーコード ROBO 3」で作成したバーコード・オブジェクトはすべてグループ化されていますが、このグループは解除しないでください。もし解除すれば照合機能は働きません。

パレットの設定項目について

チェックデジットの除いた7桁の数字

チェックデジット

2または5桁のアドオンコード（通常空欄）

JAN/EAN8

コード: 4912349 4

OCR文字の出力制御。OFFのときはバーのみ作成。

出力

拡大縮小率(%): 100

シンボル全体の高さ 21.97 mm

黒バー幅の補正值(μ): 0

これをONにすると、カスタマイズ用の拡張パレットに。(次ページ)

カスタマイズ

照合

作成

「プリセットメニューについて」の章を参照。

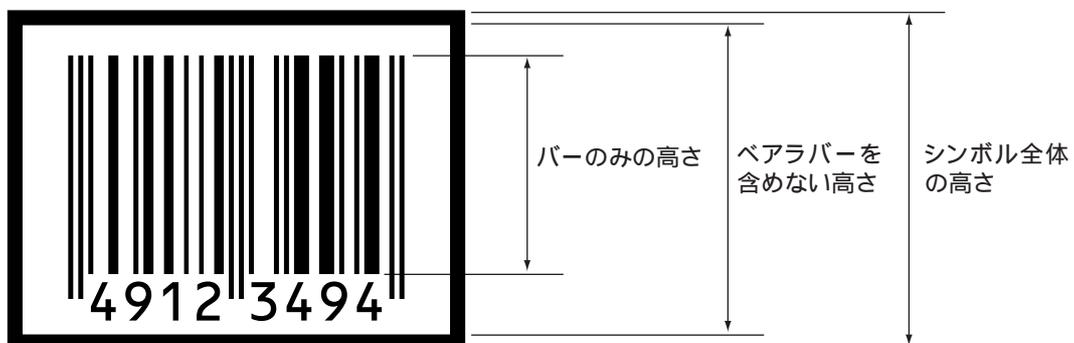
シンボル全体の拡大縮小率。これにともなって各関連項目の数値が増減。

いわゆるBWR。この設定値分だけ各バー幅が増減。単位はミクロン（千分の一ミリ）でマイナスで減少。

作成実行ボタン。ただしコード入力不正のときは無効。(グレー表示)

作成したバーコードオブジェクトを選択状態にしてこのボタンをクリックすると、作成時の設定をパレットに復元。

左のポップアップメニュー項目には「シンボル全体の高さ」「ベアラバーを含めない高さ」「バーのみの高さ」があり、必要に応じてこれらを選択してからその高さを設定。これにともないカスタマイズ部の関連値が増減。(下図参照)



* ベアラバーがないときは「ベアラバーを含めない高さ」は「シンボル全体の高さ」と同じ値

カスタマイズ 照合 作成

データバー-高(mm):

ガード/センターバー-高(mm):

アドオンバー-高(mm):

アドオンバー-との間隔(mm):

左余白(mm):

右余白(mm):

上余白(mm):

下余白(mm):

ヘアラバー-(mm):

フォント:

文字サイズ(pt):

文字揃え: フォント

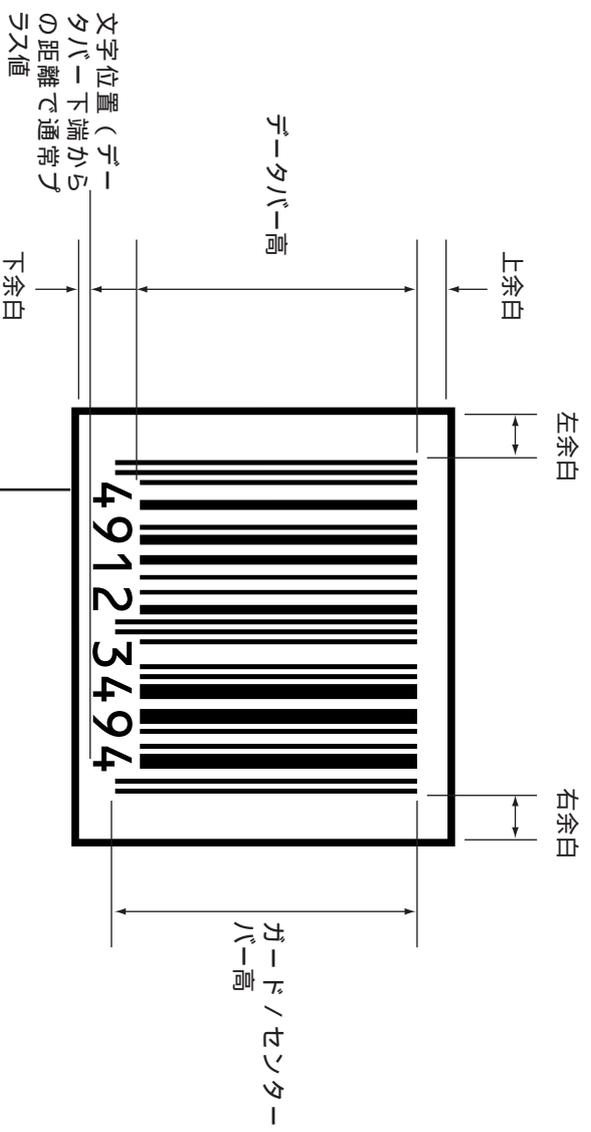
文字位置(mm):

アドオン文字位置(mm):

トラックニング(em/1000):

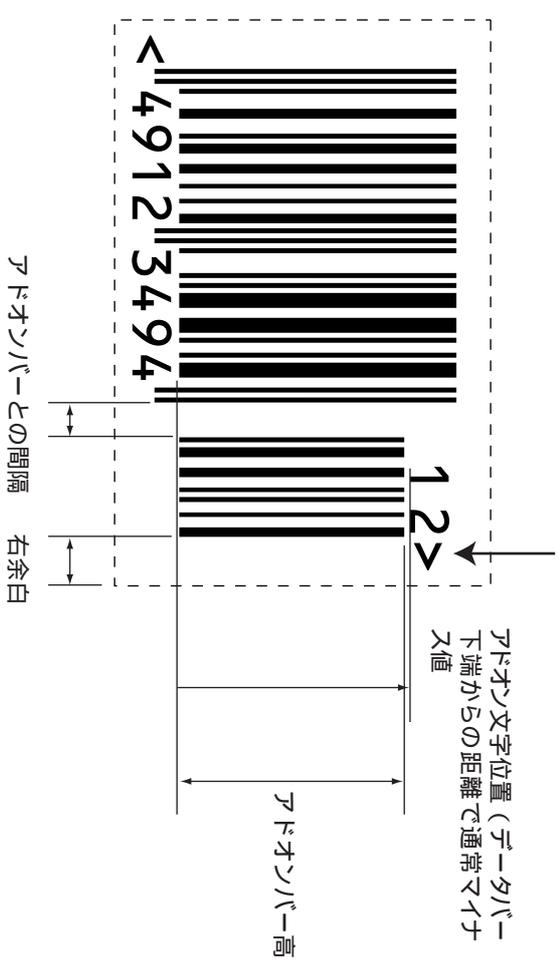
行方向比率(%):

クライエッジゾーンマーク



ヘアラバー-OFF
 の場合は塗り白、
 線なしの余白確保
 のためのフレイム。
 ヘアラバーON
 の場合は塗りなし。

クライエッジゾーンマーク「>」
 (左右の余白を確保するために使用)



「文字揃え」の標準フォント以外、「トラックニング」および「行方向比率」は Illustrator の文字設定と同様。「文字揃え」の標準フォント以外を使用する場合はガード/センターバーをデータバーと同じ長さに設定する。「トラックニング」は「文字揃え」が標準フォント以外の場合に有効。文字サイズの「標準」ボタンは初期設定時の「フォント」ごとの最適な値を設定。

バーコード ROBO・UPC(A)

何ができるか？

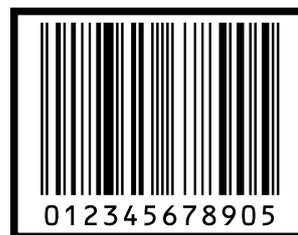
UPC A バージョンのバーコードを作成できます。

どう動作するか？

11桁の指定コードから12桁目のチェックデジットを自動計算し、対応するバーコードシンボルをIllustratorのオブジェクトとして出力します。

特徴

- ・設定 作成はすべてパレットでおこなうので書類編集などと平行作業が可能。
- ・シンボルを構成する各モジュールのサイズやOCR文字のフォーマット設定が柔軟にできるのでいろいろなスタイルのバーコードが作成可能。
- ・設定をセットメニュー化できるのでカスタマイズしたバーコードが一瞬で呼び出せる。
- ・付属の「組版ROBO3」を併用すればデータベースのコードを連続変換出力可能。バッチ処理にも対応。
- ・照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能。これにより作成後にバーコードが変更されたかどうかを簡単にチェック。(必要なら再生)
- ・2または5桁のアドオンコードをもサポート。
- ・レイアウト機能を併用すればデータベースのコードを連続変換出力可能。
- ・コード数字と区別できればコード中に任意の文字を挿入可能。(シンボル化されずに、そのまま出力。ただし文字揃えが標準フォーマットの場合は単に無視)



基本的な使用例

(その1)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「UPC(A)」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・UPC(A)」を選んでください。
- ・「UPC(A)」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄に 11 桁の数字列が入っていますが、これは UPC(A)の 11 桁コードのうち末尾のチェックデジットを除いた数字列です。12 桁目のチェックデジットは自動計算され右隣りの欄に表示されます。
- ・そのまま「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。

(その2)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「UPC(A)」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・UPC(A)」を選んでください。
- ・「UPC(A)」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄に半角文字で「01231231230」と入力してください。チェックデジット欄は「6」になったはずです。（カーソルが入力欄にあるうちは確定しません。）
- ・「カスタマイズ」をオンにしてください。
- ・パレットが拡大して設定項目が増えます。
- ・「左/右/上/下余白」入力欄をそれぞれ「4」_上、「4」_下、「1」_左、「6」_右（単位は mm 以下同）にします。
- ・「ベアラバー」をオンにし、その値を「1」にします。
- ・「文字揃え」を「中央」にします。
すると「ガード/センターバー高」入力欄が自動的に「22.86」になります。これはすぐ上の「データバー高」と同じ値です。
- ・「文字位置」入力欄を「5」にします。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。
- ・ここでの設定は次の例へ引継ぎますのでそのままにしておいてください。

(その3)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「その2」での設定で、「シンボル全体の高さ」を「25」mm にしてください。これにともないパレットのカスタマイズ部の各関連数値が自動的に変化します。
- ・「作成」ボタンをクリックしてでき具合を確認します。
作成したバーコードは削除しておいてください。
- ・今度はこの設定を保存してみます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「定義パレットを表示」を選びます。以後このポップアップを「プリセットメニュー」と呼びます。
- ・現在のパレットの隣りにさらにパレットが開きます。
- ・定義パレット下段左の「新規」ボタンをクリックしてください。
- ・現在の設定に名前を付けるためのダイアログが開きます。

- ・そのダイアログの入力欄にここでは「25HB」と入力し「OK」ボタンを押してください。
- ・リスト欄に「25HB」という行が追加されているはずですが、これで、現在の設定が「25HB」という名称でプリセットメニューに追加されました。
- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを隠す」を選んで閉じてください。
- ・いったん「プリセットメニュー」から「初期設定」を選び、「作成」ボタンで標準のバーコードを作成します。
書類上にできたバーコードを少し下へ移動し、選択を解除しておいてください。
- ・次に「プリセットメニュー」からさきほどの「25HB」を選んで作成してみてください。この例で最初に作成したバーコードの設定がパレットに読み込まれ再現されます。
- ・今度はこのプリセットメニュー「25HB」を削除してみます。
- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを表示」を選んでください。
- ・定義パレットのリスト「25HB」を選択（反転）し、定義パレット下段右の「削除」ボタンをクリックしてください。確認のダイアログが現れたらOKボタンを押します。
- ・「プリセットメニュー」から「25HB」が削除されていることを確認してください。

* プリセットメニューに関する詳細は「プリセットメニューについて」の章をご覧ください。

(その4)

- ・「その3」において初期設定で作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・もう一度試します。「その3」で25HBと名付けて作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・設定をそのままに、いったん書類上のバーコードをすべて削除してください。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・「その3」で25HBと名付けて作成したバーコードが復元します。

このように照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能です。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェックできますので、必要なら再生してください。

* コード数字と区別できればコード中に任意の文字を挿入可能。(シンボル化されずに、そのまま出力。ただし文字揃えが標準フォーマットの場合は単に無視)ただし、制御コード、(、)、[、]、¥、および特殊コードを含むシンボルの作成をした場合は、コードのデータだけ「照合」ボタンによるデータの読み込みができません。

「バーコード ROBO 3」で作成したバーコード・オブジェクトはすべてグループ化されていますが、このグループは解除しないでください。もし解除すれば照合機能は働きません。

パレットの設定項目について

チェックデジットの除いた11桁の数字

チェックデジット

2または5桁のアドオンコード（通常空欄）

「プリセットメニューについて」の章を参照。

OCR文字の出力制御。OFFのときはバーのみ作成。

拡大縮小率(%)

シンボル全体の高さ

罫幅の補正值(μ)

これをONにすると、カスタマイズ用の拡張パレットに。(次ページ)

カスタマイズ

照合

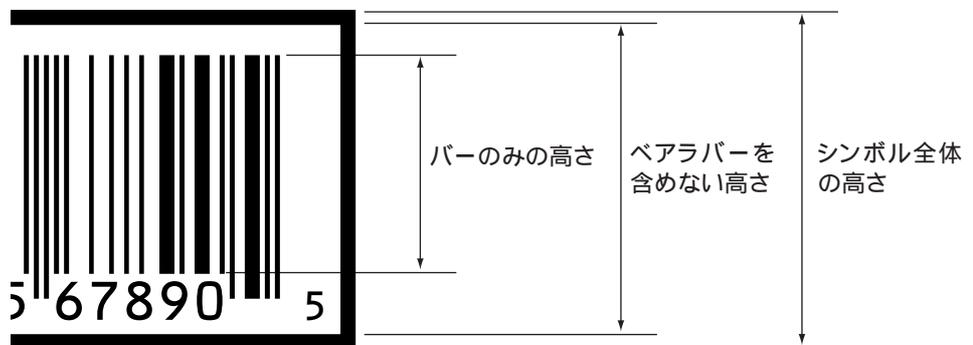
作成

いわゆるBWR。この設定値分だけ各バー幅が増減。単位はミクロン（千分の一ミリ）でマイナスで減少。

作成実行ボタン。ただしコード入力不正のときは無効。(グレー表示)

シンボル全体の拡大縮小率。これにともなって各関連項目の数値が増減。

左のポップアップメニュー項目には「シンボル全体の高さ」「ベアラバーを含めない高さ」「バーのみの高さ」があり、必要に応じてこれらを選択してからその高さを設定。これにともないカスタマイズ部の関連値が増減。(下図参照)



*ベアラバーがないときは「ベアラバーを含めない高さ」は「シンボル全体の高さ」と同じ値

カスタマイズ 照合

データバー高(mm):

ガード/センターバー高(mm):

アドオンバー高(mm):

アドオンバーとの間隔(mm):

左余白(mm):

右余白(mm):

上余白(mm):

下余白(mm):

ベアラバー-(mm):

フォント:

文字サイズ(pt):

文字挿え:

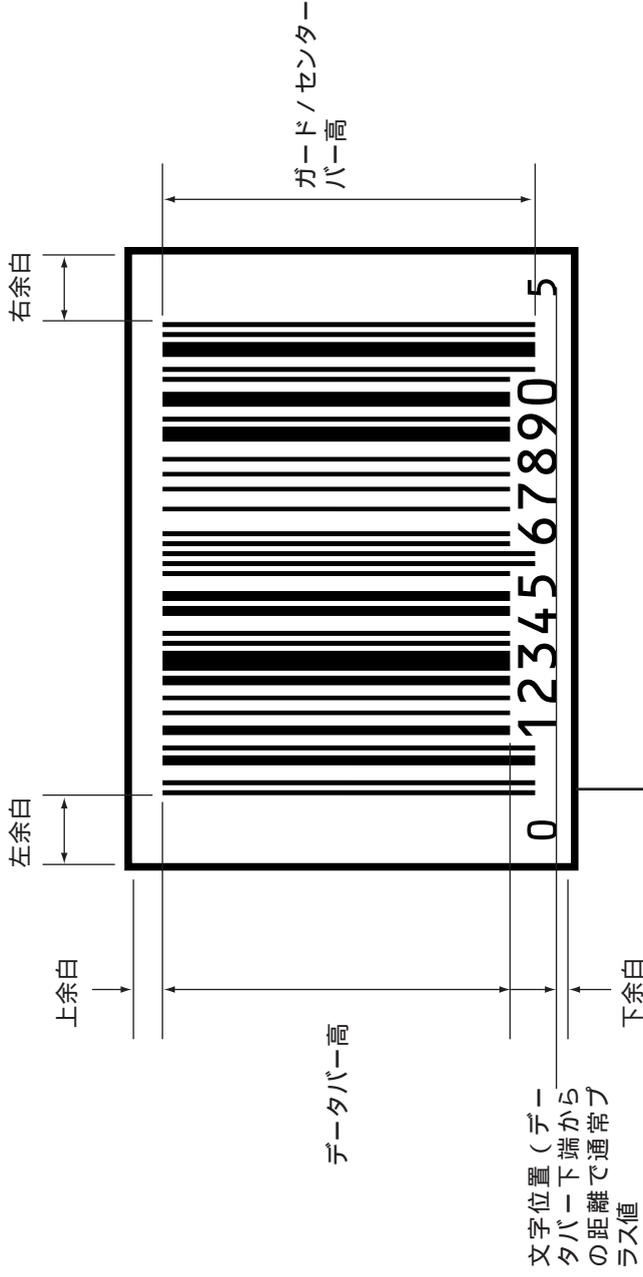
文字位置(mm):

アドオン文字位置(mm):

トラッキング(em/1000):

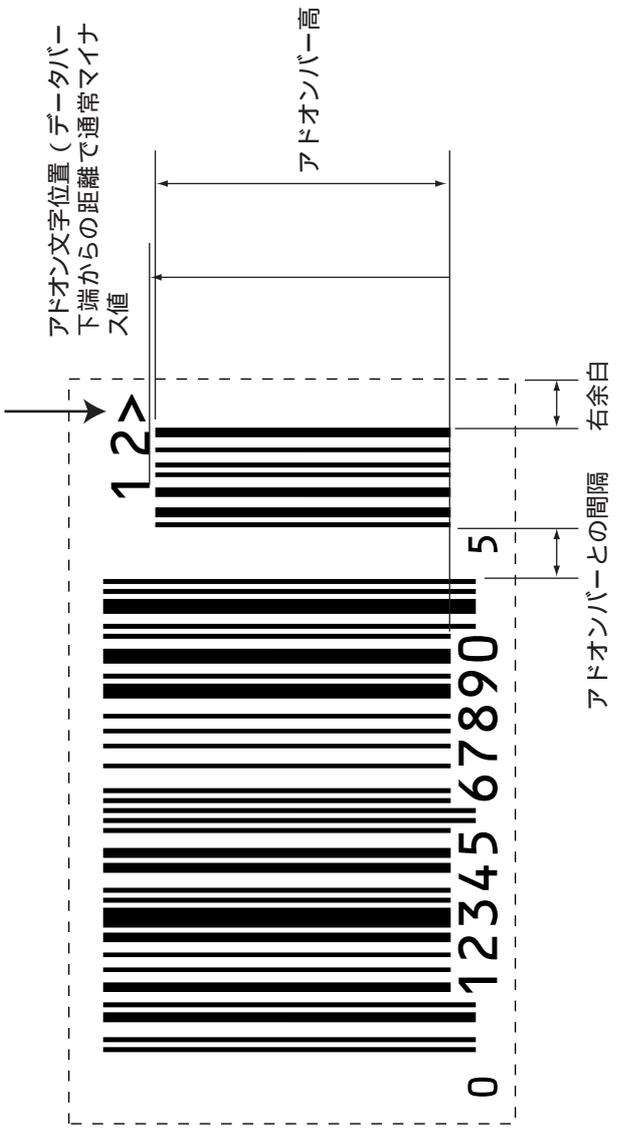
行方向比率(%)

クワイエットゾーン・マーク



クワイエットゾーン・マーク「>」(右余白を確保するために使用)

ベアラバー-OFFの場合には塗り白線なしの余白確保のためのフレーム。ベアラバーONの場合は塗りなし。



「文字挿え」の標準フォーマット以外、「トラッキング」および「行方向比率」はIllustratorの文字設定と同様。「文字挿え」の標準フォーマット以外を使用する場合はガード/センターバーをデータバーと同じ長さで設定する。「トラッキング」は「文字挿え」が標準フォーマット以外の場合に有効。文字サイズの「標準」ボタンは初期設定時の「フォント」ごとの最適な値を設定。

バーコード ROBO・UPC(E)

何ができるか？

UPC Eバージョンのバーコードを作成できます。

どう動作するか？

6桁の指定コードに1桁目のゼロを付加、8桁目のチェックデジットを自動計算し、対応するバーコードシンボルをIllustratorのオブジェクトとして出力します。

特徴

- ・設定 作成はすべてパレットでおこなうので書類編集などと平行作業が可能。
- ・シンボルを構成する各モジュールのサイズやOCR文字のフォーマット設定が柔軟にできるのでいろいろなスタイルのバーコードが作成可能。
- ・設定をセットメニュー化できるのでカスタマイズしたバーコードが一瞬で呼び出せる。
- ・付属の「組版ROBO3」を併用すればデータベースのコードを連続変換出力可能。バッチ処理にも対応。
- ・照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能。これにより作成後にバーコードが変更されたかどうかを簡単にチェック。(必要なら再生)
- ・2または5桁のアドオンコードをもサポート。
- ・レイアウト機能を併用すればデータベースのコードを連続変換出力可能。
- ・コード数字と区別できればコード中に任意の文字を挿入可能。(シンボル化されずに、そのまま出力。ただし文字揃えが標準フォーマットの場合は単に無視)



基本的な使用例

(その1)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「UPC(E)」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・UPC(E)」を選んでください。
- ・「UPC(E)」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄に6桁の数字列が入っていますが、これはUPC(E)8桁コードのうち先頭のゼロと末尾のチェックデジットを除いた数字列です。8桁目のチェックデジットは自動計算され右隣の欄に表示されます。
- ・そのまま「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。

(その2)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「UPC(E)」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・UPC(E)」を選んでください。
- ・「UPC(E)」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄に半角文字で「012345」と入力してください。チェックデジット欄は「7」になったはずです。（カーソルが入力欄にあるうちは確定しません。）
- ・「カスタマイズ」をオンにしてください。
- ・パレットが拡大して設定項目が増えます。
- ・「左/右/上/下余白」入力欄をそれぞれ「4」_上、「4」_下、「1」_左、「6」_右（単位はmm以下同）にします。
- ・「ベアラバー」をオンにし、その値を「0.5」にします。
- ・「文字揃え」を「中央」にします。
すると「ガード/センターバー高」入力欄が自動的に「22.86」になります。これはすぐ上の「データバー高」と同じ値です。
- ・「文字位置」入力欄を「5」にします。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。
- ・ここでの設定は次の例へ引継ぎますのでそのままにしておいてください。

(その3)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「その2」での設定で、「シンボル全体の高さ」を「16」mmにしてください。これにともないパレットのカスタマイズ部の各関連数値が自動的に変化します。
- ・「作成」ボタンをクリックしてでき具合を確認します。
作成したバーコードは削除しておいてください。
- ・今度はこの設定を保存してみます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「定義パレットを表示」を選びます。以後このポップアップを「プリセットメニュー」と呼びます。
- ・現在のパレットの隣りにさらにパレットが開きます。
- ・定義パレット下段左の「新規」ボタンをクリックしてください。
- ・現在の設定に名前を付けるためのダイアログが開きます。

- ・そのダイアログの入力欄にここでは「16HB」と入力し「OK」ボタンを押してください。
- ・リスト欄に「16HB」という行が追加されているはずですが、これで、現在の設定が「16HB」という名称でプリセットメニューに追加されました。
- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを隠す」を選んで閉じてください。
- ・いったん「プリセットメニュー」から「初期設定」を選び、「作成」ボタンで標準のバーコードを作成します。
書類上にできたバーコードを少し下へ移動し、選択を解除しておいてください。
- ・次に「プリセットメニュー」からさきほどの「16HB」を選んで作成してみてください。この例で最初に作成したバーコードの設定がパレットに読み込まれ再現されます。
- ・今度はこのプリセットメニュー「16HB」を削除してみます。
- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを表示」を選んでください。
- ・定義パレットのリスト「16HB」を選択（反転）し、定義パレット下段右の「削除」ボタンをクリックしてください。確認のダイアログが現れたらOKボタンを押します。
- ・「プリセットメニュー」から「16HB」が削除されていることを確認してください。

* プリセットメニューに関する詳細は「プリセットメニューについて」の章をご覧ください。

(その4)

- ・「その3」において初期設定で作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・もう一度試します。「その3」で16HBと名付けて作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・設定をそのままに、いったん書類上のバーコードをすべて削除してください。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・「その3」で16HBと名付けて作成したバーコードが復元します。

このように照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能です。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェックできますので、必要なら再生してください。

* コード数字と区別できればコード中に任意の文字を挿入可能。(シンボル化されずに、そのまま出力。ただし文字揃えが標準フォーマットの場合は単に無視)ただし、制御コード、“()、[]、¥”、および特殊コードを含むシンボルの作成をした場合は、コードのデータだけ「照合」ボタンによるデータの読み込みができません。

「バーコード ROBO 3」で作成したバーコード・オブジェクトはすべてグループ化されていますが、このグループは解除しないでください。もし解除すれば照合機能は働きません。

パレットの設定項目について

先頭のゼロとチェックデジットの除いた6桁の数字

チェックデジット

2または5桁のアドオンコード（通常空欄）

「プリセットメニューについて」の章を参照。

OCR文字の出力制御。OFFのときはバーのみ作成。

拡大縮小率(%)

シンボル全体の高さ

黒バー幅の補正值(μ)

これをONにすると、カスタマイズ用の拡張パレットに。(次ページ)

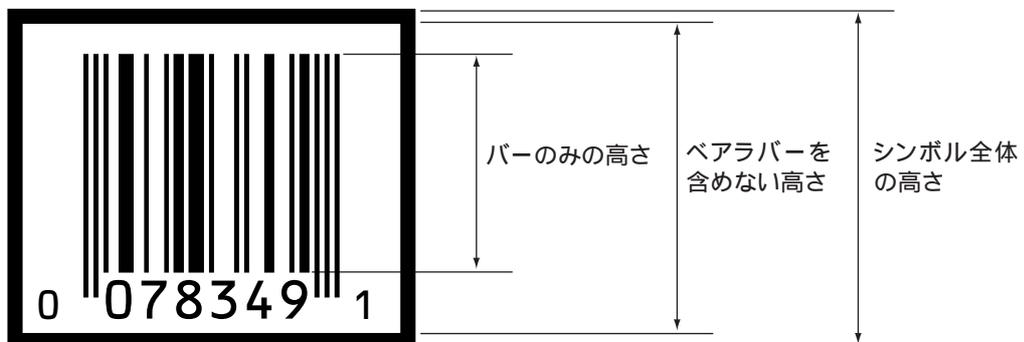
シンボル全体の拡大縮小率。これにともなって各関連項目の数値が増減。

作成実行ボタン。ただしコード入力不正のときは無効。(グレー表示)

いわゆるBWR。この設定値分だけ各バー幅が増減。単位はミクロン(千分の一ミリ)でマイナスで減少。

作成したバーコードオブジェクトを選択状態にしてこのボタンをクリックすると、作成時の設定をパレットに復元。

左のポップアップメニュー項目には「シンボル全体の高さ」「ベアラバーを含めない高さ」「バーのみの高さ」があり、必要に応じてこれらを選択してからその高さを設定。これにともないカスタマイズ部の関連値が増減。(下図参照)



*ベアラバーがないときは「ベアラバーを含めない高さ」は「シンボル全体の高さ」と同じ値

カスタマイズ 照合 作成

データバ-高(mm):

ガ-ド/セクタ-バ-高(mm):

アドオンバ-高(mm):

アドオンバ-との間隔(mm):

左余白(mm):

右余白(mm):

上余白(mm):

下余白(mm):

ヘアラバ-(mm):

フォント: 無選

文字サイズ(pt):

文字揃え:

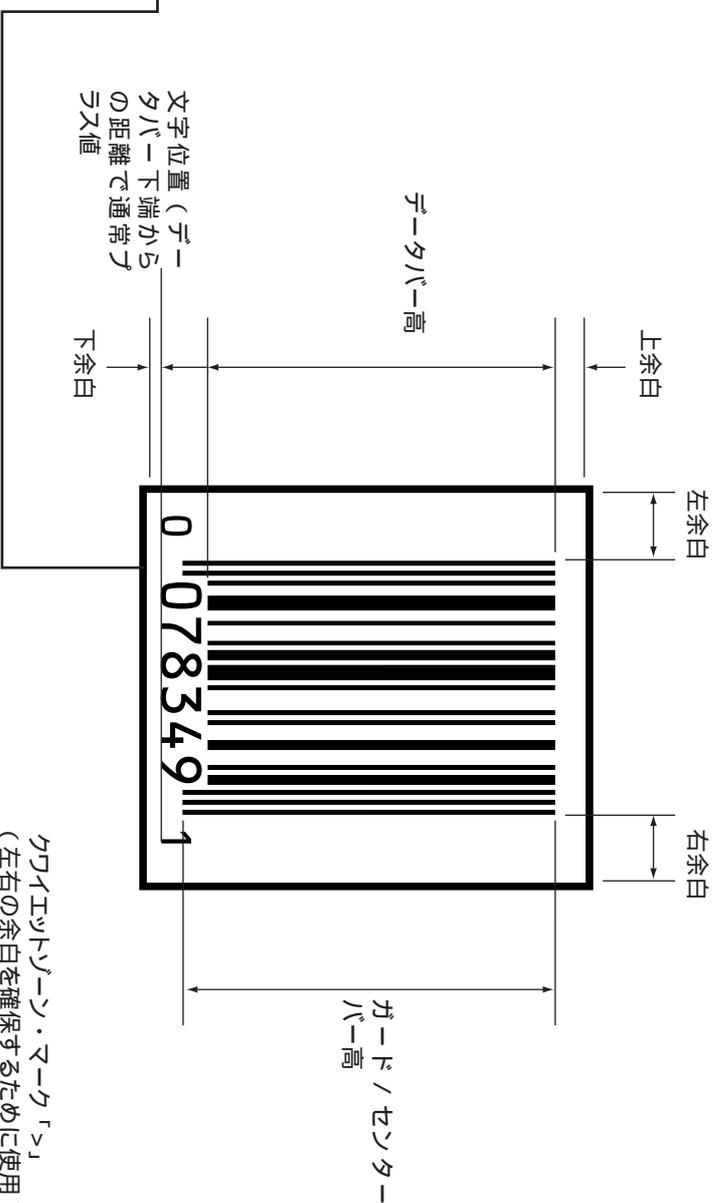
文字位置(mm):

アドオン文字位置(mm):

トラッキング(em/1000):

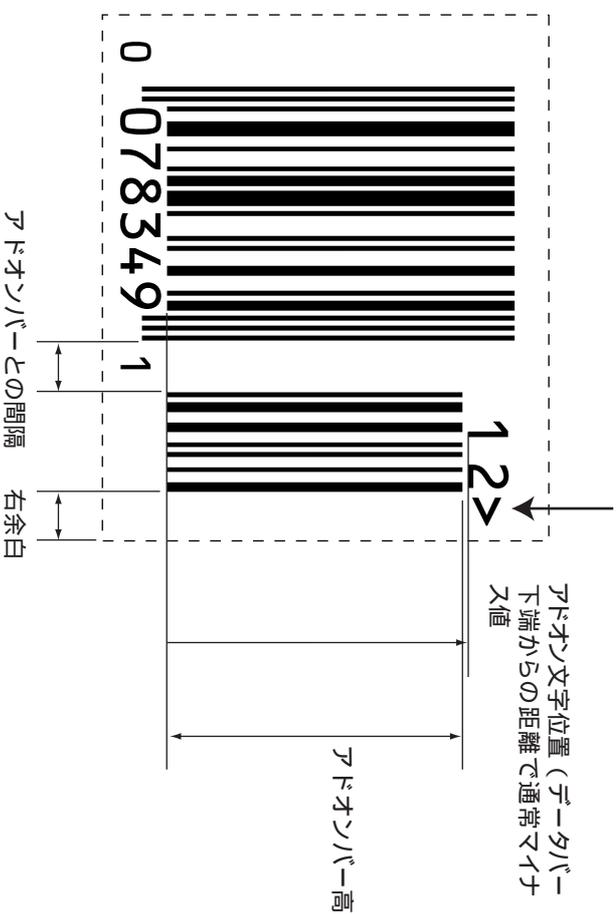
行方向比率(%):

クロイェットゾーン-マ-ク



ヘアラバ-OFF
の場合は塗り白、
線なしの余白確
保のためのアラ
△。ヘアラバ-O
Nの場合は塗り
なし。

クロイェットゾーン-マ-ク「>」
(左右の余白を確保するために使用)



「文字揃え」の標準フォ-マツト以外、「トラッキング」および「行方向比率」は Illustrator の文字設定と同様。「文字揃え」の標準フォ-マツト以外を使用する場合はガード/セクタ-バ-をデータバ-と同じ長さに設定する。「トラッキング」は「文字揃え」が標準フォ-マツト以外の場合に有効。文字サイズの設定、「ポタツ」は初期設定時の「フォント」ごとの最適な値を設定。

バーコード ROBO・書籍 JAN,ISBN/ 分類価格コード

何ができるか？

ISBN/ 分類価格コード（日本図書コード）の OCR 文字と対応する書籍 JAN シンボルを作成できます。

どう動作するか？

ISBN コード（チェックデジットを自動計算）と分類価格コードからそれらの OCR 文字と対応する書籍 JAN シンボルを作成できます。

特徴

- ・設定 作成はすべてパレットでおこなうので書類編集などと平行作業が可能。
- ・シンボルを構成する各モジュールのサイズや OCR 文字のフォーマット設定が柔軟にできるのでいろいろなスタイルのバーコードが作成可能。
- ・設定をセットメニュー化できるのでカスタマイズしたバーコードが一瞬で呼び出せる。
- ・付属の「組版 ROBO 3」を併用すればデータベースのコードを連続変換出力可能。バッチ処理にも対応。
- ・照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェック。（必要なら再生）



ISBN4-7777-123-7 C2000 P1234E



ISBN4-02-123456-X

C0040 ¥2200E



基本的な使用例

(その1)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「書籍 JAN,ISBN/ 分類価格コード」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・書籍 JAN,ISBN/ 分類価格コード」を選んでください。
- ・「書籍 JAN,ISBN/ 分類価格コード」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
ISBN コード入力欄に ISBN に続く 9 桁の数字列が入っていますが、これは ISBN コードのうち末尾のチェックデジットを除いた数字列です。10 桁目のチェックデジットは自動計算され右隣の欄に表示されます。
分類価格コード入力欄に C に続く分類コード、スペース、Y に続く価格コードが順に入っています。ここで Y は半角欧文の円マーク（JIS キーボードのキーにある ¥ ではない）の代替キャラクタです。作成時に円マークに変換されます。（後記参照）
JAN コードの 1 段目入力欄には JAN 1 段目の上位 3 桁の固定コード、2 段目入力欄には JAN 2 段目の上位 3 桁の固定コードが入っています。JAN コードの各残り桁とチェックデジットは自動的に決定されます。（詳細後記）
- ・そのまま「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。

(その2)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「書籍 JAN,ISBN/ 分類価格コード」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・書籍 JAN,ISBN/ 分類価格コード」を選んでください。
- ・「書籍 JAN,ISBN/ 分類価格コード」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・いったんパレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・ISBN コード入力欄に「ISBN4-02-123456」と入力してください。
- ・分類価格コード入力欄に「C0040 Y2200E」と入力してください。
ここで Y は半角欧文の円マーク（JIS キーボードのキーにある ¥ ではない）の代替キャラクタです。作成時に円マークに変換されます。（後記参照）
- ・「カスタマイズ」をオンにしてください。
- ・パレットが拡大して設定項目が増えます。
- ・「ISBN, 分類価格コード」の「2 段表記」をチェックし、HV 相対位置をそれぞれ「0mm」と「-50mm」にしてください。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。ここでの設定は次の例へ引継ぎますのでそのままにしておいてください。

(その3)

- ・「その2」での設定を保存してみます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「定義パレットを表示」を選びます。以後このポップアップを「プリセットメニュー」と呼びます。
- ・現在のパレットの隣りにさらにパレットが開きます。
- ・定義パレット下段左の「新規」ボタンをクリックしてください。
- ・現在の設定に名前を付けるためのダイアログが開きます。

- ・そのダイアログの入力欄にここでは「OCR2L」と入力し「OK」ボタンを押してください。
- ・リスト欄に「OCR2L」という行が追加されているはずですが、これで、現在の設定が「OCR2L」という名称でプリセットメニューに追加されました。
- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを隠す」を選んで閉じてください。
- ・いったん「プリセットメニュー」から「初期設定」を選び、「作成」ボタンで標準のバーコードを作成します。
書類上にできたバーコードを少し下へ移動し、選択を解除しておいてください。
- ・次に「プリセットメニュー」からさきほどの「OCR2L」を選んで作成してみてください。この例で最初に作成したバーコードの設定がパレットに読み込まれ再現されます。
- ・今度はこのプリセットメニュー「OCR2L」を削除してみます。
- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを表示」を選んでください。
- ・定義パレットのリスト「OCR2L」を選択（反転）し、定義パレット下段右の「削除」ボタンをクリックしてください。確認のダイアログが現れたら OK ボタンを押します。
- ・「プリセットメニュー」から「OCR2L」が削除されていることを確認してください。

* プリセットメニューに関する詳細は「プリセットメニューについて」の章をご覧ください。

(その4)

- ・「その3」において初期設定で作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・もう一度試します。「その3」でOCR2Lと名付けて作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・設定をそのままに、いったん書類上のバーコードをすべて削除してください。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・「その3」でOCR2Lと名付けて作成したバーコードが復元します。
このように照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能です。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェックできますので、必要なら再生してください。

* 半角欧文の円マーク（JIS キーボードのキーにある¥ではない）の文字コードがMacintoshとWindowsとでは異なること、また入力の仕方も特殊であることからYを代替キャラクタとして使用しています。作成時には円マークに変換されます。本来の半角欧文の円マークをコード欄に入力しても作成はできますが、照合において分類価格コードだけ復元できなくなりますのでご注意ください。

「バーコード ROBO 3」で作成したバーコード・オブジェクトはすべてグループ化されていますが、このグループは解除しないでください。もし解除すれば照合機能は動きません。

パレットの設定項目について

チェックデジットの除いた ISBNコード

チェックデジット

「プリセットメニューについて」の章を参照。

OCR 文字の出力制御。OFF のときは書籍 JAN のみ作成。

OCR 文字の出力制御。OFF のときは ISBN/分類価格コードのみ作成。

シンボル全体の拡大縮小率。これにともなって各関連項目の数値が増減。

作成実行ボタン。ただしコード入力不正のときは無効。(グレー表示)

これを ON にすると、カスタマイズ用の拡張パレットに。(次ページ)

いわゆる BWR。この設定値分だけ各バー幅が増減。単位はミクロン(千分の一ミリ)でマイナスで減少。

作成したバーコードオブジェクトを選択状態にしてこのボタンをクリックすると、作成時の設定をパレットに復元。

分類価格コード

JANコードの1段目上位3桁の固定コード以外はISBNコードから決定。2段目上位3桁の固定コード以外は分類価格コードから決定。(各段末尾チェックデジットは自動計算)

JANコードの入力欄の右にある「出力」チェックボックスの意味が、他のバーコードの場合とやや異なるのでご注意ください。他のバーコードの場合はOCR文字の出力のON/OFF制御ですが、ここではシンボルとOCR文字の両方の出力のON/OFF制御を行います。すなわち

JANコードの入力欄の右にある「出力」チェックボックスがOFFのときは、ISBN/分類価格コードだけ出力します。

また、この「出力」をOFFにすると同時にカスタマイズ部のISBN/分類価格コードの「HV相対位置」がどちらも「0」にセットされます。再度ONに戻すと初期設定値がセットされます。

カスタマイズ

データバー高(mm):

上下シンボルの間隔(mm):

フォント:

ISBN, 分類価格コードのHV 相対位置 (原点はシンボルの左上端、Hは水平位置、Vは垂直位置、それぞれ右と上がプラス値)

サイズ(pt):

描え:

2 段表記 行送り:

HV相対位置:

トラッキング(em/1000):

行方向比率(%) :

JANコード: _____

サイズ(pt):

描え:

位置(mm):

トラッキング(em/1000):

行方向比率(%) :

「文字揃え」の標準フォーマット以外、「トラッキング」および「行方向比率」はIllustratorの文字設定と同様。「文字揃え」の標準フォーマット以外を使用する場合はガード/センターバーをデータバーと同じ長さに設定する。「トラッキング」は「文字揃え」が標準フォーマット以外の場合に有効。文字サイズの「標準」ボタンは初期設定時の「フォント」ごとの最適な値を設定。



バーコード ROBO・NW7

何ができるか？

NW7 (コーダバー) のバーコードを作成できます。

どう動作するか？

指定コードからチェックデジット (オプション) を自動計算し、対応するバーコードシンボルを Illustrator のオブジェクトとして出力します。

特徴

- ・設定 作成はすべてパレットでおこなうので書類編集などと平行作業が可能。
- ・シンボルを構成する各モジュールのサイズや OCR 文字のフォーマット設定が柔軟にできるのでいろいろなスタイルのバーコードが作成可能。
- ・設定をセットメニュー化できるのでカスタマイズしたバーコードが一瞬で呼び出せる。
- ・付属の「組版 ROBO 3」を併用すればデータベースのコードを連続変換出力可能。バッチ処理にも対応。
- ・照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェック。(必要なら再生)
- ・スタート/エンドコードはデフォルト (既定) 設定可能
- ・コード数字と区別できればコード中に任意の文字を挿入可能。(シンボル化されずに、そのまま出力。ただし文字揃えが標準フォーマットの場合は単に無視)



基本的な使用例

(その1)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「NW7」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・NW7」を選んでください。
- ・「NW7」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄に「a」で始まり「a」で終わる文字列が入っていますが、これはスタートコードとストップコードのどちらも「コードに含む」としてあるからです。
「チェックデジット」をオンにするとチェックデジットが計算されコード欄の右に表示されま
す。
- ・そのまま「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。

(その2)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「NW7」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・NW7」を選んでください。
- ・「NW7」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄の文字列から先頭と末尾の「a」を削除してください。
ここで「作成」のボタンが無効になりますが無視します。
- ・スタートコード、ストップコードとも「A」にしてください。
「作成」のボタンが有効になります。
- ・「カスタマイズ」をオンにしてください。
- ・パレットが拡大して設定項目が増えます。
- ・「文字揃え」を「中央」にします。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。
- ・ここでの設定は次の例へ引継ぎますのでそのままにしておいてください。

(その3)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「その2」での設定で、「シンボル全体の高さ」を「10」mm にしてください。これにともない
パレットのカスタマイズ部の各関連数値が自動的に変化します。
- ・「作成」ボタンをクリックしてでき具合を確認します。
作成したバーコードは削除しておいてください。
- ・今度はこの設定を保存してみます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「定義パレットを表示」
を選びます。以後このポップアップを「プリセットメニュー」と呼びます。
- ・現在のパレットの隣りにさらにパレットが開きます。
- ・定義パレット下段左の「新規」ボタンをクリックしてください。
- ・現在の設定に名前を付けるためのダイアログが開きます。
- ・そのダイアログの入力欄にここでは「AA10H」と入力し「OK」ボタンを押してください。
- ・リスト欄に「AA10H」という行が追加されているはずです。これで、現在の設定が「AA10H」

という名称でプリセットメニューに追加されました。

- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを隠す」を選んで閉じてください。
- ・いったん「プリセットメニュー」から「初期設定」を選び、「作成」ボタンで標準のバーコードを作成します。
書類上にできたバーコードを少し下へ移動し、選択を解除しておいてください。
- ・次に「プリセットメニュー」からさきほどの「AA10H」を選んで作成してみてください。この例で最初に作成したバーコードの設定がパレットに読み込まれ再現されます。
- ・今度はこのプリセットメニュー「AA10H」を削除してみます。
- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを表示」を選んでください。
- ・定義パレットのリスト「AA10H」を選択（反転）し、定義パレット下段右の「削除」ボタンをクリックしてください。確認のダイアログが現れたら OK ボタンを押します。
- ・「プリセットメニュー」から「AA10H」が削除されていることを確認してください。

* プリセットメニューに関する詳細は「プリセットメニューについて」の章をご覧ください。

(その4)

- ・「その3」において初期設定で作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・もう一度試します。「その3」でAA10Hと名付けて作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・設定をそのままに、いったん書類上のバーコードをすべて削除してください。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・「その3」でAA10Hと名付けて作成したバーコードが復元します。

このように照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能です。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェックできますので、必要なら再生してください。

「バーコード ROBO 3」で作成したバーコード・オブジェクトはすべてグループ化されていますが、このグループは解除しないでください。もし解除すれば照合機能は動きません。

パレットの設定項目について

コード

チェックデジットが必要な場合はONに。

チェックデジット表示欄

「プリセットメニューについて」の章を参照。

OCR文字の出力制御 OFFのときはバーのみ作成。

出力 チェックデジット

スタートコード: コードに含む

ストップコード: コードに含む

拡大縮小率(%): 100

シンボル全体の高さ: 8.7 mm

黒バー幅の補正值(μ): 0

カスタマイズ

照合 作成

シンボル全体の拡大縮小率。これにともなって各関連項目の数値が増減。

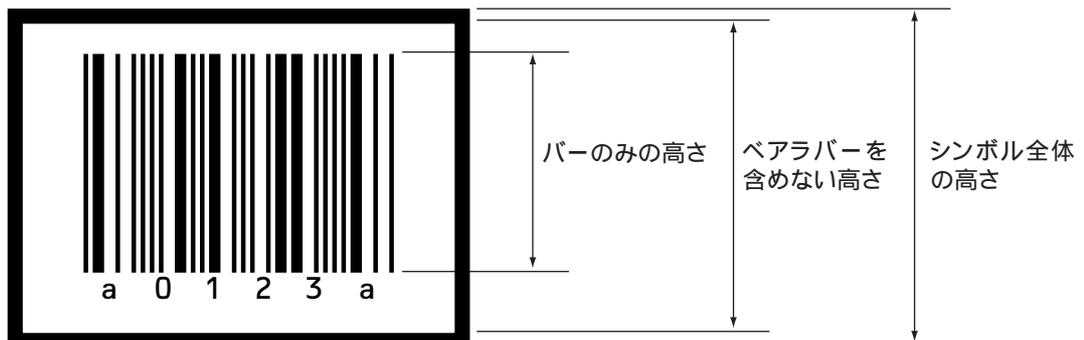
これをONにすると、カスタマイズ用の拡張パレットに。(次ページ)

いわゆるBWR。この設定値分だけ各バー幅が増減。単位はミクロン(千分の一ミリ)でマイナスで減少。

作成実行ボタン。ただしコード入力不正のときは無効。(グレー表示)

スタートコードとストップコードの取り扱い方法を指定。各ポップアップメニュー項目に「コードに含む」「A」「B」「C」「D」「a」「b」「c」「d」があり、「コードに含む」以外は既定値としてコード内の記述を省略できることを意味する。

左のポップアップメニュー項目には「シンボル全体の高さ」「ベアラバーを含めない高さ」「バーのみの高さ」があり、必要に応じてこれらを選択してからその高さを設定。これにともないカスタマイズ部の関連値が増減。(下図参照)



*ベアラバーがないときは「ベアラバーを含めない高さ」は「シンボル全体の高さ」と同じ値

カスタマイズ 照合 作成

細エレメント幅(mm):

太エレメント幅(mm):

バー高(mm):

キヤラクタ間ギャップ

左余白(mm):

右余白(mm):

上余白(mm):

下余白(mm):

ヘアラバー-(mm):

フォント: 標準

文字サイズ(pt): 標準

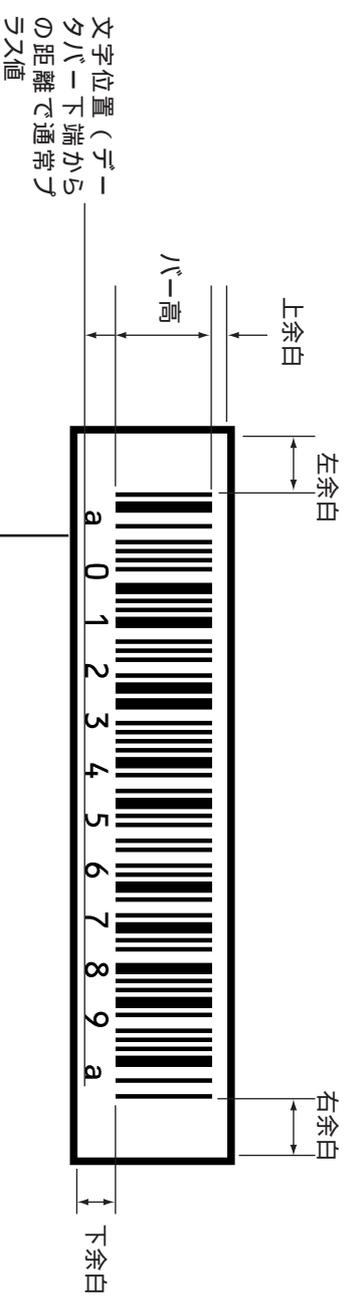
文字揃え:

文字位置(mm):

トラッキング(em/1000):

行方向比率(%):

スタート/ストップコード表示



ヘアラバー-OFFの場合は塗り白、線なしの余白確保のためのフレーム。ヘアラバー-ONの場合は塗りなし。



「文字揃え」の標準フォースタット以外、「トラッキング」および「行方向比率」はIllustratorの文字設定と同様。「文字揃え」の標準フォースタット以外を使用する場合はカーブ/センタバーをデータバーと同じ長さに設定する。「トラッキング」は「文字揃え」が標準フォースタット以外の場合に有効。文字サイズの「標準」ボタンは初期設定時の「フォント」ごとの最適な値を設定。

太エレメント幅と細エレメント幅の比率は2.0～3.0の範囲。キヤラクタ間ギャップは細エレメント幅以上とする。クワイエットゾーン(左右の余白)の幅はスタート/ストップキヤラクタの幅以上とする。すなわち、 $(\text{スタート/ストップキヤラクタの幅}) = (\text{細エレメント幅}) \times 4 + (\text{太エレメント幅}) \times 3$ であるから、左右の余白はこれ以上とする。

バーコード ROBO・CODE39

何ができるか？

CODE39のバーコードを作成できます。

どう動作するか？

指定コードからチェックデジット（オプション）を自動計算し、対応するバーコードシンボルをIllustratorのオブジェクトとして出力します。

特徴

- ・設定 作成はすべてパレットでおこなうので書類編集などと平行作業が可能。
- ・シンボルを構成する各モジュールのサイズやOCR文字のフォーマット設定が柔軟にできるのでいろいろなスタイルのバーコードが作成可能。
- ・設定をセットメニュー化できるのでカスタマイズしたバーコードが一瞬で呼び出せる。
- ・付属の「組版ROBO3」を併用すればデータベースのコードを連続変換出力可能。バッチ処理にも対応。
- ・照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェック。（必要なら再生）
- ・スタート/ストップコードはデフォルト（既定）設定可能



基本的な使用例

(その1)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「CODE39」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・CODE39」を選んでください。
- ・「CODE39」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄に「*」で始まり「*」で終わる文字列が入っていますが、これは「スタート/ストップコードはコードに含む」としてあるからです。
「チェックデジット」をオンにするとチェックデジットが計算されコード欄の右に表示されま
す。
- ・そのまま「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。

(その2)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「CODE39」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・CODE39」を選んでください。
- ・「CODE39」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄の文字列から先頭と末尾の「*」を削除してください。
ここで「作成」のボタンが無効になりますが無視します。
- ・「スタート/ストップコードはコードに含む」をオンにしてください。
「作成」のボタンが有効になります。
- ・「カスタマイズ」をオンにしてください。
- ・パレットが拡大して設定項目が増えます。
- ・「文字揃え」を「中央」にします。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。
- ・ここでの設定は次の例へ引継ぎますのでそのままにしておいてください。

(その3)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「その2」での設定で、「シンボル全体の高さ」を「10」mm にしてください。これにともないパレットのカスタマイズ部の各関連数値が自動的に変化します。
- ・「作成」ボタンをクリックしてでき具合を確認します。
作成したバーコードは削除しておいてください。
- ・今度はこの設定を保存してみます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「定義パレットを表示」を選びます。以後このポップアップを「プリセットメニュー」と呼びます。
- ・現在のパレットの隣りにさらにパレットが開きます。
- ・定義パレット下段左の「新規」ボタンをクリックしてください。
- ・現在の設定に名前を付けるためのダイアログが開きます。
- ・そのダイアログの入力欄にここでは「**10H」と入力し「OK」ボタンを押してください。
- ・リスト欄に「**10H」という行が追加されているはずですが、これで、現在の設定が「**10H」と

という名称でプリセットメニューに追加されました。

- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを隠す」を選んで閉じてください。
- ・いったん「プリセットメニュー」から「初期設定」を選び、「作成」ボタンで標準のバーコードを作成します。
書類上にできたバーコードを少し下へ移動し、選択を解除しておいてください。
- ・次に「プリセットメニュー」からさきほどの「**10H」を選んで作成してみてください。この例で最初に作成したバーコードの設定がパレットに読み込まれ再現されます。
- ・今度はこのプリセットメニュー「**10H」を削除してみます。
- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを表示」を選んでください。
- ・定義パレットのリスト「**10H」を選択（反転）し、定義パレット下段右の「削除」ボタンをクリックしてください。確認のダイアログが現れたらOKボタンを押します。
- ・「プリセットメニュー」から「**10H」が削除されていることを確認してください。

* プリセットメニューに関する詳細は「プリセットメニューについて」の章をご覧ください。

(その4)

- ・「その3」において初期設定で作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・もう一度試します。「その3」で**10Hと名付けて作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・設定をそのままに、いったん書類上のバーコードをすべて削除してください。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・「その3」で**10Hと名付けて作成したバーコードが復元します。

このように照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能です。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェックできますので、必要なら再生してください。

「バーコード ROBO 3」で作成したバーコード・オブジェクトはすべてグループ化されていますが、このグループは解除しないでください。もし解除すれば照合機能は動きません。

パレットの設定項目について

コード

チェックデジットが必要な場合はONに。

チェックデジット表示欄

「プリセットメニューについて」の章を参照。

OCR文字の出力制御 OFFのときはバーのみ作成。

コード: *0123-CODE39*

出力 チェックデジット

スタート/ストップコードはコードに含む

拡大縮小率(%): 100

シンボル全体の高さ: 8.7 mm

黒バー幅の補正値(μ): 0

カスタマイズ

照合 作成

これをONにすると、カスタマイズ用の拡張パレットに。(次ページ)

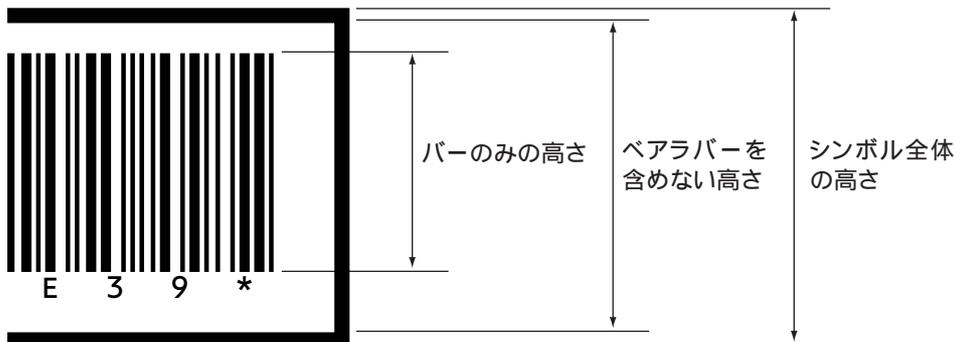
いわゆるBWR。この設定値分だけ各バー幅が増減。単位はマイクロン(千分の一ミリ)でマイナスで減少。

作成実行ボタン。ただしコード入力不正のときは無効。(グレー表示)

スタートコードとストップコードの取り扱い方法を指定。ONにすると既定値としてコード内の記述を省略可。

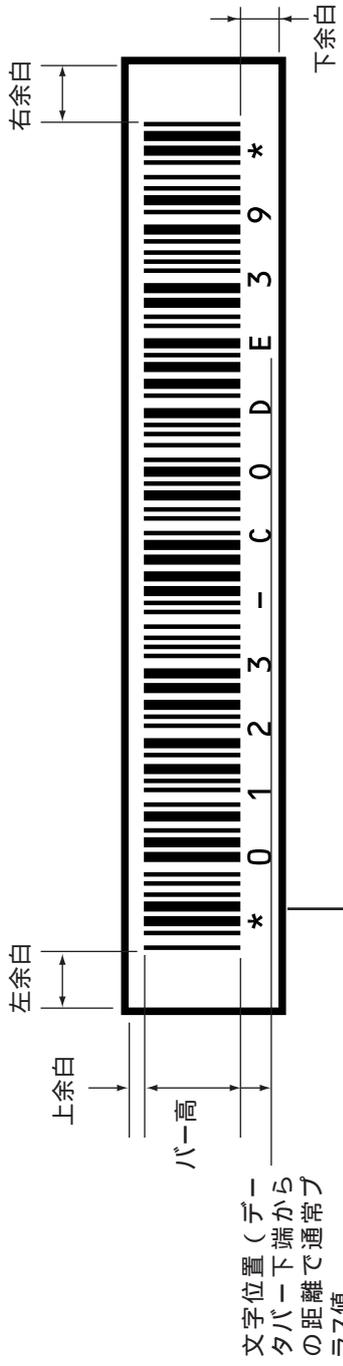
シンボル全体の拡大縮小率 これにともなって各関連項目の数値が増減。

左のポップアップメニュー項目には「シンボル全体の高さ」「ベアラバーを含めない高さ」「バーのみの高さ」があり、必要に応じてこれらを選択してからその高さを設定。これにともないカスタマイズ部の関連値が増減。(下図参照)

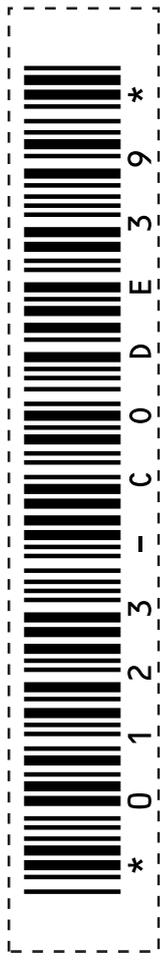


*ベアラバーがないときは「ベアラバーを含めない高さ」は「シンボル全体の高さ」と同じ値

<input checked="" type="checkbox"/> カスタマイズ	<input type="checkbox"/> 照合	<input type="button" value="作成"/>
細エレメント幅(mm):	<input type="text" value="0.6"/>	
太エレメント幅(mm):	<input type="text" value="1.344"/>	
バ-高(mm):	<input type="text" value="12.7"/>	
キヤラクタ間ギャップ	<input type="text" value="0.882"/>	
左余白(mm):	<input type="text" value="7.632"/>	
右余白(mm):	<input type="text" value="7.632"/>	
上余白(mm):	<input type="text" value="2"/>	
下余白(mm):	<input type="text" value="5"/>	
<input checked="" type="checkbox"/> ペアラバー-(mm):	<input type="text" value="1"/>	
フォント:	<input type="text" value="OCR-B"/>	
文字サイズ(pt):	<input type="text" value="11.8"/>	<input type="button" value="標準"/>
文字揃え:	<input type="text" value="標準フォーマット"/>	
文字位置(mm):	<input type="text" value="4"/>	
トラッキング(em/1000):	<input type="text" value="0"/>	
行方向比率(%):	<input type="text" value="100"/>	
<input checked="" type="checkbox"/> スタート/ストップコード表示		



ペアラバー-OFFの場合は塗り白、線なしの余白確保のためのフレーム。ペアラバーONの場合は塗りなし。



「文字揃え」の標準フォーマット以外、「トラッキング」および「行方向比率」はIllustratorの文字設定と同様。「文字揃え」の標準フォーマット以外を使用する場合はガード/センターバーをデータバーと同じ長さに設定する。「トラッキング」は「文字揃え」が標準フォーマット以外の場合に有効。文字サイズの「標準」ボタンは初期設定時の「フォント」ごとの最適な値を設定。

太エレメント幅と細エレメント幅の比率は2.0 ~ 3.0の範囲。キヤラクタ間ギャップは細エレメント幅以上とする。クワイエットゾーン(左右の余白)の幅はスタート/ストップキヤラクタの幅以上とする。すなわち、(スタート/ストップキヤラクタの幅) = (細エレメント幅) × 6 + (太エレメント幅) × 3であるから、左右の余白はこれ以上とする。

バーコード ROBO・CODE128

何ができるか？

CODE128のバーコードを作成できます。

どう動作するか？

指定コードからチェックデジットを自動計算し、対応するバーコードシンボルを Illustrator のオブジェクトとして出力します。

特徴

- ・設定 作成はすべてパレットでおこなうので書類編集などと平行作業が可能。
- ・シンボルを構成する各モジュールのサイズやOCR文字のフォーマット設定が柔軟にできるのでいろいろなスタイルのバーコードが作成可能。
- ・設定をセットメニュー化できるのでカスタマイズしたバーコードが一瞬で呼び出せる。
- ・付属の「組版 ROBO 3」を併用すればデータベースのコードを連続変換出力可能。バッチ処理にも対応。
- ・照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェック。(必要なら再生)
- ・A、B、Cのすべてのコードセットに対応。
- ・コードキャラクタ、シフトキャラクタ、ファンクションキャラクタをサポート

スタートコードA



スタートコードA、「o」からコードセットBに



スタートコードB



スタートコードC



基本的な使用例

(その1)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「CODE128」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・CODE128」を選んでください。
- ・「CODE128」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄に「123456Code-128」という文字列が入っていますが、これはスタートコードを「B」としたコードセットBのコードの例です。もし制御コードや特殊コードをコードに含めたい場合には、コード欄右下にあるポップアップメニュー（右向き三角アイコン）を利用します。ここで選んだコードはコード入力欄のカーソル位置に代替キャラクタに置き換わって挿入されます。（ポップアップの各項目名の後に付いている括弧内の1文字がその代替キャラクタです。）
- なお、チェックデジットはコード欄の右に表示されています。
- ・そのまま「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。

(その2)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「CODE128」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・CODE128」を選んでください。
- ・「CODE128」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・いったんパレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄に「Code128」と入力してください。
- ここで、「作成」のボタンが無効になりますが無視します。
- ・スタートコードは「B」にしてください。
- チェックデジット欄に「%」が表示され、「作成」のボタンが有効になります。
- ・「カスタマイズ」をオンにしてください。
- ・パレットが拡大して設定項目が増えます。
- ・「文字揃え」を「中央」にします。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。
- ・ここでの設定は次の例へ引継ぎますのでそのままにしておいてください。

(その3)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「その2」での設定で、「シンボル全体の高さ」を「10」mmにしてください。これにともないパレットのカスタマイズ部の各関連数値が自動的に変化します。
- ・「作成」ボタンをクリックしてでき具合を確認します。
- 作成したバーコードは削除しておいてください。
- ・今度はこの設定を保存してみます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「定義パレットを表示」を選びます。以後このポップアップを「プリセットメニュー」と呼びます。
- ・現在のパレットの隣りにさらにパレットが開きます。

- ・定義パレット下段左の「新規」ボタンをクリックしてください。
- ・現在の設定に名前を付けるためのダイアログが開きます。
- ・そのダイアログの入力欄にここでは「B10H」と入力し「OK」ボタンを押してください。
- ・リスト欄に「B10H」という行が追加されているはずですが、これで、現在の設定が「B10H」という名称でプリセットメニューに追加されました。
- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを隠す」を選んで閉じてください。
- ・いったん「プリセットメニュー」から「初期設定」を選び、「作成」ボタンで標準のバーコードを作成します。
書類上にできたバーコードを少し下へ移動し、選択を解除しておいてください。
- ・次に「プリセットメニュー」からさきほどの「B10H」を選んで作成してみてください。この例で最初に作成したバーコードの設定がパレットに読み込まれ再現されます。
- ・今度はこのプリセットメニュー「B10H」を削除してみます。
- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを表示」を選んでください。
- ・定義パレットのリスト「B10H」を選択（反転）し、定義パレット下段右の「削除」ボタンをクリックしてください。確認のダイアログが現れたら OK ボタンを押します。
- ・「プリセットメニュー」から「B10H」が削除されていることを確認してください。

* プリセットメニューに関する詳細は「プリセットメニューについて」の章をご覧ください。

(その4)

- ・「その3」において初期設定で作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・もう一度試します。「その3」でB10Hと名付けて作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・設定をそのままに、いったん書類上のバーコードをすべて削除してください。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・「その3」でB10Hと名付けて作成したバーコードが復元します。

このように照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能です。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェックできますので、必要なら再生してください。

「バーコード ROBO 3」で作成したバーコード・オブジェクトはすべてグループ化されていますが、このグループは解除しないでください。もし解除すれば照合機能は働きません。

(注意) 制御コード、特殊コードを含むシンボルの作成をした場合は、コードのデータだけ「照合」ボタンによるデータの読み込みができません。

パレットの設定項目について

コード

チェックデジット表示欄

「プリセットメニューについて」の章を参照。

OCR 文字の出力制御 OFF のときはバーのみ作成。

出力

コード: 123456Code-128 6

スタートコード: B

拡大縮小率(%): 100

シンボル全体の高さ: 8.7 mm

黒バー幅の補正値(μ): 0

カスタマイズ

照合

作成

これを ON にすると、カスタマイズ用の拡張パレットに。(次ページ)

いわゆる BWR。この設定値分だけ各バー幅が増減。単位はミクロン(千分の一ミリ)でマイナスで減少。

作成したバーコードオブジェクトを選択状態にしてこのボタンをクリックすると、作成時の設定をパレットに復元

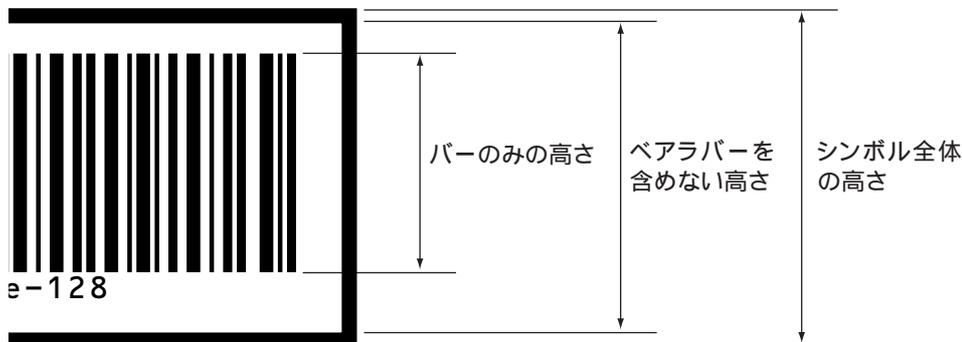
作成実行ボタン。ただしコード入力不正のときは無効。(グレー表示)

スタートコードの取り扱い方法を指定。ポップアップメニュー項目には「コードに含む」「A」「B」「C」があり、「コードに含む」以外は既定値としてコード内の記述を省略できることを意味する。

シンボル全体の拡大縮小率。これにともなって各関連項目の数値が増減。

左のポップアップメニュー項目には「シンボル全体の高さ」「ベアラバーを含めない高さ」「バーのみの高さ」があり、必要に応じてこれらを選択してからその高さを設定。これにともないカスタマイズ部の関連値が増減。(下図参照)

制御コード、特殊コード用キャラクタ・ポップアップメニュー。ここで選んだコードはコード入力欄のカーソル位置に代替キャラクタに置き換わって挿入されます。(ポップアップの各項目名の後に付いている括弧内の1文字がその代替キャラクタです。)



* ベアラバーがないときは「ベアラバーを含めない高さ」は「シンボル全体の高さ」と同じ値

(注意) 制御コード、“(、)、[、]、¥ ”、および特殊コードを含むシンボルの作成をした場合は、コードのデータだけ「照合」ボタンによるデータの読み込みができません。

カスタマイズ 照合 作成

最小モジュール幅(mm):

バー高(mm):

左余白(mm):

右余白(mm):

上余白(mm):

下余白(mm):

ペアラバー-(mm):

フォント: 標準

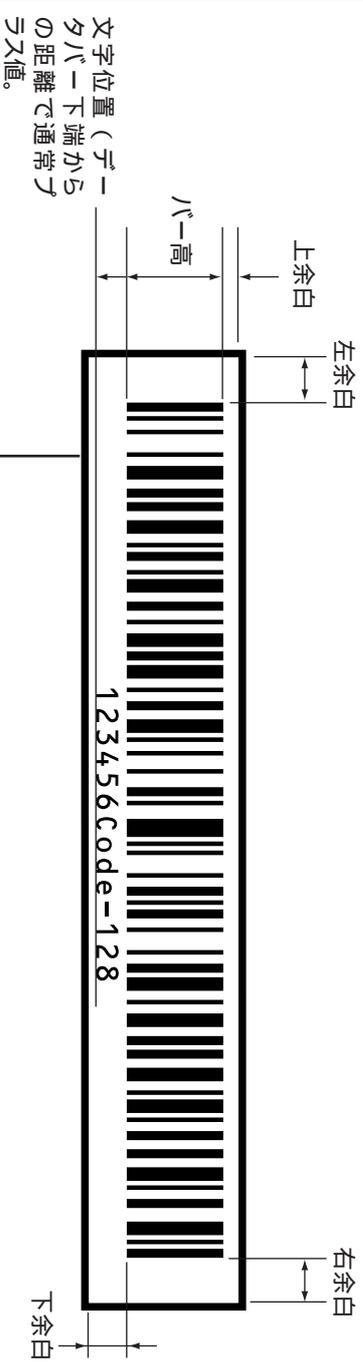
文字サイズ(pt): 標準

文字前え:

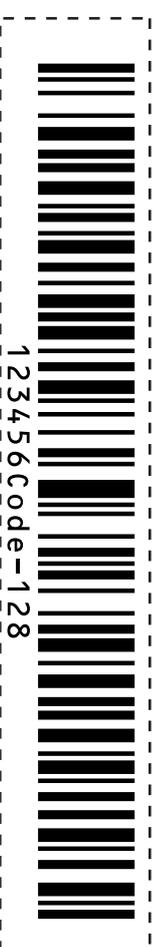
文字位置(mm):

トラッキング(em/1000):

行方向比率(%):



ペアラバーOFFの場合は塗り白、線なしの余白確保のためのフールド。ペアラバーONの場合は塗りなし。



クワイエットゾーン (左右の余白) の幅は、最小モジュール幅の10倍か2.54mmのいずれか大きい方の値以上とする。

「文字揃え」の標準フォースレット以外、「トラッキング」および「行方向比率」はIllustratorの文字設定と同様。「文字揃え」の標準フォースレット以外を使用する場合はガード/センターバーをデーターバーと同じ長さに設定する。「トラッキング」は「文字揃え」が標準フォースレット以外の場合に有効。文字サイズの「標準」ボタンは初期設定時の「フォント」ごとの最適な値を設定。

バーコード ROBO・ITF

何ができるか？

ITF (JIS X 0502) のバーコードを作成できます。

どう動作するか？

標準 / 拡張 / アドオンの各バージョンのそれぞれ 13 / 15 / 4 桁の指定コードから末尾にチェックデジットを自動計算付加し、対応するバーコードシンボルを Illustrator のオブジェクトとして出力します。

特徴

- ・設定 作成はすべてパレットでおこなうので書類編集などと平行作業が可能。
- ・シンボルを構成する各モジュールのサイズや OCR 文字のフォーマット設定が柔軟にできるのでいろいろなスタイルのバーコードが作成可能。
- ・設定をセットメニュー化できるのでカスタマイズしたバーコードが一瞬で呼び出せる。
- ・付属の「組版 ROBO 3」を併用すればデータベースのコードを連続変換出力可能。バッチ処理にも対応。
- ・照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェック。(必要なら再生)
- ・標準 / 拡張 / アドオンの全バージョンに対応。
- ・コード数字と区別できればコード中に任意の文字を挿入可能。(シンボル化されずに、そのまま出力。ただし文字揃えが標準フォーマットの場合は単に無視)

標準バージョン



149 01234 56789 1

拡張バージョン



01049 01234 56789 3

アドオンバージョン



04217 8

基本的な使用例

(その1)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「ITF」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・ITF」を選んでください。
- ・「ITF」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄に標準コードのチェックデジットをのぞく13桁が入っています。またその右隣りにはチェックデジットが計算され「1」が表示されています。
- ・そのまま「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。

(その2)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「ITF」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・ITF」を選んでください。
- ・「ITF」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄に拡張コード「010490123456789」（チェックデジットをのぞく15桁）を入力してください。
- ・「カスタマイズ」をオンにしてください。
- ・パレットが拡大して設定項目が増えます。
- ・ベアラバーの種類を「ベアラバー上下」にします。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。
- ・ここでの設定は次の例へ引継ぎますのでそのままにしておいてください。

(その3)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「その2」での設定で、「シンボル全体の高さ」を「50」mmにしてください。これにともないパレットのカスタマイズ部の各関連数値が自動的に変化します。
- ・「作成」ボタンをクリックしてでき具合を確認します。
作成したバーコードは削除しておいてください。
- ・今度はこの設定を保存してみます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「定義パレットを表示」を選びます。以後このポップアップを「プリセットメニュー」と呼びます。
- ・現在のパレットの隣りにさらにパレットが開きます。
- ・定義パレット下段左の「新規」ボタンをクリックしてください。
- ・現在の設定に名前を付けるためのダイアログが開きます。
- ・そのダイアログの入力欄にここでは「50H上下B」と入力し「OK」ボタンを押してください。
- ・リスト欄に「50H上下B」という行が追加されているはずです。これで、現在の設定が「50H上下B」という名称でプリセットメニューに追加されました。
- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを隠す」を選んで閉じてください。
- ・いったん「プリセットメニュー」から「初期設定」を選び、「作成」ボタンで標準のバーコード

を作成します。

書類上にできたバーコードを少し下へ移動し、選択を解除しておいてください。

- ・次に「プリセットメニュー」からさきほどの「50H上下B」を選んで作成してみてください。この例で最初に作成したバーコードの設定がパレットに読み込まれ再現されます。
- ・今度はこのプリセットメニュー「50H上下B」を削除してみます。
- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを表示」を選んでください。
- ・定義パレットのリスト「50H上下B」を選択（反転）し、定義パレット下段右の「削除」ボタンをクリックしてください。確認のダイアログが現れたらOKボタンを押します。
- ・「プリセットメニュー」から「50H上下B」が削除されていることを確認してください。

* プリセットメニューに関する詳細は「プリセットメニューについて」の章をご覧ください。

(その4)

- ・「その3」において初期設定で作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・もう一度試します。「その3」で50H上下Bと名付けて作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・設定をそのままに、いったん書類上のバーコードをすべて削除してください。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・「その3」で50H上下Bと名付けて作成したバーコードが復元します。

このように照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能です。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェックできますので、必要なら再生してください。

* コード数字と区別できればコード中に任意の文字を挿入可能。(シンボル化されずに、そのまま出力。ただし文字揃えが標準フォーマットの場合は単に無視)ただし、制御コード、'(、)、[、]、¥、および特殊コードを含むシンボルの作成をした場合は、コードのデータだけ「照合」ボタンによるデータの読み込みができません。

「バーコード ROBO 3」で作成したバーコード・オブジェクトはすべてグループ化されていますが、このグループは解除しないでください。もし解除すれば照合機能は働きません。

パレットの設定項目について

コード

チェックデジット表示欄

「プリセットメニューについて」の章を参照。

OCR 文字の出力制御。OFF のときはバーのみ作成。

拡大縮小率(%)

シンボル全体の高さ

黒バー幅の補正値(μ)

これを ON にすると、カスタマイズ用の拡張パレットに。(次ページ)

カスタマイズ

照合

作成

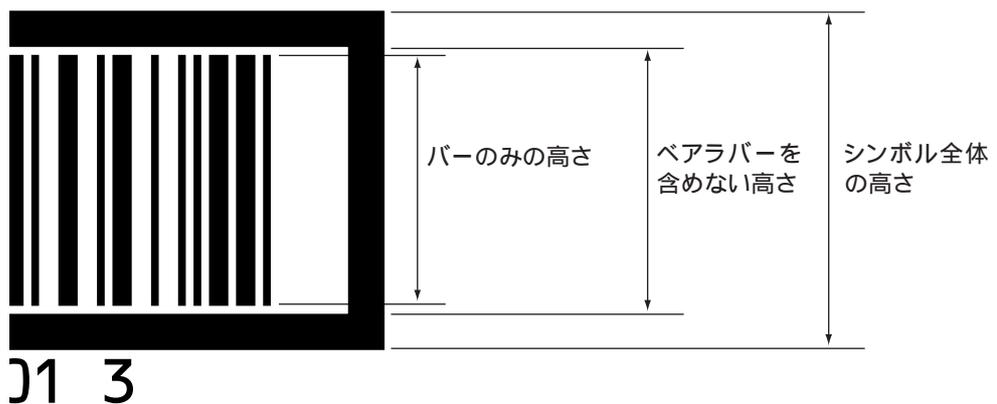
シンボル全体の拡大縮小率。これにともなって各関連項目の数値が増減。

作成実行ボタン。ただしコード入力不正のときは無効。(グレー表示)

いわゆる BWR。この設定値分だけ各バー幅が増減。単位はミクロン(千分の一ミリ)でマイナスで減少。

作成したバーコードオブジェクトを選択状態にしてこのボタンをクリックすると、作成時の設定をパレットに復元。

左のポップアップメニュー項目には「シンボル全体の高さ」「ベアラバーを含めない高さ」「バーのみの高さ」があり、必要に応じてこれらを選択してからその高さを設定。これにともないカスタマイズ部の関連値が増減。(下図参照)



*ベアラバーがないときは「ベアラバーを含めない高さ」は「シンボル全体の高さ」と同じ値

カスタマイズ 照合 作成

細エメント幅(mm):

太エメント幅(mm):

データバー高(mm):

左余白(mm):

右余白(mm):

上余白(mm):

下余白(mm):

ベアラバー上下... mm

フォント:

文字サイズ(pt): 標準

文字揃え:

文字位置(mm):

標準スタートコード位置(mm):

拡張スタートコード位置(mm):

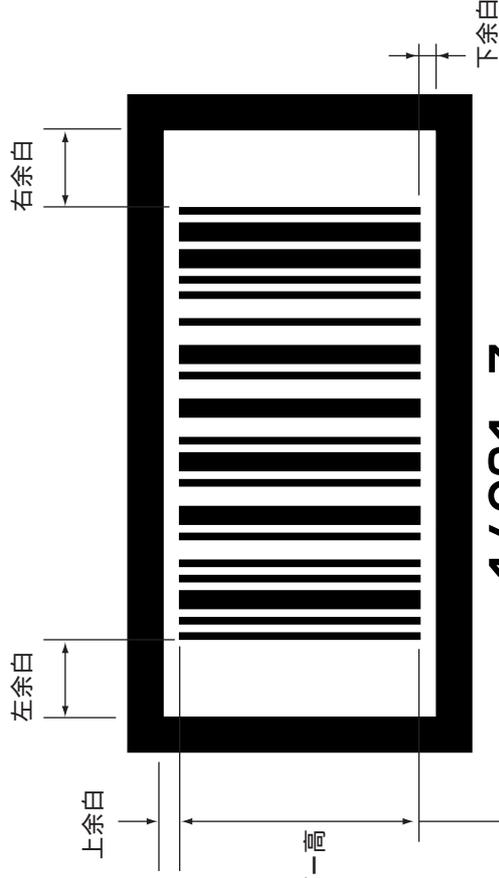
アドオン・スタートコード位置:

文字センタ - 間距離(mm):

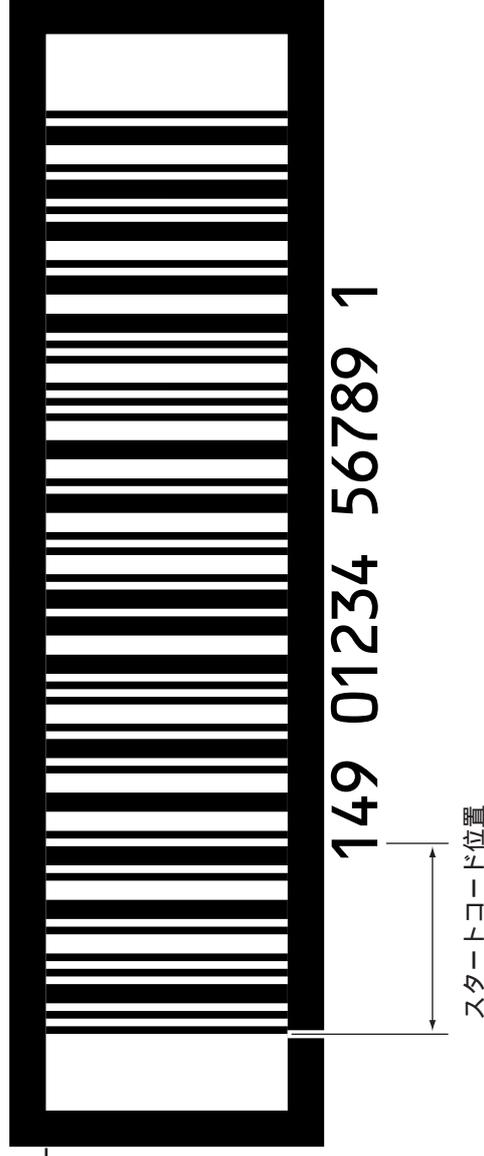
トラッキング(em/1000):

行方向比率(%):

ベアラバーOFFの場合は塗り白、線なしの余白確保のためのフレーム。ベアラバーONの場合は塗りなし。



文字位置 (データバー下端からの距離で通常プラス値)



「文字揃え」の標準フォーマット以外、「トラッキング」および「行方向比率」は Illustrator の文字設定と同様。「文字揃え」の標準フォーマット以外を使用する場合はガード/センタバーをデータバーと同じ長さに設定する。「トラッキング」は「文字揃え」が標準フォーマット以外の場合に有効。文字サイズの「標準」ボタンは初期設定時の「フォント」ことの最適な値を設定。

バーコード ROBO・2of5

何ができるか？

2of5（自由長 ITF）のバーコードを作成できます。

どう動作するか？

指定コード（チェックデジットなし：偶数桁、あり：奇数桁）からオプションによりチェックデジットを自動計算し、対応するバーコードシンボルを Illustrator のオブジェクトとして出力します。

特徴

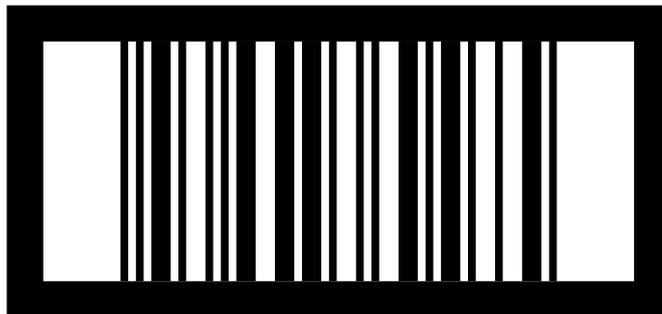
- ・設定 作成はすべてパレットでおこなうので書類編集などと平行作業が可能。
- ・シンボルを構成する各モジュールのサイズや OCR 文字のフォーマット設定が柔軟にできるのでいろいろなスタイルのバーコードが作成可能。
- ・設定をセットメニュー化できるのでカスタマイズしたバーコードが一瞬で呼び出せる。
- ・付属の「組版 ROBO 3」を併用すればデータベースのコードを連続変換出力可能。バッチ処理にも対応。
- ・照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェック。（必要なら再生）
- ・コード数字と区別できればコード中に任意の文字を挿入可能。（シンボル化されずに、そのまま出力。ただし文字揃えが標準フォーマットの場合は単に無視）



チェックデジットなし



チェックデジットあり



123457

基本的な使用例

(その1)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「2of5」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・2of5」を選んでください。
- ・「2of5」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄に8桁（チェックデジットなしなので偶数桁）が入っています。
- ・そのまま「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。

(その2)

- ・新規に Illustrator 書類を開いてください。
- ・「2of5」のタイトルをもつパレットが開いていなければ、「ウインドウ」メニューの「バーコード ROBO・2of5」を選んでください。
- ・「2of5」のタイトルをもつパレットが開きます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「初期設定」を選びます。
- ・コード入力欄に「12345」（チェックデジットをのぞく7桁）を入力してください。
ここで「作成」のボタンが無効になりますが無視します。
- ・「チェックデジット」をオンにしてください。
「作成」のボタンが有効になります。
- ・「シンボル全体の高さ」を「41.4」（単位：mm 以下同）
- ・「カスタマイズ」をオンにしてください。
- ・パレットが拡大して設定項目が増えます。
- ・細エレメント幅を「1.016」、太エレメント幅を「2.54」、「左/右/上/下余白」を順に「10.16」、「10.16」、「0」、「0」にします。
- ・ベアラバーの種類を「ベアラバー上下左右」にし、バー幅を「4.8」にします。
- ・「文字サイズ」を「22.6」pt、「文字位置」を「11.8」にします。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・Illustrator 書類上にパスとテキストオブジェクトから構成されたバーコードが作成されます。
- ・ここでの設定は次の例へ引継ぎますのでそのままにしておいてください。

(その3)

- 「その2」での設定を保存してみます。
- ・パレットの右上のポップアップメニュー（右向き三角アイコン）から「定義パレットを表示」を選びます。以後このポップアップを「プリセットメニュー」と呼びます。
- ・現在のパレットの隣りにさらにパレットが開きます。
- ・定義パレット下段左の「新規」ボタンをクリックしてください。
- ・現在の設定に名前を付けるためのダイアログが開きます。
- ・そのダイアログの入力欄にここでは「ITF5」と入力し「OK」ボタンを押してください。
- ・リスト欄に「ITF5」という行が追加されているはずです。これで、現在の設定が「ITF5」という名称でプリセットメニューに追加されました。
- ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを隠す」を選んで閉じてください。
- ・いったん「プリセットメニュー」から「初期設定」を選び、「作成」ボタンで標準のバーコードを作成します。

- 書類上にできたバーコードを少し下へ移動し、選択を解除しておいてください。
- ・次に「プリセットメニュー」からさきほどの「ITF5」を選んで作成してみてください。この例で最初に作成したバーコードの設定がパレットに読み込まれ再現されます。
 - ・今度はこのプリセットメニュー「ITF5」を削除してみます。
 - ・「プリセットメニュー」の「定義パレットを表示」を選んでください。
 - ・定義パレットのリスト「ITF5」を選択（反転）し、定義パレット下段右の「削除」ボタンをクリックしてください。確認のダイアログが現れたら OK ボタンを押します。
 - ・「プリセットメニュー」から「ITF5」が削除されていることを確認してください。

* この設定のシンボルは ITF (JIS X 0502) の初期設定でコードを「12345」(アドオンバージョン)とした場合と同じものです。

* プリセットメニューに関する詳細は「プリセットメニューについて」の章をご覧ください。

(その4)

- ・「その3」において初期設定で作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・もう一度試します。「その3」でITF5と名付けて作成したバーコードだけを選択状態にしてください。
- ・パレットの「照合」ボタンをクリックしてください。
現在選択されているバーコードが作成されたときの設定がパレットに読み込まれます。
- ・設定をそのままに、いったん書類上のバーコードをすべて削除してください。
- ・「作成」ボタンをクリックしてください。
- ・「その3」でITF5と名付けて作成したバーコードが復元します。

このように照合機能により一度作成したバーコードの設定を再度パレットに呼び戻すことが可能です。これにより作成後にバーコードが改変されたかどうかを簡単にチェックできますので、必要なら再生してください。

* コード数字と区別できればコード中に任意の文字を挿入可能。(シンボル化されずに、そのまま出力。ただし文字揃えが標準フォーマットの場合は単に無視)ただし、制御コード、“()、[]、¥ ”、および特殊コードを含むシンボルの作成をした場合は、コードのデータだけ「照合」ボタンによるデータの読み込みができません。

「バーコード ROBO 3」で作成したバーコード・オブジェクトはすべてグループ化されていますが、このグループは解除しないでください。もし解除すれば照合機能は働きません。

パレットの設定項目について

コード

チェックデジットが必要な場合はONに
チェックデジット表示欄

「プリセットメニューについて」の章を参照。

OCR文字の出力制御。
OFFのときはバーのみ作成。

出力 チェックデジット

拡大縮小率(%): 100

シンボル全体の高さ 6.35 mm

黒バー幅の補正値(μ): 0

カスタマイズ 照合 作成

これをONにすると、
カスタマイズ用の拡張
パレットに。(次ページ)

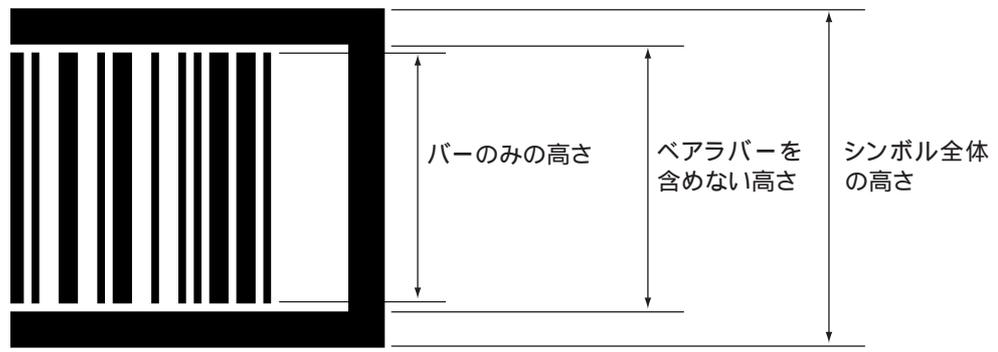
シンボル全体の拡大縮小率。これにともなって各
関連項目の数値が増減。

いわゆるBWR。この設定値分だけ各バー幅が
増減。単位はミクロン(千分の一ミリ)でマイ
ナスで減少。

作成実行ボタン。ただしコード入力不正の
ときは無効。(グレー表示)

作成したバーコードオブジェクトを選択状態に
してこのボタンをクリックすると、作成時の設定
をパレットに復元。

左のポップアップメニュー項目には「シンボル
全体の高さ」「ベアラバーを含めない高さ」「バー
のみの高さ」があり、必要に応じてこれらを選
択してからその高さを設定。これにともないカ
スタマイズ部の関連値が増減。(下図参照)



01 3

*ベアラバーがないときは「ベアラバーを含めない高さ」は「シンボル全体の高さ」と同じ値

カスタマイズ 照合 作成

細エッジ幅(mm):

太エッジ幅(mm):

バー高(mm):

左余白(mm):

右余白(mm):

上余白(mm):

下余白(mm):

ペアラバー-上下... mm

フォント: 標準

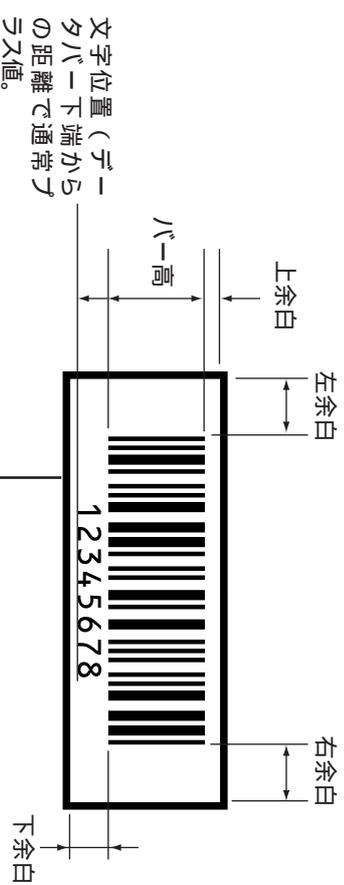
文字サイズ(pt): 標準

文字揃え:

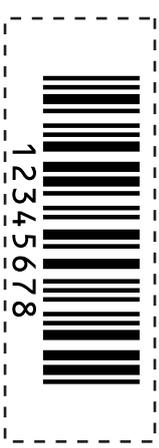
文字位置(mm):

トラッキング(em/1000):

行方向比率(%)



ペアラバー-OFFの場合は塗り白、線なしの余白確保のためのフレーム。ペアラバー-ONの場合は塗りなし。



「文字揃え」の標準フォースレット以外、「トラッキング」および「行方向比率」はIllustratorの文字設定と同様。「文字揃え」の標準フォースレット以外を使用する場合はガード/センター/バーをデータバーと同じ長さに設定する。「トラッキング」は「文字揃え」が標準フォースレット以外の場合に有効。文字サイズの「標準」がタブは初期設定時の「フォント」ごとの最適な値を設定。

プリセットメニューについて

プリセットメニューとはパレットの右上にある右向き三角形アイコンのポップアップメニューのことです。

パレットの設定に名前をつけて保存し、その名前をこのポップアップメニューのメニュー項目として追加することができます。そして次からはそのメニュー項目を選択するだけで保存し



ておいた設定（プリセット）をパレットに読み込むことができます。

メニュー項目の「定義パレットを表示」を選ぶとプリセット定義用の下図のようなパレットが現れます。

では、このパレットでプリセットメニューの登録、変更、削除について説明します。

（新規に登録するには）

現在の設定に名前を付けてメニュー化するには、リスト下部の新規アイコン（Illustratorのパレットと同じです）をクリックします。

名前を入力するダイアログウィンドウが現れますので適当な名前を付けてOKボタンを押してください。

これで現在の設定がプリセットメニューとして登録されます。

（登録内容を変更するには）

変更するリスト行を Macintosh では「Option キー + クリック」、Windows では「Alt キー + クリック」してください。

名称を変更するダイアログウィンドウが現れますので必要なら改名してOKボタンを押してください。

現在の設定とその名称が登録されます。

メニュー項目名だけ変えたい場合はあらかじめ



登録削除ボタン
新規登録ボタン

そのプリセット内容（設定）を読み込んでおく必要があります。

リスト行をダブルクリックするとそのプリセット内容（設定）を読み込みます。

（登録を削除するには）

削除する設定の名称のリスト行を 1 回クリックして反転してください。（リストの選択状態）
Macintosh ではコマンドキーを、Windows では Ctrl キー押しながら複数選択したり、シフトキーを押しながら連続選択したりできます。

リスト下部の削除アイコン（Illustrator のパレットと同じです）をクリックします。

確認ダイアログウィンドウが現れますのでよければ OK ボタンを押してください。

これでその名称の設定がメニュー項目とともにプリセットメニューから削除されます。

プリセット定義パレットを隠すにはプリセット・ポップアップメニューから「定義パレットを隠す」を選ぶかパレットのクローズボックスをクリックしてください。

なお、このパレットを出したままにしておくと、リスト行のダブルクリックで設定が読み込まれます。（ポップアップメニューを選択するのと等価）ただし、他のパレットからプリセット定義パレットを開こうとしたときに、混乱を防ぐために現在開いているプリセット定義パレットは強制的に閉じられます。

バーコードを印刷する際の注意

「バーコード ROBO 3」を用いて作成した各バーコードシンボルは、Illustrator のオブジェクトです。

つぎに印刷時に重要な要素となる事柄について述べます。

黒バー幅の補正值について

「黒バー幅の補正」とは、いわゆる BWR (Bar Width Reduction) のことで、これは実際の製版や印刷の過程でバー幅の理論値 + 許容誤差を保つことが困難な場合に設定する項目です。例えば最終仕上がりの太りを考慮してあらかじめ全黒バー幅を 6 ミクロンだけ細くしておきたいときには「-0.006mm」と入力します。このとき結果として全白バー（地模様）幅は 0.006mm だけ太くなります。

ただし、これはあくまでも計算値であり、フィルムマスター段階での精度はイメージセッターの出力解像度に左右されます。

バーコード印刷の仕上がり品質は、製版や印刷の方式、条件等によって変化します。したがってバー幅の補正については、実際の印刷所へご相談ください。

出力解像度について

フィルムマスターレベルで最低 2400dpi、できれば 3600dpi 以上での出力をお勧めします。

一方、一般の 600dpi 程度の PS プリンターによる出力でも補正なしでスキャナによる読みとりは十分可能です。しかし、その出力を版下などに使用することはお勧めできません。

作成後の拡大縮小について

Illustrator のツールによるバー幅に影響が及ぶ拡大縮小は避けてください。

集版ソフト上での拡大縮小は避けてください。

製版カメラによる拡大縮小は避けてください。

その他のご注意

バーコードは非常にデリケートです。当ソフトウェアで作成するバーコードはイラストレーターのパスとテキストによるグループオブジェクトです。

書類上の移動などの操作は必ず選択ツール（黒塗り矢印）でおこなってください。ダイレクト選択ツール（白ヌキ矢印）による部分選択による操作はご自身の責任においておこなってください。

また、いずれのバーコードも、正しく読み取るためには左右に最小限決められた余白（マージンまたはクワイエットゾーンと呼ぶ）が必要です。原則として本ソフトウェアの初期設定値または指定計算値より小さい値を設定しないでください。

バーコードを使用する際の注意

社内または個人使用の場合を除き、一般の流通ルートに乗せる商品に JAN コードを付ける際には事前に登録しメーカーコードを取得する必要があります。商工会議所または商工会が、(財)流通システム開発センター/流通コードセンターから委託を受けて登録手続きをおこなっています。また ISBN コードについては日本図書コード管理センターへお問い合わせください。その他のバーコードを使用する際にも関係機関へお問い合わせください。

対応バーコードについての概要

JAN/EAN

食品、雑貨を中心に流通情報システム用として最も一般的に使われているシンボル。

13桁の標準バージョンと8桁の短縮バージョンがある。短縮バージョンは、商品が小さくてシンボルの配置場所を確保するのが困難な場合に使用される。

- ・使用キャラクタ：いずれも0～9の数字
- ・標準バージョンの構成：先頭2桁はフラッグ（日本は49または45）、次の5桁はメーカーコード、次の5桁は商品コード、最後の1桁はチェックデジット
- ・短縮バージョンの構成：先頭2桁はフラッグ（日本は49または45）、次の4桁はメーカーコード、次の1桁は商品コード、最後の1桁はチェックデジット

*EANはヨーロッパでの流通統一シンボルの呼び名で、先頭2桁のフラッグが異なるだけ。

UPC(A)/UPC(E)

米国での流通統一シンボル。

12桁のAバージョンと8桁のEバージョンがある。Eバージョンは、商品が小さくてシンボルの配置場所を確保するのが困難な場合に使用される。

- ・使用キャラクタ：いずれも0～9の数字
- ・Aバージョンの構成：先頭1桁はシステムキャラクタ、次の5桁はメーカーコード、次の5桁は商品コード、最後の1桁はチェックデジット
- ・Eバージョンの構成：先頭1桁はシステムキャラクタ、次の6桁は情報コードだが、システムキャラクタが0の場合だけUPCコードの中に現れる0を省くという特別な方法でエンコードされている。例えばメーカーコード-商品コードが12300-00045なら123453とエンコードされる。最後の1桁はチェックデジットである。

書籍 JAN,ISBN/ 分類価格コード

書籍 JAN は2段のバーコードシンボルからなりそれぞれのシンボル化の方法は JAN13 と同じ。1段目のコードキャラクタの構成には ISBN、2段目のコードキャラクタの構成には分類価格コードを含む。ISBN/ 分類価格コードは機械読み取り可能な OCR-B フォントでなければならない。

- ・ISBNコードの構成：ISBNの文字に続き次の10桁からなる。(区切りはハイフン) グループ記号(可変長)- 出版社記号(可変長)- 書名記号(可変長)- チェックデジット(1桁)
- ・分類コードの構成：英字のCに続き1桁の販売対象コード、次の1桁は発行形態コード、次の2桁は内容コード。
- ・価格コードの構成：欧文円マーク(JISキーボードのキーにある¥ではない)に続き価格(円単位) 末尾は英字のE。
- ・1段目 JANコードの構成：978に続き、ハイフンとチェックデジットを取った9桁のISBNコード、末尾はこのJANコードとしてのチェックデジット。
- ・2段目 JANコードの構成：192に続き、4桁の分類コード、次に5桁の価格コード(価格が5桁に満たない場合は頭に0をつけて埋める、ただし99999を越える場合は00000) 末尾はこのJANコードとしてのチェックデジット。

NW7

衣料品、宅配伝票などに広く利用されている。

- ・使用キャラクタ：A～Dの英字(スタート/ストップコード用)、0～9の数字、-(ハイフン)、\$(ドル)、(コロン)、/(スラッシュ)、.(ピリオド)、+(プラス)
- 太エレメント幅と細エレメント幅の比率は2.0～3.0の範囲。

キャラクタ間ギャップは細エレメント幅以上とする。

クワイエットゾーン（左右の余白）の幅はスタート/ストップキャラクタの幅以上とする。
すなわち、

$(\text{スタート/ストップキャラクタの幅}) = (\text{細エレメント幅}) \times 4 + (\text{太エレメント幅}) \times 3$
であるから、左右の余白はこれ以上とする。

CODE39

自動車、鉄鋼、電子機器業界において EDI (Electronic Data Interchange) として利用。

・使用キャラクタ：* (アスタリスク、スタート/ストップコード用)、0 ~ 9 の数字、A ~ Z の英字、- (ハイフン)、. (ピリオド)、スペース、\$ (ドル)、/ (スラッシュ)、+ (プラス)、% (パーセント)

太エレメント幅と細エレメント幅の比率は 2.0 ~ 3.0 の範囲。

キャラクタ間ギャップは細エレメント幅以上とする。

クワイエットゾーン（左右の余白）の幅はスタート/ストップキャラクタの幅以上とする。
すなわち、

$(\text{スタート/ストップキャラクタの幅}) = (\text{細エレメント幅}) \times 6 + (\text{太エレメント幅}) \times 3$
であるから、左右の余白はこれ以上とする。

CODE128

EDI (Electronic Data Interchange) の普及にともない CODE128 が広く使用されようとしている。

・使用キャラクタ：ASCII128 文字、ファンクションキャラクタ

コードセット A、B、C の 3 種がありスタートキャラクタによって指定する。コードキャラクタとシフトキャラクタによってコード途中のコードセットの変更ができる。

クワイエットゾーン（左右の余白）の幅は、最小モジュール幅の 10 倍か 2.54mm のいずれか大きい方の値以上とする。

ITF

流通業界を中心とした物流情報システムに利用される。また工業用、情報処理用としても広く利用されている。14 桁の標準バージョン、16 桁の拡張バージョン、6 桁のアドオンバージョンがある。アドオンバージョンは他の 2 つに連続して使用される。

・使用キャラクタ：いずれも 0 ~ 9 の数字

2of5

物流用やビデオのバーコード予約用に利用されている。

・使用キャラクタ：いずれも 0 ~ 9 の数字

チェックデジットは必須ではないが、各キャラクタがバーとスペースの交互の組み合わせによるというシンボルの構成上、コードは常に偶数桁である。

バーコードに関する参考文献

JAN13、JAN8 について

『共通商品コード用バーコードシンボル JIS X 0501』

「財団法人 日本規格協会」発行

NW7、CODE39 について

『バーコードシンボル - NW-7 及びコード 39 - 基本仕様 JIS X 0503』

「財団法人 日本規格協会」発行

CODE128 について

『バーコードシンボル - コード 128 - 基本仕様 JIS X 0504』

「財団法人 日本規格協会」発行

ITF について

『物流商品コード用バーコードシンボル JIS X 0502』

「財団法人 日本規格協会」発行

書籍 JAN,ISBN/ 分類価格コードについて

『コードが変える出版流通 ISBN のすべて』

「日本エディタースクール出版部」発行

UPC(A)、UPC(E)について

『U.P.C. SYMBOL SPECIFICATION MANUAL』

「UNIFORM CODE COUNCIL,INC.」発行

バーコード全般について

『知っておきたいバーコードの知識』

『月刊バーコード』

いずれも「日本工業出版」発行

サポート

本製品に関するお問い合わせは下記の通りお願い致します。

お問い合わせ方法

技術的なご質問は先ず、次ページ「問い合わせ用紙」にご記入の上、ファクスまたは封書でお送りください。最も迅速にかつ的確に回答させていただけると存じます。

お問い合わせの前に

- ・ご質問の前に、本マニュアルをよくお読みになってください。
本マニュアルの補足または訂正等が「組版 ROBO 3」または「バーコード ROBO 3」のディスク内のファイルとして追加されている場合があります。その場合は必ずディスク内のファイルの方も合わせてお読みください。
特に「組版 ROBO 3」に関しては「レコード順次取り込み」の章の最後にある「利用可能なデータベースファイルについて」を、また「バーコード ROBO 3」に関しては「バーコードを印刷するにあたって」の章をよくお読みください。
- ・以下の場合には、お問い合わせに対する回答ができませんのでご了承ください。
 - 1) お問い合わせの内容に対する不備
 - 2) OS や Adobe Illustrator そのものに関するご質問
 - 3) 各バーコードの基本仕様 / 規格に関するご質問（「バーコードに関する参考文献」の章参照）
 - 4) 本製品の指定環境外でのお問い合わせ
 - 5) 本製品の内部的な非公開情報に関するご質問

お問い合わせ先

株式会社フラッシュバック

電話：03-5474-0268

受付時間：祝祭日を除く月～金曜日の 10:30～17:00（年末年始は休ませていただきます。）

ファクス：03-5474-8279

〒106-0032 東京都港区六本木 4-11-4 六本木ビル 2F

ご意見、ご要望等も是非お寄せください。貴重な資料として今後の製品開発に反映させていただきます。

問い合わせ用紙

以下「ファクス」までは内容が満たされていれば任意形式で結構です。コピーしてお使いください。

また、同一内容のものがディスクファイルとしてもあります。

> お名前 :

> ふりがな :

> 会社名 (法人登録のみ) :

> 部署 (") :

> 住所 :

> 電話 :

> ファクス :

> 機種名 :

> 内蔵メモリ容量 : メガバイト

> OS 名および OS のバージョン :

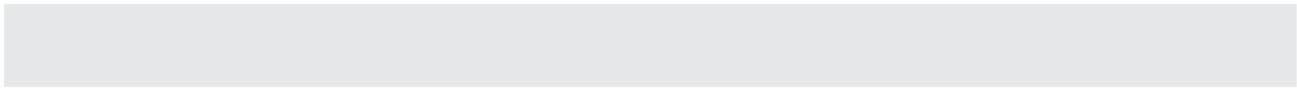
> Adobe Illustrator のバージョン : () . () . ()

> 本製品のシリアル番号 :

> 問い合わせのウインドウ名 :

> 問い合わせの要点 :

(必要に応じ出力結果もしくは画面ショットのコピー等を添付してください。)



Barcode ROBO 3, Kumihan ROBO 3 User Manual

1/9/1998

1994-1998 NAKAE SOFTWARE DEVELOPMENT Corp. All rights reserved.

Printed in Japan.

企画・開発・発売：有限会社ナカエソフトウェア開発
総販売代理店・サポート：株式会社フラッシュバック
<http://www.flashbackj.com>